

令和五年八月一日発行 (毎月一日発行)
創刊大正十三年 通巻一一五五号

川柳塔



No.1155

八月号

日川協加盟

第29回 川柳塔まつり

とき 2023年(令和5年)10月7日(土)

開場:午前11時 出句締切:正午 開会:午後1時

ところ ホテル・アヴィーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 (近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《同人総会・議事》午前10時より

2022年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2023年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《各賞表彰式・記念句会》

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし フレイル予防のための「食」と「社会参加」

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部教授 井 尻 吉 信 氏 選

兼 題 「刻 む」 川柳塔社 藤 井 智 史 選

「まっすぐ」 川柳塔社 藤 田 武 人 選

「揺 れる」 川柳塔社 大久保 真 澄 選

「未 来」 川柳塔社 来 原 道 夫 選

「 笛 」 番傘川柳本社 片 岡 加 代 選

事前投句 「自由吟」(8月31日必着) 川柳塔社 小 島 蘭 幸 選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させて頂きます

出句締切 正午(午後5時頃終了予定) ※各題の「天」位に賞呈

◎会費 2,000円(当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎呈 記念品

《懇親宴》

とき 令和5年10月7日(土) 午後5時~7時

ところ ホテルアヴィーナ大阪 3階 葛城の間

☆会費 7,000円 先着申込み 130名様

*事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷り込みのハガキ(ご希望の方は事務所)にて8月31日(木)までに本社事務所宛、お送りください。

*会費は当日受付でお願いします。

*新型コロナの情況により中止せざるを得ないときはご容赦願います。

主催 川柳塔社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201
〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490

やつさ川柳会

小島蘭幸

やつさ川柳会50周年記念句会が、7月9日に三原市の商工会議所で開催されました。祝宴があるので私は呉線で出席する予定でしたが、大雨警報が発令されていて始発電車から運休でしたので車で出席しました。

午前11時、吉永團風やつさ川柳会会長の挨拶ならびに来賓紹介で記念句会は始まりました。来賓として出席される予定だった岡田三原市長は、大雨、災害に備えて市役所で待機するとのことでした。

奇跡から生まれ半世紀を祝う

蘭幸

昭和48年10月6日、山内静水竹原川柳会会長宅で竹原川柳会10月句会が開催されました。三原青年会議所の皆さん7名が出席されました。冒頭の2句は、席題「母」三宅不朽選の人選句です。昭和48年9月1日、「おはようラジオ」で山内静水会長が5分間、川柳のお話をされました。たまたまこの放送を当時20代だった三原青年会議所の下門某子さんが聞いておられたのです。平成2年3月、合同句集「千鳥足」発刊記念の会が開催されました。入院中だった静水会長は仮退院をされて、私と一緒に出席しました：続いて平野笑迷やつさ川柳会前会長の乾杯の音頭で祝宴は始まりました。二段重の豪華な料理と酒、話は弾みます。祝宴が落ち着いてからいよいよ選句発表です。私は「自由吟」の選をしました。

来賓祝辞の中で私は、懐かしい話を願いしますと言わっていたので次のように話をさせていただきました。：やつさ川柳会50周年おめでとうございま

むかしから母と呼ばれる女強し
母ちゃんと呼び名も変る二人きり

昌明 篤

大東東大三原商工会議所副会頭の閉会の挨拶で乐しかった記念句会は終了しました。

この度の集中豪雨により甚大な被害に遭われました皆様にお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

川柳塔社

座右の句

俺に似よ俺に似るなど子を思ひ

麻生路郎

私の句

新機種の洗濯機にも水は要る

武田悦寛

川柳塔 八月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田尋「内子座・愛媛」

■巻頭言 やつさ川柳会

小島蘭幸：(1)

画狂を貫いた父と支え続けた三女お栄

三上大輪：(2)

川柳塔(同人吟)

小島蘭幸選：(4)

菠蘿草の花

野沢省悟：(37)

誹風柳多留一三篇研究

36

自選集

：(40)

句集の森

永宗宗義：(43)

温故知新

木本朱夏選：(43)

水煙抄

木本朱夏選：(44)

愛染帖

吉村侑久代：(61)

檸檬抄「順」

江島谷勝弘・永見心咲共選

：(66)

画狂を貫いた父と 支え続けた三女お栄

川上大輪

何気なくTVを見ていると、英雄たちの選択「森羅万象に挑んだ絵師、画狂・葛飾北斎」が目に飛び込んで来た。絵師葛飾北斎は世界的にも有名だが、柳人としての北斎はあまり知られていない。しかし誹風柳多留85編の撰者と「序」を記し、三百五十九余の句を残している。

川柳に関しては昭和54年に渋温泉旅館組合から宿六心配氏が『正北斎川柳』を出版されているので、是非ご一読を。北斎が人気絵師となつたのは40歳を過ぎてから。名前を確固たるものにしたのが55歳の時に刊行した『北斎漫画』だ。

70歳を過ぎた頃、ベロ藍という絵の具が輸入された。そのベロ藍から生まれた『富岳三十六景』は北斎の新境地を開き、90歳までひたすらに絵を描き続けた。そこにはもう一人の人物がいた。それが北斎の三女お栄だ。号は葛飾応為。それが北斎の三女

一路集 (「コンビ」)	丹下凱夫選	(70)
「脱 ぐ」	大内せつ子選	(71)
初步教室「乗り物」	平井美智子	(72)
川柳塔鑑賞	安土理恵	(74)
水煙抄鑑賞	松岡 篤	(76)
橋高薰風句集『肉眼』	松岡	(77)
路郎賞・川柳塔賞	選考規定	
インスピレーション・ナビ 印象吟	大西泰世	(80)
『麻生路郎読本』余滴	乗原道夫	(82)
せんりゅう飛行船	新家完司	(84)
七月本社句会	大西泰世	(85)
各地柳壇 (佳句地十選/安福和夫・米澤淑子)	乗原道夫	(90)
柳界展望	新家完司	(103)
八月各地句会案内	大西泰世	(104)
■編集後記 (ひとこと/三谷松太郎)	道夫・憲彦・国和	(106)
座右の句		
ぬぎすててうちが一番よいという	岸本水府	
私の句		
正直な家に舞込む福の神		
北野クニオ		

きにいつもおーいおーいと呼んでいたので、その名が付いたようだ。お榮は父北斎も、美人画では敵わないと唸るほどだったと言う。

75歳を機に北斎は雅号を画狂老人^{アシ}と改め、「一点一画にして生けるがごとく描きたい」と、版画ではなく肉筆画へと傾倒して行く。

信州小布施には北斎入魂の肉筆画が多く残されている。北斎の絶筆と言われる富士越龍。(嘉永2年、北斎90歳)

この絵を描いたのは北斎が亡くなつた年、龍は死期を悟つた北斎の姿とも。この絵が描かれた3ヶ月後、お榮は父北斎を看取る。

いまわの際、北斎は「あと10年、いやあと5年の命があれば真の絵描きとなれたものを」の言葉を残したが、5年10年寿命が延びたとしても同じことを言つただろう。目の前にある満足感の一歩手前が一番幸せだったのかも知れない。

北斎辞世の句

悲と魂でゆく氣散じや夏の原

川柳榜

堺市内藤憲彦

梅雨の色多情多恨の花しようぶ
ありがとうごめんなさいで無事老いる

A.I.が名人になる日が近い

公私混同世襲の弱さ出した总理
どしや降りに僕の車を洗わせる
川柳に焼き餅やいている妻よ

松江市石橋芳山

一円と五円が行き場なく溜まる
気に入らぬ人は渋柿でいなさい

白桃の産毛にため息が漏れる

トゲトゲの空気で満ちている小部屋

濡れていくほどに淋しい夜の雨

岡山市工藤千代子

黄薔薇は言いたい事を迷わない

カレー鍋小さくなつた匙ふたつ

布団干す命の匂いするように

小島蘭幸選

雨続く何も無い日のハーブティー
今日ひと日時計を捨てて中島潔

良妻の仮面捨てたり拾つたり

三原市 笹重耕三

子に渡すバトンが横たわる荒れ地
夢を追う風は一年中まつり

母の日は暮れても父の日は明けぬ

景色も頬張る自肅明けの車窓

まだ悩みあつて平和な脳回路

家計簿へいまだ続いている余震

桜井市 安土理恵

八月は暑い焼かれた空は尚熱い

思い出す顔は無邪気に笑つてゐる

世界のトップに媚びたりしないヒロシマは
涙まで染める八月の赤い花

大丈夫とにかく生きてますわたし

生きてる限り責任もつて愛さねば

堺市棄原道夫

少年よ千匹の蝶を飛ばせ
半過去でばんばんになるランドセル

体内で光り始めてきた蛍
亡き人を問い合わせてきる夢の中
踏切を待つている間の旅ごころ
自転車を宥めています帰り道

大阪市

高杉

力

情けには情けで返すほかにない
いざという時にみつからない輪ゴム
ニュートラルな私に色を付けたがる
笑つてはいるが油断はしていない

面倒なことはバスタオルで包む
遮断機が上がると新しいゲーム
雑草は伸びる挿し木は芽を出さぬ
梅檀の花ほんやりと午睡する

倉吉市

牧野芳光

内緒だと魔女と契つてからの鬱
夜が来る一度のズルが重たいな
太陽がボクを裸にしてしまう
越えましょう神が与えた壁ならば
吹き消してはならぬ心にある炎
しがらみは切れない百均のハサミ
いつだつて出せる白旗持ち歩く
着信の鳴らぬスマホへ猫パンチ
父の食器軽く割れない物にする
どうしたと訊くからどうかしないとね
テレビへと耳を傾け鮭を焼く
雨あびる傘太陽をあびる傘
ぱんと咲くアガパンサスの青花火
終章のなかなか書けぬ顛末記
毎日が小さな幸の採集日

鳥取県

斎尾

くにこ

血液はさらさら脳はべとべとに
じっくりと煮つめて僕の味にする
エンディングノートにも書けない秘密
はびこるまでは歓迎される月見草

枚方市

柄尾奏子

大阪市

平井

美智子

王冠も輝きももうキミのモノ
ライバルの頭上に月があるのだな
才能という神さまの依怙蟲

もう少し待つてよきつと笑うから
伝わらぬ想い背負つてカタツムリ
淋しさを重ねて闇を舞う蛍

河内長野市 森 田 旅 人

残り半年愛車手放す日を数え
家中のカーテン縫つて陽の優し

巡礼の道完歩の友に受く刺激

サンティアゴ・デ・コンポステーラ

往きたい

九十五歳歌人の全てチャーミング

赤白青紫陽花屋敷蝸牛

横浜市 川 島 良 子

孫に逢う夏 北海道での夏

失格の涙歓喜の涙へと繋ぐ

地盤看板カバン 世襲政治にみる驕り

何か違う違う違うと今日も暮れ

本当の理由は他にありそうだ

ひと言が重たい空気変えました

富田林市 中 村 惠

師のことば襟を正して聞いている

わたしにもあるデリケートな感性

腹が立つ自分の中の嫉妬心

真夜中の時計むかしを語りだす

未来図に父母もわたしももういない

その時は笑顔のままで立ち枯れる

今日開ける扉に貼ろうニコマーケ

洗つても欲を盛る手が生臭い

割烹着似合う昭和のお母さん

東かがわ市 川 崎 ひかり

目に見える物だけ信じ生き辛い

ポケットにスマホ入つて安堵
俾せを入れるポケット深く縫う

寝屋川市 伊 達 郁 夫

青い星少し汚して秋刀魚焼く

大声で泣いても海はまだ広い

筍を茹ると夏が笑いだす

苦笑い君も淋しい人なんだ

酒飲んで身体の調子確かめる

冷たい手温い手どれも私の手

鳥取市 吉 田 弘 子

敬老会参加してまた歳をとる

手も足も腰も真っすぐ曾孫の絵

寒暖差太刀打ちできぬ歳自覚

ものいいの決め手付度ないビデオ

Vサインのボーズ殆んど笑顔です

コーヒ一党の夫へコーヒーの香の線香

三田市 上 田 ひとみ

雨の中別れた人の声がして

ひたすらにキヤベツ刻んでいるラジオ

ポケットの中に残つていた涙

コーヒーはブラックなんて笑わせる

強がつてごめんそれでも好きでした

あなたからさよなら言つて欲しかった

鳥取市 岸 本 宏 章

竹の花咲いたニユースが気を揉ます
朝昼夜きつちり食べるのも日課

スーパーの撤退続く過疎の町

自信ある人は弾きたい駅ピアノ
免許証返納させたのは家族

冗談じやないよ年金上げてくれ

箕面市 中 山 春 代

荷を解く前にありがとうの電話
目に汗が入る剪定ボランティア

残り物の他は一品冷奴

大根が行つてブリ大根が来た

貝塚市 石 田 ひろ子

健やかに生きた証しの背の丸み
趣味のお蔭心に齡は取らせない

ヤングケアラー昔は当り前のこと
ネイルアート米寿をちょっと弾ませる

父の日の何事も無く夕御飯

ひと時の心遊ばす時代劇
大袈裟な封書で届くコロナ便
紫陽花は雨待ち私咲くを待つ

三田市 中 山 昭 美

につこりは誰でも出来るボランティア
遺産分け他人行儀な口になり
簡単に転び日常遠ざかる

越谷市 久保田 千 代

立ち位置を知つて静かに風受ける

踏み出した一步が変える空の色

積んで来た歴史を崩す地異続く

生きるのも死ぬのも定めおぼろ月

運不運ただまつすぐにつつすぐにつつすぐ

寂しくないかケータイだけが友達で

西予市 黒 田 茂 代

一輪挿しの出番が増えた春の章

山里の花は自分のために咲く

同じもの美味しい時と不味い時

脆弱なこころ壊れぬよう生きる

わたくしの欲が絡んで曲がった木

受け継いで自分の番を生きている

大阪市 宮 崎 シマ子

誕生日いちごもらつて嬉しいな

家出した子の靴もハンガーもそのまんま

家も親も友達もいない古里よ

十年たつてもヨガの動きを忘れない

川柳に出席したい皆の顔みたい

一人になると泣き虫の私

松江市 藤井寿代

岡山市 丹下凱夫

華のある人生だった泣いたけど
六月の雨私には似合わない

生きてて良かつた指折り数え孫の拳式

勝負よりコートに立てる有難さ

雨音をショパンに変えて昼寝中

松江市 松本知恵子

岡山市 前田恵美子

ネコの水忘れぬよう梅雨に入る

原爆の恐怖見る知るG7

資料館視察首脳の顔変わる

被爆地でサミット緑溢れてる

手話があるメールも伝えたい言葉

岡山市 伊藤玲峰

笠岡市 藤井智史

穏やかな五月出雲大社の大祭禮

運転免許返上したら寂寂と

老いすすみ送る役かな残されて

友の絵の展覧会に誘い合う

久しぶり元気な友と語り合う

岡山市 大石洋子

岡山県 高岡茂子

ありつけヘルスグッズを買いあさる

古希すぎて迷路のなかで立ち往生

死に神と綱引きをして腰痛い

私は小さくなつて木々育つ

生きている証しルージュは「まつ赤」

けつたいな神様もいる善光寺
御利益はないが手だけは合わせて
いる

一日中雨をながめて一行詩

二、三匹オタマジャクシの金魚鉢

あおいろのあじさいが好き雨が好き

呆け防止子猫の声で起こされる

猫のミルク小さい缶がバカ高値

梅取りも大木のため命綱

梅取りの夜は足痙れ呻く夫

ジャガ芋と梅と子猫で日が暮れる

3.14の……愛

湿り気が多いと愛のセミダブル

四季という書齋代わりの電車旅

生温いビールじや酔えぬ夜勤明け

搖るぎない愛を遺す句碑公園

岡山県 高岡茂子

四年振りの友は大雨つれて来た

白鷺が自己主張する田植水

パリ祭近づくシャンソン聴けるかも

新緑に囲まれていた田中館

マスク外しバックミラーでつける紅

岡山県 藤澤照代

断捨離の最後に残るのはわたし

魅せる雨喜ばす雨泣かす雨

老いの耳ある時遠くまた近く

平凡な暮らしへ夫婦手を繋ぐ

天国へ電話が欲しい寂しい夜

広島市 岸本清

10歳は若く見られるこの帽子
このツユであそこの麺が食べたいな

忘れたら楽になるのに思い出す

寒暖差疲労に悩む老夫婦

想像だにせぬことを夢見る不思議

尾道市 小川道子

辛抱しんぼう齢八十六

水溜まり幾つも跳んで今此處に

涙ひたひた一日が長かつた

いにしえの憧れひとつ抱く命

長らえて共に歩いた影法師

尾道市 小畠宣之

青春時代負けるものかと尖つてた

絶対は無い太陽も燃え尽きる

人生の節目節目に恩人が

蟻の列輸送隊いや軍隊か

八十路坂縦列駐車苦手です

それぞれに思い出のある帯の数
新婚を社交ダンスで思い出す

すれ違う心はいつも雨模様

セルライト消すぞ筋トレ2年生

飛び込まぬZ世代の冷静さ

岩国市 上村夢香

こども等のよさこい踊り晴れの空
ひとり旅どんなドラマが待つのやら

主人公になつてひとりのシネマ館

夢は夢と開き直つて言いきかせ

会うたびに同じはなしで盛り上がる

防府市 坂本加代

初体験コロナ禍の世をくぐり抜け

サムライの兜世界に知れ渡る

クールだね外国人の誉め言葉

雨の日はしんみり深い句が出来る

動かねば景色変わらぬ常ならず

鳥取市 池澤大鯰

漠然と山の形が見えてきた

暴走を許す市民へ不安がり

ばくぜんと不安感じる軍拡に

漠然と不安はあるが認知症初期
緊張のとけるときあり息抜きす

山口市 兼崎徳子

鳥取市 奥 田 由 美

鳥取市 谷 口 回 春 子

お婆さんからシニアシートを譲られる

気が早いハエが二歳に叩かれる

耳鳴りと不協和音のセミしぐれ

縁談があふれるボチは適齢期
ブランドの傘なら買えるパート給

鳥取市 岸 本 孝 子

鳥取市 永 原 昌 鼓

気休めに肉と魚は日替りで

生真面目に打つも打つたと六回目

句会でもマスク自由と告げられた

何となく落ち着いてきた夏布団

新聞に脳トレセよと急かされる

鳥取市 田 賀 八 千 代

鳥取市 中 村 金 祥

王冠の重みは民の重い声

線状帶鬼のホースか凄まじい

タイガース寅年去つてよく跳ねる

素人の剪定囁うカラス達

梅雨寒へやつぱり熱いお茶が良い

鳥取市 棚 田 大

鳥取市 福 西 茶 子

時計にも生かされているありがたや

講演に時計気になり見入っちゃう

心こめ無事を祈るも実らない

えつ旅行その言葉聞き元気湧く

春もまた俺を育てる大感謝

やつと人並み苦楽を俱に五十年

ヒーローになつた途端に目が覚めた

愛妻が雅号で呼んだやる気湧く

裸越しいないと思つた人がいた

愛妻とラブのサイズはぴつたりだ

イケメンも歳には勝てぬ背が丸い
食べる物おいしうちはまだ元気
一見の価値あり砂の美術館
一人住みバスもトイレも一人じめ
老い一人ちよつとの音にギヨツとする

鳥取市 中 村 金 祥

鳥取市 前田楓花

おーいスズメ田舎はいいぞ餌がある

大の字でれんげ畠の草いきれ

お疲れさん湿布貼り合う風呂上がり

開発の裏で地球は傷だらけ

来る人は両手広げてウエルカム

米子市 池田美穂

式終えた二人新芽は出たばかり

すぐ怒る息子よボケになりますよ

脳ドック行くのが怖いもの忘れ

脳内の柳句工場フル稼動

コーヒーの伴に奈良漬けマイブーム

米子市 伊塚美枝子

旅支度三年前にできてます

コロナ明け自粛し過ぎて出不精に

出不精にフェイスブックの花便り

重い腰上げて誘われ旅に出る

紫陽花の笑顔が見える今朝の雨

米子市 後藤宏之

美人ではないがよく来た角の店

めでたくもないがたまには豆ごはん

表情がかたい鏡を見て笑顔

変らないねと見えすいたお世辞言う

仲のいい友でも少し距離をおく

米子市 後藤美恵子

特殊詐欺胆に銘じる侘しい世

移住者が過疎に希望の種を播く

味のあるレトロな店がたたまれる

数粒の薬が潜む炬燵あげ

連休明け体調くすす遊びすぎ

鳥取市 倉吉市

山下凱柳

鳥取市 大羽雄大

倉吉市

境港市 藤原久直

丈夫な歯季節の味を囁みしめる

六回目ワクチン打つてまだ怖い

カレンドーハートマークは通院日

ゴミ出しはジャンケンボンで五連敗

五十九年ヨイショしながら老い二人

米子市 妹 能 令位子

米子市 野 川 宣 子

やつぱりね亡夫の仲間は飲み仲間
難病の一つになつた認知症
すつきりと草取り終えた夏の庭

シワ消える詐欺かと思うコマーシャル
笑い声だけは忘れず老いの坂

米子市 竹 村 紀の治

バラ色の人生なんて絵空事
父と子が逆転したよめし茶碗
イライラもごはん囮むと和やかに
熟女でも時間かければ発芽する
後姿見るとやつぱり年寄りだ

米子市 中 原 章 子

柿若葉思わぬファイト雨上がる
カラスふわり自転車籠の肉狙う
懐くのが苦手で損な生まれ付き
十葉の観賞用に薬用に
紫陽花に恋する季節梅雨に入る

鳥取県 門 村 幸 子

伸び代はもう無いけれどゴムはゴム
腰痛は祈るだけでは治らない
分からぬ寿命に明日を賭けてみる
入院で家事一切を放棄する
奢つてもらうといつまでもうるさい
心地よい目覚め一日動きだす
きゅうり支柱やりとげほつと二重丸
前屈み年寄りじみて嫌になる
気にしない人はそれほど見ていない
その時に備え身辺整理する

米子市 成 田 雨 奇

睡蓮と菖蒲満開あやめ池
蒜山ドライブ娘の親孝行
敷地内事故で運転禁止され
句会行くもつばら妻の送迎で
句会済み迎え買い物済んだ頃

鳥取県 竹 信 照 彦

見栄を張るくらいの自信あるといい
鈍いのであまりむかむかしないです
八十路越え守るものなど何もない
老いの芽を少しでも摘むスクワット
何気なく書けていた字がわからない

幸せの欠片が溜まるスマートフォン
昔話多くなつたと思う居間
昔話に真心というしつけ糸
青葉きらきら若さつて素晴らしい
減塩のレシピへ舌が文句言う

鳥取県 本庄 ひろし

気遣いにホッコリした涙きました

今日休みテレビドラマの見放題

福耳と呼ばれて来たがまだ来ない

三回目計画倒れプチ旅行

祈つても叶わないけどまた祈る

鳥取県 山下節子

コンビニが出来て一息つく過疎地

母さんの代理は出来ぬお父さん

白湯を呑み健康管理しています

小遣いはバイトで稼ぐ大学生

地震かな少しの揺れも気にかかる

松山市 大内せつ子

じんわりと距離をちぢめてゆく影絵

未知数へ黒い句点を打ちますか

トレモロばかり飲みこんでいるソーダ水

あきらめ上手きっとあなたは生き上手

ガクアジサイの雨はショパンを受けとめる

松山市 栗田忠士

胃肝心腎肺検査異状なし

月曜日の鬱とは無縁今日も晴れ

生命線短いけれどまだ生きる

少子高齢過疎化日本の未来

松山市 古手川 光

陸前高田一本松のど根性

日本が好きと台風急カーブ

雨雨降れ降れ唄うなど被災地

廃校で子供の声も消えた郷

このままじゃ四季という語もさようなら

松山市 宮尾みのり

伝統芸能言わざもがなの深い闇

きれい事言うのは止めて除草剤

ふるさとを捨てた私を嘲るるか

あの時の決断批難浴びたけど

忘却という人生にあるクスリ

松山市 柳田かおる

気を抜けばどんどん老いは容赦ない

諦めてはいらない余力があるうちは

ドーナツの穴が小さくなっている

歳月の長さ老舗が消えている

珈琲一杯おしゃべり3時間

今治市 永井松柏

輪廻だろう一人来てまた一人去る

初めからボタンの掛け違いだつた

遠くの町で幸せに暮らすがいいさ

天国に召される順を待つベンチ

生きるとはたつた一度の網渡り

今治市 安野 かか志

阿南市 小畠 定弘

澄みきった空が黄砂のプレゼント
原因は鉗一つの掛違い

寝不足を補うような始発客
ナナハンのマナーが走るツーリング
些細なことを朝から妻が怒鳴つてゐる

西予市 西田 美恵子

アドレスは君の名前に変えました

匿名の投書よはしゃぎ過ぎないか
正論で開かず異論で開く扉

恋人の海に私の舟が浮く

笑い声が洩れる二人の窓が好き

高知市 三谷 松太郎

わくら葉よはらはらと散る義理堅さ

百害も一利も無縁ただ悔し

遠くなる企業戦士の足音も

老い自覚六十八点そんなとこ

八十路来てなんだかんだとクスリ攻め

土佐清水市 辻内 次根

ほうれん草の花を思い出している

来客があるかも知れぬ身繕い

結跏趺坐一輪花が咲いてゐる

日本語が怪しくなつて辞書を繰る

菜園の鉢は我が家の自給率

愛の文字ひさかた振りにルビを打つ
日に一句生きた証しの日記帳

あの世へは大手を振つてゆくつもり
權持たず余生の舟に乗つてゐる

たまらなく喜寿の私がいとおしい

熊本市 杉野 羅天

薔薇一輪挿して机上を和らげる

ご先祖に感謝皆勤四十年

ブーム去り真価問われる陶芸家

過疎化して猪鹿猿の取る天下

美味すぎる温泉玉子塩要らぬ

宮崎県 黒木栄子

甘藷掘る好んだ母を偲びつつ

避けたのにまたも苦手と鉢合わせ

とれたてのキューリ一本丸かじり

もう古稀とまだまだ古稀と山登り

立ち位置を思案しながら書く便り

北九州市 小松 紀子

歩道橋見上げただけで無理ですわ

ぶらんこで遠い昔を見て います

とめどないぐちをきく今日のさくら餅

句を作る楽しみありて旬な今

亡母ならばどうするだろう着地点

横浜市 菊地政勝

八王子市 川名洋子

顔色も変えず病名聴いてくる
有り金が足りそうもない余命表
家計簿に妻の魔術があるらしい
疑問符がつぎつぎと湧く成長期
安心な年金が泣く物価高

上尾市

中村伸子

石川県 堀本のりひろ

五十年たつて女歌だと気づく
痺れます連夜の一点差ゲーム

発想の似た句で負けたのは私

激痛に耐える人あり柳誌読む

誰も見てない所でスクワットを百回

朝霞市

前田洋子

可児市 板山まみ子

台風の中へミサイルのアラーム
気晴らしのつもりの曲に泣かされる

ギブアップ続くはずない強がりは

メンタルが弱くなつたなトホホホホ

猫のシルエット隣の窓に希望の灯

東京都

川本真理子

岐阜県 喜多村正儀

目の奥に尻餅ついた仔の涙
思い出は徐々に優しい色になる

もういない父に相談もちかける

ここからは一人で行くと子を帰す

必要とする人はもういない星

空元気出し今日から明日ヘバトン
とんとんの人生でいい八十路坂
お見舞いに明るい嘘を包み込む
女らしく男らしくのブレッシャー
青梅の香に包まれて梅漬ける

砂浜に埋めた誓いは波に消え
母さんの小言のシャワー僕子猫
艱難辛苦ただ耐え耐えて大空へ
野放団にやつたあげくの枯れスキ
独り芝居見渡す限り枯れ野原

この先に夢は持てない八十四
現実に追われ夢見る時がない

食べる寝るできるうちは遊べそう

財産はおしゃべり好きな仲間達

押し入れは要らない物の宝庫なり

明日への力残してする早寝

大好きに手抜きなどせぬ横恋慕
いち押しの笑顔はじけるコロナ明け
悲しみはゆっくり落とす砂時計
雨だれもショパンめく夜のコンサート

名古屋市 山本三樹夫

神戸市 上田和宏

今日も晴れ家の隅隅爽やかに
里山を崩し宅地に自然泣く

飲みすぎて電車の座席ゆりかごに
森の小径木洩れ陽浴びて明日の顔

目が覚めて感謝と御礼合掌

犬山市 金子美千代

神戸市 奥澤洋次郎

梅らつきよう待つてる人がいて漬ける
値上げしてもまだ優等生の卵

命日に帰つてくれる子に感謝

痛がつてみせる庇つて欲しくつて
雨しとど今日の私をどう描く

犬山市 関本かつ子

神戸市 城戸誓子

マスク無しの方がきれいな人でした

救急車他人事でない年になり

日本の山紫水明守らねば

七冠も取つて謙虚な話し方

地元でも藤井君とはもう言えぬ

豊橋市 西郷紀美代

神戸市 輿水弘

ロボットの運ぶ肉には愛想ない
失敗に孫の大受け暖かい

アサギマダラ飛来を待つてフジバカマ
薬まで飲み忘れてる休刊日

口出しはよそい子どもの人生だ

いい酒だ明日見る夢が見えて来る

健康ですと言つてくれます腹時計
百均グッズ老生活の愛用品

知らず知らず明日を紡いで行く時計

妻に感謝今日も一日生き延びる

着々と預金が消えてゆく長寿

弱い者苛め国会がやつてるよ

世襲政治不安な世相生んでいる

人間は嫌だ嫌だと揺れている

いいんですこれが私なんだから

私でも市長になれる無投票

疲れたらひねもすのたり抱き枕

歳重ね優しさ沁みることが増え

初孫よ世界はサイズフリーだよ

ただ前へハイハイの子は探険家

妻には分かるろれつの程度飲みすぎよ

全没も二次会ビール5本抜く

一杯やるかいいねで目覚め黄泉の友

叱る顔より笑い優しい母残る

見栄と欲少しは残しおしやれして

神戸市 近藤勝正

水無月に浮かぶ母の背梅仕事
老いてまだ少欲知足難しい
肝心な時に出で来ぬ我が記録

弱くても笑い暮らせる国がいい
聞く力磨き聞きたい良い話

神戸市 神戸市

斎藤隆浩

コロナ後も妻とは程好いディスタンス
食べ放題より旨いものちょっとだけ
ローン完済次は建て替え待つてます
歩くから転け歩かないからボケる

生き甲斐の一つになつた句会場

神戸市 神戸市

斎藤隆浩

人も運も追うと必ず逃げてゆく
いつの間にか父の命を越えていた
本当に強い人って臆病だ

石ころを蹴つて世間を確かめる

神戸市 富永恭子

森廣光

いい日だった町の優しい歯医者さん
時は逢おうよ君を見失う
この道を辿れば君が住む都

葬儀社の広告だけでもう涙

行き届く手入れの丘に句碑嬉し

神戸市 能勢利子

手帖には先ずは家族の誕生日
次の日に答えてくること数多

帰宅日はポテトサラダとすきやきネ

長生きの母はじつとするのが苦手
ケアハウスのタオルをたたむ百三歳

神戸市 松倉正美

山口美穂

白い制服目にも涼しげ衣更え
緑雨いま裏庭に咲くハナシヨウブ
毎年の事阪神春に強いのは
また一人竹馬の友が千の風

岩清水両手で掬う散歩道

神戸市 明石市

糀谷和郎

ドクダミ茶ひと手間魔法味かえて
反省をしつつも自分には甘い
後戻り出来ない夢をまだ見てる

降られても晴れでも紫陽花笑みくれる

愚痴言うていらわわたし慰める

誰も見ぬところで肩の荷を降ろす
ルーテインを変えよか何か起きるかも
ワクワクと未知なる旅はまだ続く
素の僕にしつと戻す国訛り
かすかなる記憶たとれば母の膝

終戦まで歌いたくないひまわりを

芦屋市 荒牧孝子

尼崎市 羽奈和子

尼崎市 尼崎市

独裁者思い出してよ母さんを

まだいけるカルチャーハシゴ夢をみる

探して父さんの影本屋にて

相槌を打たれて心落ちていた

芦屋市 竹山千賀子

田んぼに水大喜びで鳴くカエル

怪力で大きな蝶を運ぶ蟻

目をこらし赤ちゃんメダカ数を読む

考へる人座つてるのはトイレです

助手席で寝るか食べるかすみません

同じ星さつとあなたも見てますね

三日三晩泣いて病を受けとめる

打てば響くそんな時代もありました

ニユースには事欠きません友の耳

黙秘権僕にはないと九官鳥

芦屋市 新田義明

割引券美容院から来る祝い

レシートがわが家の好み映し出す

気に入りの箸が好物知りつくし

パソコンに手を貸す孫のありがたさ

せんべいを音たて食べるおいしいな

尼崎市 藤田雪菜

批判され持ち続けたい俯瞰の眼

やり切った油まみれの父ゴム手

何かあるきつい炭酸飲む家内

フェインントの計算

ずくで人を読み

単純に人は動かぬアメとムチ

尼崎市 永田紀惠

この世は舞台コラムニストに囁かれ

売れ残りのベゴニアうちで咲き誇る

古里の子供らみんな標準語

焼けあとにアルバムらしき物黒く

悪運の去るまで伏して時を待つ

尼崎市 森菊江

あきらめが早くて悩む暇がない
悩んだらいつもお酒に聞いて いる
悩まずに抜け道搜す生き上手

終電車少しおまけの発車ベル

ちょっとと待てその内値下げニユールック

尼崎市 山田厚江

三田市 足立つな子

ベランダのハンガー鳥持つて行く
陸・海・空ドローン技術の闘き合い
砂丘のラクダお疲れなのか歩かない
歯と腕を折った次男がいじらしい

足立美術館庭石の白目を見はる

尼崎市 山田耕治

三田市 稲角優子

捨てられぬ母とお嫁に来た箪笥
顔が見たいと施設の姉の電話
おやすみなさい月が笑つてゐる絵文字
八十の朝の湯呑みに茶柱よ

こんな娘に育つてくれた披露宴

加西市 山端なつみ

三田市 大西重男

綾取りを教えた孫も今スマホ
長寿国今後の憂い受け止める
咲く花の往き交う人のニュー・タウン
おさんどん三食ついたアルバイト
お見舞の心なごます嘘がある

米作り金寿と喜寿がまだしてゐ
五軒の田預り耕作大農家
農繁休暇昔はあつた学校も
田植機も旧く雨の日使えない
新しい農機は買えぬ歳と金

川西市 山口不動

三田市 九村義徳

妻の留守解放感と孤独感
連続でくしやみ何故出る衣更え
今日田植え一番に来て蛙鳴く
雑草という名の草なし草を抜く
時を経て広島にあり敵味方

これからも妻のタクトになる余生
ここだけの話はいつも知れ渡る
真つ直ぐに生きて言われたへそ曲がり
年金日そろそろ孫がやつて来る
何時の世も一番怖い思い込み

三田市 住 吉 美和子

G7被爆地会議で何思う

ウクライナ天突くひまわり待ち望む
親友の初夏の便りと荷が届く

初物は身体にいいよ破竹煮る
五月晴れみかんの花の香りする

三田市 多 田 雅 尚

杖を持つだけで安心出来る足
買いました脳の老化を防ぐ本
自肃から人込み避ける癖がつき
ゴールドで返す免許証何も無し
義務でないマイナカードは拒否します

三田市 野 口 真桜子

戦後派の僕だ平和の使者になる
復興を見すえキリッとウクライナ
同期の昇進祝賀の拍手そろわない
合い言葉は平和仲介役にされ

びた羽衣五人の母になる天女

三田市 堀 正 和

朝一にオータニさんに会うテレビ
ネクタイがやっと身につき五月病
とりあえず聞こえないけど笑つとこ
忖度をする人も居ずマイペース
追い風を待つております八十路です

のつべらぼうに玉虫色を塗りました
ワンテンポずれる返事もカラオケも
翔平に感謝している兜蟹
ミサイルはロールケーキの芯の中
代行を頼んだ友も酔つていて
おもい出に浸るアルバム五能線
それなりに交わる世間デイの友
コンベアーに乗つて感謝をする老後
気晴らしのつもり満足せぬぬり絵
平凡に暮らせる幸へ家族の輪

高砂市 松 尾 柳右子

薬効は「人によります」と言われても
「紙ゴミ」の日に雨が降るどうしよう
いつまでも現役時代の夢を見る
予診表「はい」と言えない数が増え
何でやろ医者の前では空元気

宝塚市 丸 山 孔 一

丹波篠山市 北 澤 稲 民
もの作りふくらむ日々に遊ばされ
音沙汰の無いのは無事と娘を思う
人はみな各自芸あり生きている
生涯を番犬なりし家守る
深呼吸わたしを少し入れ替える

三田市 村 田 博

丹波篠山市 酒井健二

御利益を信じ階段山の寺 西宮市 福島弘子

西宮市 福島弘子

十歳で木の天辺に居たことも 竹原の豪商たいそな家に住む 生ビールつきバイキング宿の朝

美味そなものは真ん中から食べる アホなことやつても皺は増えている

種から初生りきゅうり格別だ 朝はメジャーナイタービールご機嫌だ 道なりを友と談笑花の寺 順番に見送り次は私だらう

丹波篠山市 藤井美智子

西宮市 福田正彦

ウクライナロシアが和解夢の中

五七五脳に奉仕へ老い励む 箸が立つ程に味噌汁具だくさん

これだけは聞いてほしいが言えません

八十路来て夢小さいが恙なく

西宮市 緒方美津子

南あわじ市 萩原狸月

デザートは老いの脳さえ活性化

謝罪会見善処しますはもう飽きた

待たされてもスマホあるから苦にならぬ 振られた人に会つてみるクラス会

父の日を知らん顔して待つて いる

西宮市 亀岡哲子

この奥にまだ家がある丸木橋

奈良市 東

定生

梅雨晴れ間野菜料理の腕彈む

美容院の鏡の中へ良い笑顔

老いてなお甘え上手な犬と住む 紀伊國屋で百まで生きる策を買う

里山で見えた星座を今探す

素顔では反応鈍い顔認証

サブリ代高くつきそつフィットネス 飲み過ぎて制御不能のブーチン氏

議員バッジ付けたいだけの人がいる

謝罪には不織布マスク欠かせない

奈良市 大久保 真澄

繁華街の夜明けはネコの社交場

五月病通学してもしなくても

無農薬の虫付き野菜いただいた

安全だと言えば言うほど神話めく

UFOキャッチャーは金食い虫である

奈良市 加藤 江里子

心を許したつもりの人の別の顔

雑草に語りかけ朝ドラのよう

腕骨折の夫辛抱強い人

風を切っていた貴方の肩が懐かしい

衣食住足りて愚痴など言いませぬ

奈良市 高橋 敬子

詰めてつめてに温い吊り革持たされる

少子化の波が攫つた鯉幟

仰げば尊し全部歌えた妬ぶ会

六回目ワクチン漬けに慣らされる

回転寿司外人さんが窮屈気

奈良市 辻 内 げんえい

ソフトクリーム舐める子を見て欲しい喜寿

幼なじみ「ちゃん」で呼び合う爺寿越え

太腹は孫連れいく百均で

ノンアル乾杯みんな車のランチ会

下戸兄弟の義兄一人は酒が好き

奈良市 山 本 昌代

ついつい手かばいたくなるおばあちゃん

深い息苦手意識を葬ろう

笑顔にも几帳面さがこぼれ出る

図書館へ行こか知識を仕入れとこ

ありがとうエールをくれる春の風

奈良市 米 田 恭 昌

堅固で眞面目安全牌と言われてる

その先是治外法権子供部屋

終活の捨てられそうな物ばかり

職退いて留守まかされてばかりいる

AIに穿ちのこころ解るまい

生駒市 飛 永 ふりこ

紫陽花の彩に煌めく夢の粒
お隣の菜園今が伸び盛り

処分など母の手作り仕舞い込む

一回も袖を通さずでも吊るす

濃淡の緑が諭す無理しなや

香芝市 大 内 朝 子

緑風に心洗われ若返る

幸せの種蒔きして います笑顔

ブランボーと思わず叫ぶでかい虹

世の移り昭和ますます懐かしい

振り向けば遙かな道の泣き笑い

香芝市 山下じゅん子

奈良県 中堀 優

9

玉子不足シュークリームが消えた店
ブランドの傘のお披露目梅雨嬉し
インバウンドあふれ戸惑う奈良のシカ
声だけは美魔女に負けぬ自信ある
おしゃべりで情にもろいは母譲り

奈良県 安福和夫

奈良県 長谷川崇明

三世代同居の幸に恵まれて

出戻った娘親子と恙なく
ギャンブルで破滅の男今いすこ
麻薬にも似た賭け事に人は酔う

金銭の感覚を消す世界ある

奈良県 谷川憲

奈良県 渡辺富子

緩和後もマスクが消えぬ散歩道
年経ても郷里のニュース気にかかる
ふわふわの布団で母の夢を見る
世界地図どこをあけてもきな臭い

奈良県 中原比呂志

和歌山市 上田紀子

八月は閃光の日を忘れない

リーダーの本心ヒロシマに刻む
軍服に飾る勲章血の匂い

八月の献血待ってる人がいる

献血でこそ責任果たした気後

青空へ深呼吸する朝の幸
言い過ぎた言葉を戻す術もない
QRコード使えぬアナログ派
テレビ観るアナウンサーの好き嫌い
強がりも本音淋しい雨の午後

欠伸出るような話はもういらぬ
人生の最終章でする座礁
嫌だつた彼と和むも年の所為
詳しくはお前の胸に聞けという
老いの道カギを握つては妻

文殊会となんじやもんじやの興福寺
霞かかる彼方へ大江逝つた春
七人の敵の中へと更衣

四年振り缶よりうまい瓶ビール
いち早く戦後をつくれウクライナ

コロナ明け友と約束花めぐり
メイクなしの肌生き生きと深呼吸
待ち合ひ室老い百態を見ています
出してはしままう身辺整理またあした
流れる雲友の笑顔を思い出す

奈良県 渡辺富子

和歌山市 柏原夕胡

ここが好きほかに住みたい場所はない

どこにでも偏屈者は居るものだ

昔々クーラーなんてなかつたな

猫に気を遣つて生きてますかしこ

ふと思うお亡姉ちゃんに逢いたいと

和歌山市 松原寿子

新緑の清々しさへ目を洗う

負けたとは言いたくなくて背を向ける

爪に火をともす生活覚悟する

まるで貝になつてしまつた病み上がり

いつときの夢であろうと乗り越える

橋本市 石田隆彦

おはようと今朝も明るい通学路

晴れ願い雨を所望し畑仕事

裏山を魔物に変えたゲリラ雨

ちよつと待て戦する気が防衛費

この地球みんな仲間だあヒト科

京都市 清水英旺

お見舞のTELに元気な電話口

裸婦像にじつと嫉妬の目を向ける

あれよあれよついてゆけずに生きている

今年もまた約束どおり花は咲く

老いは脚から実感してきょうこの頃

京都市 藤井文代

あの川を渡るまで持つマイナンバー

百歳なればどう変わるのか生命線

世渡りの助けをしてる遠い耳

角があると言われたからか背を丸く

眼精疲労イケメン見たら完治でき

京田辺市 北野クニオ

老人が慣れぬ自転車ヘルメット

大相撲大関増えて活気出る

AIとチャットで廻る新時代

病持ち健康宝思い知る

オペ前に何枚も書く承諾書

長岡京市 山田葉子

満月とともに仰いだ日は遠く

半夏生忘れていいよ済んだこと

花も犬も日日正直に暮らしてゐる

犬とわたし昨日も明日も考えぬ

ドクターとヘルパーさんが好きになる

八幡市 武田悦寛

出番きた納屋のかかしも服選び

青空に雲ひとつだけ忘れもの

バス停に急ぐ母親傘2本

くつひもを思い切りしめ歩数計

伝票持ちじやんけんしてゐる縄のれん

大阪市 東 敏 郎

大阪市 岩 崎 玲 子

躊躇かぬようジャンプするうさぎ年
もち喉に詰らぬよう咀嚼する
低金利記帳するたび出る吐息

送りがな小四孫に確かめる
息だけが届く力士のインタビュー

やんわりと絡み付く6月の雨
雜音消す雨音神からのギフト

雨の日は肘も素直になつてゐる
晴れ間から青い音符が降つてくる

また2本ビニール傘が増えてゐる
ラムネ抜く昭和の音と香りする

大阪市 井 丸 昌 紀

大阪市 宇 都 満 知 子

手紙着く生きているのは確かなり
ランドセル夢詰め込んで闊歩する
群がつて余計膨らむ孤独感
線一本引いて国境作り上げ
軽く飛ぶつもりだつたが水たまり

大阪市 岩 崎 公 誠

大阪市 江 島 谷 勝 弘

五十年波長があつていたらしい
病み上がり陽のまぶしさが嬉しくて
好きなもの最後に食べるこれが幸
月初めいつも決意はするけれど
朝の家事順にこなして茶がうまい

大阪市 石 田 孝 純

大阪市 内 田 志 津 子

遠回りしたけど晴れて君の宴
三度目に合格通知受けて春
譲りグセ孫は争い好まない
読みさしの司馬遼ひざに寝てしまう
この歳で若輩者という世界

気遣いが過ぎればキシキシと鳴つた
ぼけつとひとり嬉しくて寂しくて

気付いて欲しいし構われたくないし
見えなくとも聞こえなくとも手をつなぐ
鳥が鳴き出した洗濯物外へ

人通りないところまでカメラの日
手紙着く生きているのは確かなり
ランドセル夢詰め込んで闊歩する
開会に顔が揃わぬやり直し

たつた五円足りぬことからこじれ

デモ一つない我が国の高物価
張りこんで三回食べた豆ごはん
一度は言いたかつた ここは私に
八十路前悩むヒマなどありません
恐い方へ恐い方へ行く政治

大阪市 榎 本 舞 夢

大阪市 川 端 一 步

複雑骨折マル一年ただ歩く
病気知らず人生観を組み直す

患つて周囲気くばり解り出し
卒寿過ぎ二人三脚四苦八苦

張り切つて転ばぬ様に努めます

大阪市 大 川 桃 花

大阪市 古 今 堂 蕉 子

目聴い人に手抜きしつかり見つけられ
美容院の予約が一番カレンダー
職人さんの知恵が詰まつてある道具
レジの機械化客の仕事が増えている
八十過ぎてもありそう二の幕三の幕

大阪市 大 沢 のり子

大阪市 近 藤 正

血压の数値に夫の日が泳ぐ
塩分の計算だけをしてる妻
たっぷりの時間 断捨離続行へ
玄関の防災食は期限切れ
天袋に紅白リボン眠つてた

大阪市 奥 村 五 月

大阪市 坂 裕 之

好き好きと言つて手伝いせぬ夫
美しい桜も散ればゴミになる
あの世へはすぐに行けるが帰れない
値上りのグラフ下向く時は何時
人の穴さぐる文春よく売れる

絵もいいが魁夷画伯の文も好き

師が書いた般若心経宝もの
長生きの秘訣を喋る歳になり
生臭い夢も見てるる米寿です
九十に老女と言うな花ざかり

尾道の坂に根性試される
若い人に譲る尾道碑の巡り
あふれるほど子供居たのにあれば夢
また明日会えると信じ手を握る
運転もテニスも忘れおばあさん

大阪市 近 藤

正

国防のためと島民見捨てられ
戦する国に引きずり込む安保
ヒト科のエゴ島インフルは皆殺し
異次元は軍備拡張だけだった
藤井聰太全タイトルを視野にいれ

大阪市 坂

裕 之

お互いにお疲れさまと言える仲
嫌がらせ有るがきちつと遣り通す
もうちょっと頑張らなくちやまだできる
好きな事出来るんだから良しとする
企画した事がすつきりやり切れた

大阪市 高 杉 千 步

大阪市 寺 井 弘 子

味噌汁が匂う施設に朝が来る

朝のコーヒー頑張りますとブラックで

三猿で暮らす施設の恙なく

寄り添うて下さる方に囲まれて

消えるもんか私らしく私らしく

大阪市 田 中 廣 子

大阪市 寺 本 実

阪神はいつまで一位キープする

父の日はみんな揃つてレストラン

年重ね計画通り片付かず

手をつなぎ二人よちよち出かけます

虹が見えハルカス遠くかすんでる

大阪市 田 中 ゆみ子

大阪市 中 井 萌

天才が深いところでする努力

胸の内さらけ水母になるもよし

如何にせん記憶の誤差が埋まらない

子は育つ泰山木の白い花

食べるか笑つて いるか左遷地で

大阪市 谷 口 義

大阪市 原 田 すみ子

これから的人生だつて笑えます

勉強にならないことが好きなんです

身の丈にあつた暮らしのパピップベボ

ハンバーグとかピザはOKおばあさん

通夜の席奥さんの酒豪が分かり

身辺の整理に余力残して
盛り場へ出たがつて いる足の指
点滴の生きよ生きよに励まされ
気負わずにありのまま生き貝になる
健やかに惚けずに老いる難しい

軽食と言うが酒までついて いる
独り身は軽くなりますゴミ袋
ウソ一つ混せて余力を残しとく
なごり雪国でない人が言う
本気ではないと妻には目で合図

大輪のバラより畔に咲く小花
ひもじさを知らぬ世代のダイエット
こけぬ様転ばぬ様につい猫背
和箪笥に着る者も居ぬ五つ紋
世間見る視野がだんだん欠けてきた

団塊世代まだまだ旗を振り続け
独り居を確かに語るゴミの量
冷凍品助けてもらう日々の皿

皇族百歳優雅な佇まい
孫成長予定なかなか交わらず

大阪市 平賀国和

堺市今井万紗子

首都探訪まず漱石と猫の墓

近くにはジョン万次郎眠りおり

漱石の言葉は今も生きている

五七五の価値を教える草枕

私にも牛の歩みで行けと言う

大阪市 降幡弘美

和洋中お好み次第チン料理

難民も戦車も河を越えて行く

あの世との隔たりずっとこのままで

うつかりとテレビに返事妻の留守

キラキラネーム広辞苑さえ役立たぬ

堺市源田八千代

一家事をしているのにネタにされる妻

一個から半分こするゆで卵

イビキかきちょっとと気まずいマッサージ

頑張ついても言われるガンバつて

コワモテがかわいい文字を書くギャップ

大阪市 山本加おり

玄関に向日葵生けてるんるんに

世界平和と今日の無事祈り合掌

使い痛み後で出て来る年の所為

大雨の中空きを確かめ受診する

余生僅か二度と戦争真つ平だ

堺市齋藤さくら

プライドを忘れ診察台の上

物価高軽い財布が泣いている

政治家の威儀がちょっと頼りない

楽しそう妻の小言を聞いている

婆ちゃんに甘える知恵も付いている

自肃三年亡くしたのに力瘤
紅筆も紅もどこかへ行つちゃつた

蟬啞え野性の顔の猫の性

角取れてつまらなくなる老いた鬼
何食べて百キロ超えた問いたいが

大阪市 横山里子

堺市坂上淳司

河内長野市大島ともこ

豪雨禍が癒えぬ間にまた豪雨
トランプ氏を推すアメリカが判らない
北中口にトランプ入るのが怖い

ダム爆破する戦争の恐ろしさ

汚染水を海へ放出する無謀

堺市澤井敏治

物売りの声が献立決め歩く
蚊帳をパタパタ知らぬ世界へ紛れ込む
銭湯の煙まつすぐ今日も晴れ
細腕の昭和の母は強かつた
不器用な父がはにかむ孫來たる

河内長野市木見谷孝代

マスク取る空氣こんなに旨いとは
死ぬのは一回恐がることはない
ノーメイク慣れてマスクを外せない
反省会する者みんな寄つといで
一人酒よりもワイワイ飲むお酒

池田市太田省三

梅雨晴れ間草と格闘しています
独りでも野菜の種類減らせない
子の奢り格別の味誕生日
あなたとのおしゃべり弾む夢の中

河内長野市坂野澄子

クルーズは底に大和の海を行く
ハンドルを四度も返す駐車場
沖縄はヤンブ地だけのプロ野球
五人では居眠りできぬ村議会
初孫の誕生義父は餅を搗く

柏原市津村志華子

修羅の恋指の先まで滾る熱
散りたいと泣いた造花が知る孤独
うやむやを混ぜたあんパン膨らまず
致死量の愛がほしいわあなたから
恋を待つ窓にからんだ昼の月

河内長野市中島一彌

産み立てを玉子ごはんにしてグルメ
採り立ての野菜みそ汁具沢山
玉葱サラダ魔女の血液サーラサラ
上げ膳据え膳カロリーも良しぱアハウス
あじさいが微笑む亡父母よ亡弟よ

昼の酒ちょっと転た寝くせになる
安眠を肺返りがいけずする
ぶきつちよな夫の戯ける投げキツス
目減りする年金暮らし足搔く日々
ふるさとのちひろの生家すきま風

河内長野市 藤塚克三

吹田市 太田昭

俺の人生助走続いでゴールなし
空想にはまり込んだら抜けだせぬ

俺の矜持おむつの世話になりません
八十路坂遠出運転妻任せ

金婚式感謝を込めて手を繋ぐ

河内長野市 村上直樹

高槻市 片山かずお

ポイントを稼ぎ刃向かう物価高

ワンマンには腹心という影法師

爆発だ！若冲の赤ゴッホの黄

じやつぱ汁湯気の向こうに亡母の顔
まあいいやもうよからうと老いてゆく

岸和田市 岩佐ダン吉

高槻市 島田千鶴子

脈だけはしつかりして未だいける
堅実な人だが面白くもない

誉め殺し少し混じっていた祝辞

心跳るそんな日だつてあつた筈
真実は余白ページにあるらしい

岸和田市 雪本珠子

咲き誇り雨に崩れる薔薇哀れ
真夜中のどしゃぶりいらぬ事思う
父の日は昭和演歌を懐かしむ
木洩れ陽の眩しさ世過ぎ考える

明日来ると信じ今日の眼を閉じる

高槻市 初代正彦

幸せは人のこころの中にある
ありふれた人生だけど平和です

ありのまま心豊かに暮らして
八十路でもまだ夢は持っている

川柳は人生の良きパートナー

梅雨空もいいネすぐ後には炎暑
また転ぶかもそんな気のする段差
食卓に術後点眼薬が待つ
コロナ後と言うまい未だウイズコロナ
平穏なニホン戦火のウクライナ

守りたい人が居るから老いられず
打ち易い杭を選んで憂さ晴らす

退屈が馬券売り場に屯する

厄介なことが嫌いで阿保で居る
近ごろは人間忘れそうになる

河内長野市 村上直樹

河内長野市 村上直樹

高槻市 富田保子

豊中市 上出修

涙もろい涙みせすにゆく八十路

お天気で変わる私の予定表

八十路焦る慌てるみなこける

取り敢えずハイハイだけは言つておく

泣けば負け泣けば負けだという涙

高槻市 鳥居宏

豊中市 藤井則彦

ぽろぽろと梅の実落ちて梅雨となる

梅ジャムに妻は熱中並ぶビン

月下美人香り豊かに咲きつくす

ダム欠壊戦の無謀増すばかり

サミットも形ばかりで策はなし

高槻市 松岡篤

豊中市 松尾美智代

感染数公表されぬのも不気味

車内ではマスク無い人避けている

酒止めた第一日目無事通過

今日もまた個人情報野ざらしに

部下の数増えると酒の量も増え

豊中市 池田純子

豊中市 松田蟻日路

ドキドキがバクバクになる握手会

ベランダの花盛合わせ亡母さんに

生き方を問われ私は自由型

ふと思う煙草の匂う父の指

雨雨降るな今日はあの子の遠足日

また値上げもう平気ではいられない
増税NO福祉はもつとUPして
本音ポロリその言い訳で難破船
左遷地の米のお水に惚れている
前頭葉枯らさぬように五七五

人の輪へ半歩踏み出す我が日課

退屈の味分かり出すいい老後

夫婦にも時に大事な黙秘権

スマホ無き暮らし続けてないと楽し

教科書にないのがやはり人生だ

淋しいね二人で居ても孤独です

話してほしい何でも聞いてあげるから

早世の母の命を生きている

矛盾だらけの自分愛しくなる夜明け

生きる事学ぶ何度も転びつつ

豊中市 松田蟻日路

諦めて呑み干す苦いコップ酒

上なりの訳が有つてのお説教

上目遣いせんでも僕も偉ないし

人肌が欲しくてチンは二十秒

酒は胃に流れ理性は向う岸

豊中市 水野黒兎

寝屋川市 廣田和織

好天にパンジー育ちすぎて夏

古典読み式部納言に出会う旅

監督を褒めて貶して見るテレビ

ほとけさまを拾う こぼれたごはん粒

三ミリの蟻の嗅覚恐るべき

富田林市 山野寿之

キヤベツの芯捨てず糠漬物価高

枕元明日へ夢のランドセル

朝ドラのつづくへ期待老い二人

ファミレスへ家族家族のこともの日

ネガティブヘビタミンになる友の声

寝屋川市 川本信子

こつたりの後にスッキリジャスマシン茶

夏涼しワイドパンツとサンダルで

朝ドラの曲ラララでウォーキング

ラインからハッピーバースデートゥユー

紫陽花が息継ぎなしで咲いている

寝屋川市 富山ルイ子

ダム破壊極悪非道人非人

次次と苦しめる悪魔のロシア

ロシアの平和軍ロシアへ攻め入る

だまされたか名簿作る金送る

一年経つても名簿はまだ来ない

知らぬ間に妻に弱点握られる

守るものわが身ひとつとなり孤独

いくつかは僕を育ててくれた壁

ここまでが友達ですと円を描く

寄り添つて老いの歩幅で行く未来

寝屋川市 平松かすみ

やさしくて素直な友のお初盆

六十六歳勿体なくて寂しくて

きれいだな焼くのは惜しいデスマスク

太鼓判押してた背中なつかしい

公園のどこかにそよ風になつて

羽曳野市 磯本洋一

ノーサイド緊張解すホイッスル

細い道笑顔と会釈朝夕に

野も町も平和を重ね七十五

家長だが何をすればと妻に聞き

我が家では日々の笑顔が常備薬

羽曳野市 宇都宮ちづる

せせらぎと疊り聞いているお宿

北海道履行けない旅をここで買う

雪だけ水ボトルで買って富士想う

トマト茄子有機で産地プランター

赤ちゃんに口座作れとマイナ札

羽曳野市

徳山 みつこ

東大阪市 西村 哲夫

梅雨しとしと洗濯休み街洗う

病棟の児らに笑い出前のピエロよ

息切れの山道山百合が笑う

緑風が八十路の坂を押してくれ

虚虚実実この世は仮面舞踏会

羽曳野市 藤原 大子

枚方市 谷 英也

巣ごもりが解けてさあとはいかぬ身だ
あたふたと小さな枠で生きている

音読で鍛えています脳と喉

10キロは持てると傘寿力こぶ

病むなんて予想だにせぬ予定表

羽曳野市

三好 専平

枚方市 藤田 武人

酒やめてやつと自由を手に入れる

酒やめてレジスタンスの気概つく

酒やめられぬ人生に泪あり

酒やめて水が美味しいとバカを言い

酒やめてマンガの本が好きになり

東大阪市 佐々木 満作

藤井寺市 太田 扶美代

金寿の歩もたもたフレイルの予兆

一瞬の迷いが勝機見失う

偶数の月に対面する諭吉

ストレスがたまると土と戯れる

歯のメンテ欠かさぬ万病の予防

人連れて散歩させてる犬ばかり
幸せの方程式は崩れいく

同じ道雨の会場遠すぎる

おかげさま影を讃えてくれたまえ
欲多し叶わぬ夢も多かりし

人助けいつか我が身を救つてる
住む人の居ないわけ知る庭の苔
綿菓子に顔をうずめるいい笑顔
1服の清涼剤だ夕立は

敬老と年寄り言うなまだ八十路

枚方市 藤田 武人

ルーチンのひとつ狂うと忘れ物
じやまたと言つておはよう聞けぬまま
ミッショソは余白残して成し遂げる

録画したドラマ楽しむ定年後

柵のしづくポトポト耐えている

藤井寺市 太田 扶美代

肩叩かれるまで見とれていた横顔
天こ盛りお変わり嬉し男の子

綿帯が取れたら先ずは墓参り

思い出の日付け怪しくなつてきた

二幕目の真ん中辺に趣味を置く

藤井寺市 鴨 谷 瑠美子

箕面市 大浦 初 音

私もやつと令和に追いついた
ウォーキング程よくスパーまでの距離

大の字で寝てる夫が主治医です

手こずつた花は見事な咲きっぷり

恋文を書くと喜ぶボールペン

藤井寺市 鈴 木 いさお

天王寺塔社事務所へ徒歩五分
大阪環状線 5句

鶴橋で焼肉キムチ大ジョッキ

玉造楓楽さんに会える街

森の宮鶴彬碑へ花手向け

天満下車美研アートへ寄つて行こ

藤井寺市 吉 田 喜代子

初めての水の怖さよ大和川

暴れ水今日は田圃の守り水

避難先思わぬ人に助けられ

写真整理止まる手多く進まない

日常を忘れて友と演奏会

松原市 森 松 まつお

お断りしたい線状降水帯

七冠の疲れを見せぬいい笑顔

ダルビッシュ名譽市民になりはつた

妻は留守昼夜は焼そばビール付き

焼きもちも上手に遣う妻傘寿

ご自慢のエクボもいつか皺に見え

ゴミ箱へバスケよろしく投げるゴミ

老大との散歩ベンチでひと休み

ペットにはこれほど情かけるのに

生きるとは忘れる力育つこと

箕面市 出 口 セツ子

長男が祝つてくれる誕生日

無事生まれ素直で優しい子に感謝

長男に新米ママが育てられ

疑うこと知らずほんわか子は育ち

子が揃い祝つてくれる至福の日

箕面市 広 島 巴 子

復興を願いお祭り威勢よく

会いたくて寂しさ募る亡母の夢

我が子より聰太気になる名人戦

紫陽花に合わせて決める勝負服

明日は雨ギョウザを食べて家ごもり

八尾市 寺 川 はじむ

肩の荷が下りて安堵のふたり旅

七三の髪型懐かしむ翁寿

喜びと懐揉めるのし袋

嫌なこと補聴器外し聞いた振り

ばあちゃんの煮物長寿のお裾分け

八尾市 村上 ミツ子

値上りへしばらく卵買つてない
シルバー・カーの買物ひとりでは無理だ
息ぬきに作詞した校歌をうたう
かに今までいいよだなんてぜいたくな
損をしたことはみんなに内緒です

大阪府 米澤倣子

針の無い時計が欲しい昨日今日
ネジ巻けばちよつと元気になるばあば
新しい物にとびつく悪い癖
原爆資料館の地獄絵図今も脳裏に
G7の閣僚の目に核の悲惨は

(前月分) 大阪市 榎本舞夢

ゴールデン・ウイーク私静かに家に居る
我が家にも曾孫達来る子供の日
また来てねほつと一息良い疲れ
侍ジャパン明るいニュース元気出る
堂々と昼間強盗する時代

(前月分) 大阪市 大川桃花

紫陽花の花芽数えて雨を待つ
花好きを揶揄する爺はメダカ好き

まだ運気あつたかバスがちようど来た
日本の治安どこまで墮ちる闇バイト
夜中でも笑顔絶やさぬ看護師さん

(前月分) 三田市 中山昭美

物価高知らず知らずにエコライフ
箸使いきれいなだけで好きになり
イタリアン箸もフォークも同じ味
空白が気になり出した地震地図
取説の小さい文字に試される

(前月分) 岡山県 高岡茂子

晩婚の甥に贈れたベビー靴
免許証内緒で更新する米寿
車なしでは生活出来ぬ田舎町
十三回忌優しい亡母を語り合う
嫁入道具時代遅れも捨てられず

(前月分) 福岡県 本田さくら

核のない世界めざしてわたくしも
息子より鉢植え花の五つ六つ
娘・息子よく育つたねと夫婦して
美容室で猫の本読む今日もまた
ウクライナ戦におびえる子を想う

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1000円
事務所あてお申し込み下さい。

波穂草の花

(8)

野沢省悟

「川柳触光舎」主宰

朝食は不味くないけど美味くない

大西重男

事実というより真実を詠んだ句。この句から今朝の食事を思い出した。生野菜に目玉焼き、納豆に大根おろし、そしてご飯にみそ汁。いつも通りの時間に、いつも通りテレビニュースを見ながら、味は全くこの句のよう。何でもないような句だが、一人の人間の今生きている実質、もつといえどこれまで生きてきたことの実質を、この句から感じた。

淋しさの分だけ覗く冷蔵庫

平井美智子

台所の一角にある冷蔵庫。けつこう大きいがなぜかその大きさを感じさせない。主に食べ物を入れているが、時々サイフやメガネを入れておいたり、冷蔵庫はおおらかで何でも許してくれる。忘れようとして

も忘れられないヒトも入れてしまつたらしい。そのためかふと開けてみたりする、それも何度も、雨の夜などとくに。
なんとなく貰つておいた試供品

柳田かおる

どこの家でもきっとあるでしよう試供品。断り切れずに受け取つたり、広告についてたり。ある時、コマーシャルで有名な育毛剤が広告についてきた。いつも髪なんてどうでもいいと思つていてる僕ですが、捨てなかつた、今でもアル。こんなささやかな欲望を見つけた眼は、作者の川柳眼。

カーブミラーあの老人は誰だろう

小畠定弘

フフフッと笑つたアナ、作者と同じことがあつたでしよう。カーブミラーはかなり広角に、この世を映し出してくれます。その中に、ステキなご老人が立つてた。

お元気ですか直訳すれば生きてるか
病氣ですか病人ではありません
石田孝純

富田保子

ナント上品な方であろう、と思つたのですが、よく見れば不機嫌そうな老人がムスッと立つてゐるだけ。つい見てしまつたと思う。でも、それでいいのです、自身を眺めることも川柳が上手になるためには必須。責任は私にあるとだけを言つ

岩佐ダン吉

元総理も今の総理もヨク喋つたセリフをひよいと一句に、批評の眼が効いている。「責任」という日本語が可哀想な位、軽く喋つて何にもしない無責任な態度。言う方も言う方が聞く方も聞く方。すぐ忘れてしまうのか、選挙にも行かない多くの日本人たち。

5類と胸にしみ入る生ビール

木田比呂朗

芭蕉の句「しづかさや岩にしみ入る蟬の声」をもじつた愉しい句。酒呑みのみなさんは共感するでしょう。三年間という長い時間、仲間と楽しめなかつた生ビール。「腹」ではなく、しみ入るのは「胸」にしたのは、作者のお手柄です。

生ビールが入り焼酎や酒が入ると、話題の行きつく先は、各人の病氣自慢となる。みんな病氣は持つていても病人ではない。もしかして「川柳」を直訳するならば、「みんな元気だ生きてるぞ」となるのでは、だから川柳は止められナイ。

誹風柳多留一二篇研究 36

290 おとなしい後家に四五人はらを立

細井 発展家ではなく誰にもなびかない後家に、気のある連中が何やかやと文句を言つてゐる。

かたひ後家男を立てやらぬなり

細井 龍夫・伊吹和男
高野範雄・山田昭夫
小栗清吾

清 博 美

287 初かつほ一ト月むす子しかられる

細井 身の程わきまえず、息子の分際で、とんでもない高価な初鑑を買ったので、一ヶ月位は毎日毎日叱られづめた。

一五五

小栗 賛。初鑑を息子が買うとは珍しい句だが、そうとしか読めない。

清 賛。

288 油手をあらふむすめハゑりをすへ

細井 髪を結った油手を拭うだけでなく、き

ちゃんと洗う娘は事前に襟が汚れないように白布などで養生している。

伊吹 賛。往生院祇王寺。

清 賛。

油手て花のへんじをあけて見る

安元松2

油手でこたつへあたりしかられる

九三七

289 かゞきぬのゆもしにぎ王き女おされ

細井 加賀絹の湯文字とは仏御前を指す。平

清盛の寵を得ていた白拍子の祇王祇女の姉妹は加賀から出て来た仏御前にそのお株を奪われてしまい、二人揃つて西山嵯峨の奥、往生院に籠つて専修念佛することになつた。

祇王祇女田舎娘におつへされ

三五二

290 目くらめとしうと御さまをわるくいひ

細井 お目見得以上の旗本とは申せ台所は火

の車。なんとかしようと、有力な武家と縁戚になり、権威をより一層高めたいと考えている検校の金目当てに、その娘を貰つて一息付

291 つまを乞鹿がゑらみのしやまに成
清 賛。「かたい後家」でなく、「おとなしい後家」がいい。

636

細井 藤原定家は京都の嵯峨清涼寺の西方二町余の愛宕路にある小倉山の時雨亭で百人一首の選歌をしたが、秋には雌鹿を呼ぶ雄鹿たちの鳴き声がさぞ煩かつたろう。

もみぢ葉を筆てはね／御ゑらみ

明八梅1

けたが、そのお陰を忘れて気位の高さから、「あの盲めなどと悪しきまにい」と。

但し、検校の娘を旗本が娶ることが許されたかどうか未確認です。

伊上なら百つけましやうとけんきやう

二〇二六
六一五

けんきやうの娘以上へやる氣也

伊吹 古川柳では通り句ですが、実際にどう

であったかは知りません。

高野 「世事見聞録」に、「妻娘等御旗本の歴々

と縁組みを整え……」とあります。賛です。

山田 瞬御様ですから、入賛が「悪く言い」

ではないですか。

清 賛。

293 ほうへ手を諷の時もあてる也

細井 謂は背筋を伸ばし、気を丹田に鎮めて

腹の底から声を出すべきなのに、この若者は

頬へ手を当てて上つ調子の发声をしている。

常磐津の稽古がかなり進んでいるのか、悪い

癖がついてしまっている。まことに見苦しい。

嘆かわしい。

うたにもほうへ手をあてわるいくせ

一五四

ほう枝で謡をかかる大だわけ

一二七〇

高野 賛ですが、何故頬なのかよくわかりません。

山田 賛。洒落本『遊子方言』に、「行こふ

人そゝなる中に。けしからぬ声の按摩はり鮎

壳が鮎のすう鱸のすうと呼も。しゃれとやい

はん義太夫ぶしは頬を押てかたり」(「夜のけ

しき」という一節がありますが、頬を押て

義太夫節を語るのが流行っていたのかも知れ

ません。

小栗 句意はそういうことだらうが、高野兄

と同じく、実際どのようにしていったのかよく

わからない。山田兄の文献貴重なるもどうい

う格好なんでしょう。現代では見たことも

ありません。

清 腕組みをした片手をアゴにあてる格好

か?

294 夜着ふとん大しやもつらな客がくれ

細井 夜着布団などを客からいただくのは遊

女の手練手管次第だが、やつとのことで大あ

ばたの野郎をうまく口説き落として新調出来

た。めでたしく。

うつつい女良とぶ男そはを喰ひ

天二仁三

高野 ぶ男=貢ぐ、川柳の約束ですか?

山田 賛。醜男=貢ぐは、川柳の約束という

小栗 山田兄の文句取を加えて賛。

清 賛。

303 霽の日に在かまくらハみんな出る

天四満一

右大将かまくら中をつるだらけ

安八桜二

細井 鎌倉幕府の体制を確立してから、源頼朝は鶴岡八幡宮の社頭で、放生会として千羽の鶴の足に金の短冊を結びつけて放つた、とい

う伝説的な故事を詠んだもので、当日鎌倉に居た人は皆外に出てその見事さを賞賛した

だらう、という句。

かまくらハなし鳥にも持參金

天四宮一

山田 賛。在鎌倉は、謡曲「柏崎」の「訴訟の事候ひて。在鎌倉にて御座候ひしが」の文

句取。

三年ハざいかまくらとかくごする

天四満一

自選集

小島蘭幸

一本の百合が毎年咲く 母よ

スロー・モーになつた七十五になつた

祖母ちゃん子でした優しくなりました

奇跡の一枚はモノクロ妻と僕がいる

コロナ以後旅番組のファンになる

山本希久子

終日を家身だしなみさえ忘れ

悪あがきして深まる加齢の泥沼

謙虚に生きるたっぷりはない余命

蒸し暑さ今日もカレーの香が満ちる

腰碎けになる私の骨密度

居谷真理子

情報の濁流ポケットにスマホ

空き缶に入った風が出てこない

読み終えてほんのり温い本を閉じ

レコードだからサッチモだから温かい

海語を話す広い肩太い首

川上大輪

國民にマイナンバーという鎖
自由など何處にもないという鴉
食事中なのに避難の指示が出る
サイコロを振つて悩みを一つ消す
夢ひとつ消してしまつた種明かし

北野哲男

老いた氣はしないけれども卒寿越す

早寝より他に省エネ策がない

朝夕に犬が私を引き回す

休刊の週刊朝日買いそびれ

道楽を神経痛がやめさせる

木本朱夏

赤い糸ちぎれたまんま神の手に

わたくしを曝して眠り惚けている

わたくしもいつかは花に埋もれる

金魚二匹死なせた悔いを梅雨籠り

熱中症予報聞きつつコロテン

新家完司

マスクしていくも高齢者と分かる

センセイと呼ばれて脣が苦笑い

裏庭の主役は祖母の金木犀

焼酎もシジミエキスも呑んでいる

腹七分 三分は飢える人たちへ

高瀬霜石

平田実男

正論を言うと刺されるうしろから
時々はお見せしている小風呂敷

運命線だらけ手の皺顔の皺

50年入つていなバチンコ屋

みつづめのまさかの坂が待つて

津守柳伸

熱中症避ける帽子を買い替える

黒い雨想像させるGセブン

四年振り空家掃除もコロナ以後

10円パン釣られ不覚のワンコイン

トンネルをいくつ数えて続く旅

西出楓楽

背中ほど人柄丸くならぬもの

老化とは遠慮会釈もなしにくる

チャットGPT寿命教えてくれないか

週刊朝日最終刊は保存版

生きるとは山を越えたたらまたも山

仁部四郎

倦いたなど言わせてならぬ十五日

それまでに六日九日十五日

世界地図火種が絶えぬ十五日

年号の復習をする十五日

普段着で護国神社へ十五日

満月でちと恥ずかしい露天風呂
年金が出た日は豚を牛にする
日本の横綱を待つ国技館
久々の和服の妻へ惚れ直す
天の句と一字違いで没になる

福士慕情

対面でやつと施設の妻と逢う

瘦せたなあ衰えたなあ手を握る

僕のこと微かに記憶あるらしい

好きな歌唄えば笑顔取り戻す

別れ際笑顔が後ろ髪を引く

藤村亜成

ゆれる炎に想念浮きあがる

怒鳴るより応える毒のある皮肉

とことん付き合おう嬉しい日哀しい日

やさしさが今のぼくには安定剤

つぎのこと考え諦め早くなる

松本文子

緑の中で生かされる日々想う

独りのコーヒーフルさとの風忘れない
皆んなして歌う元気でいる昭和

生きている意味花たちは知っている

ブールで泳ぐ私のパラダイス

朝日燐燐体細胞が目を覚ます
目覚め良し一句を吐いて起き上がる
草花を植える一緒に生きようよ
請求書すまなさそうな貌で来る
当人も幽かに聴いた「ご臨終」

三浦強一

振り向くとよそ見していた影法師
散らかしてないと落ち着かない机
知らないですむことなのに知りたがり
ふる里の吊り橋だから怖くない
頂上のまだその上に展望所

三宅保州

これが最後だとお別れのクラス会
出席者は元気米寿のクラス会
昼寝してゐる間に短編の夢を見る
身体中あちこち壊れだす予感
大欠伸して明日への備えする

村上玄也

弁明がはつきり出来ぬ擦過傷
わめき声止んだ捨て身になつたのだ
五欲では終わらぬ紐付けがあつた
煮沸したけど死なないあなたの毒
後悔の跡は明日葉には見えぬ

森山盛桜

第72回 東北川柳大会

日 時 9月24日(日)午前9時30分開場
開 場 東京エレクトロンホール宮城6階
參 加 費 仙台市青葉区国分町3-3-7
柳 話 3000円(昼食・発表誌呈)
宿 題 「川柳の階(きざはし)」野沢省悟氏
(各題2句・自由吟は同一句に禁)
「 球 」 北山まみどり 選
「 鼻 」 菅原 浩洋 選
「キラキラ」 伊藤 豊志 選
「カ一ド」 山口まもる 選
「逃げる」 山田 昇 選
「自由吟」 野沢 省悟 選
「自由吟」 雪石 隆子 選
(1題2句詠・3人選)

席 題 出句締切 午前11時30分
賞 河北賞・川柳宮城野賞ほか
欠席投句 所定用紙使用、投句料1000円
(切手不可)、締切9月13日(水)必着

投句先 〒981-8007
仙台市泉区虹の丘1-6-3
田村富夫宛
川柳宮城野社 TEL・FAX 022-227-0575
河北新報社・川柳宮城野社

第5回 全国鉄道人川柳連盟・誌上大会

宿題と選者(各題2句・共選)

「 酒 」 石橋芳山・佐藤岳俊 選
「ライバル」 村山浩吉・梶野正二 選
「告白」 杜青春・吉尾昭史郎 選
「 陽 」 小島蘭幸・山野寿之 選
投句方法 所定用紙または便箋に4題8句を連記

參加料 1000円(切手不可・発表誌呈)

発表 「鉄道川柳」11月号

賞 各選者特選句に呈賞

締切 8月末日消印有効

投句先 〒689-0405

浅口市金光町占見新田1325-10

北川拓治 宛

電話 0865-42-6039

主催 鉄道川柳人連盟

句集の森



『高瀬舟』

永 なが
宗 むね
宗 むね
義 よし

極楽へ行かせてほしい鐘を撞き
蜜蜂の重みへれんげじと耐え
お月さまこんなお芋が出来ました
五線譜に書きたい春の川の音
追憶の虹はきれいな弧を描き
甘言に溺れて見たい月見草
風の音なのに老人腹を立て
横に向く自由を釘が持っていた
思い出の道で歩巾がせまくなり
降りるまで待てぬ笑顔のむかえ傘
和解した顔がならんだ屋台の灯
口下手が我慢のならぬ顔をあげ
四面楚歌じと手を見る爪が伸び
一枝の花へ思いのたけを込め
行き先も言わず出かけた十二月

(昭和49年11月12日発行)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

発掘の度に歴史が変わらるのか
人間の面をほしがる鬼もいる
出るどこへ出ようと悪い方が言う
森を出たビグミーを君知らないか
どちらでもいいと大きい方を取る
落款の朱が鮮やかな一字の書
毎日が父の日ですねお父さん
円盤を見たと子供は譲らない
虚と実の真ん中辺を風渡る
いつまでも酒飲めるよう休肝日
毎日が休日だから余暇がない
振った手が帰らなかつた雲の果て
わだつみのこえが沖から響く夏
マスカット白桃メロン夏の雲
水屋の旗少年の日の夏よ
生國は摂津の国に御座候
月並みな一生もよし羊雲

久 憂 効

木 本 朱 夏 選

松江市 中 筋 弘 充

梅雨入りとわざわざどうもありがとうございます
三面鏡どんな私も愛せない

左より右顔がやや美人です

尼崎市 板 谷 賢 二

摩訶不思議種なし西瓜種を売る
損ばかりしている氣する室外機
肩書は空白のまま名刺刷る
半額にされた刺身に意地がある
試着室の鏡付度ばかりして
人間の願い知らぬと流れ星

貝塚市 吉 道 あかね

頑張れ私今日も鏡に励まされ
朝が来た命のポンプ確かめる
なに気ない一日だから宝物
雨が降る命の水車回して
石段を踏みしめ神の近くまで
感情の蛇口ひねつて火種消す

加古川市 石 賀 邦 子

乾かない心のままに梅雨に入る
六月の仕事に紫蘇を揉んでいる
十葉の白さに偲ぶ人ばかり
瘡蓋にならぬ思い出にもならぬ
右手を庇い左手も泣き出した
長生きのおまけカルテが重くなる

大切にしがちに賞味期限切れ

下剋上無理です妻に勝てません

母看取れず上弦の月沈みゆく

高砂市 裕 木 る い

そのうちに大相撲にもベンライト
あと何歩足りぬと責める万歩計
血の色が薄いですねと医者が言う
顔よりも仕草が良いと気に入られ
右の手が前へ倣えと指図する
貧乏が遺伝をすると知った夜

交野市 山野双葉

日を閉じて。ボチも聴いてる鳥の歌
世話を焼く相手欲しくて犬を飼う

青紅葉そよぐ菩提寺墓終う

エンディングノートこつそり書く夜更け

梅仕事終えて今年の猛暑待つ

ジャスミンの香りにむせる君待つ夜

尾道市 村上和子

洗い立てシャツで遺る気の月曜日

お若いね言われマスクを外せない

マスク外せば消えてゆく恋ごころ

想い出の押し花はさむ日記帳

水たまりびょんと一飛びできた頃

健康を宝にゆるり喜寿の坂

生駒市 饗庭風鈴

鬱蒼の森開かれて泣くカラス

切り株の墓標が残る開拓地

巣を追われ行方知れずの小鳥たち

森消えてヒトの住みかが現れる

ふり返る昨日おぼろになつていく

例えれば月の砂漠をゆくひとり

大阪市 阪本秀子

君だけだなんて百人誘つてゐる
行き詰まるときには誰の声をきく
遺影みてやり取りをする天の父母

富士見市 中島通則

老いの目に乙世代は異邦人

優等生だった卵が問題児

売るほどに残ったマスクどないする

A.I.に文化芸術奪われる

忖度は一切しない三面鏡

糸切り歯昭和の母は強かつた

神戸市 酒井宏

夫婦して午後のコーヒー至福時

春うらら待つも楽しい花時計

ネギ坊主君にもやがて老いは来る

朝顔が今日は三つと孫の声

血糖値高めの僕を蚊が襲う

暑いねえ暑いですねと今日も暮れ

大阪市 森田遊子

日和見の私を許す傘を買う

夏椿落ちるべき位置知つてている

陰翳で立体感の出たハート

新緑の中も潜んでいる別れ

無限大 心のひだを拡げれば

悲しみが薄れゆくことの哀しみ

引出しの奥の未来はどんなだろ
好きなよう生きて弾んで良い感じ
めざましが今日の私を急き立てる

安来市 原 徳利

竜宮城の守衛になつたウツボ
熊胆を飲ませた母の苦い愛
間に合つた流れ焼香忍ぶ影

ぐつと抱き寄せるストロベリームーン

素人の目には解らぬツーシーム
スタートの興奮煽るファンファーレ

福山市 新庄芳春

神様も好きなお酒だやめられぬ
神様の試練と思い耐える日も

神様はいたずら好きで忘れんば
異次元の神業見せる翔と聰

順番は妻の後にと神頼み
神様は知っていますか僕のこと

尼崎市 山本百合

孫がこぐブランコ天へ弧を画く
かるがもの護衛がついた道中記
アイドルに見とれる口が半開き

気に入らぬマイナカードの顔写真
やつぱりなマイナカードの誤入力

隠してた顔半分に老いが寄る

大阪市 岡田恵子

雲ひとつない青空に抱く嫉妬
「まかしあと」言つた介護の荷が重い
人生のまさかを歩く二人連れ

影と行く病院までの長い坂
バラ色がなくて未来図未完成
強がりはおひとり様の隠れ蓑

柏原市 神崎江

寂しさが行き来している交差点
あと少しもう少しならやれるかな
持て余す私を生かす紙とペン

三叉路の迷いもいつか思い出に
バリトンに心とかされ夜が更ける
浮ついております恋をしてています

豊中市 齋藤奈津子

竹の子の勢い大地押し上げる
朝の庭せみの脱け殻愛おしい

夫への想い天まで届け短冊に
その通り粗品と書いてある粗品

グルメな鳥我が家ゴミは突かない
釣り餌を駄賃にできぬキヤッショレス

大阪府 奥野健一郎

渓流の風も一品夏料理

このところこんな筈がが増えていき
なにひとつ持論を変えぬ分らず屋
氣を抜けば丸い背中にすぐ戻り
後ずさる技も抜かるなアメンボウ
踏ん切りをつけてごろんと草の上

唐津市 前田廣幸

氣を抜いた途端方言零れ落ち
食べないじやなくて秋刀魚の高値ゆえ
制服が「以下同文」と同じ顔

幸せが語る苦勞の裏ばなし
人生百年一世紀のことじやろう

「ここだけの話」の効果一時間

神戸市 米田利恵子

卵かけ御飯が贅沢な令和
阪神の独走父が生きてたら

白黒の糸で間に合う穴かがり
モノクロの日々に誕生日の集い

出世払いに騙されてやり貸してやり
息子との喧嘩も懐かしい貢

寝屋川市 長尾千賀

私の好きなちょっと壊れているあなた
恋の火傷免疫淡い朱を残し

血液型Bですいつも嫌われて
ジグソー・パズル愛のピースが見当たらず

苺ケーキ涙腺もろくなる吉事
ピアノソロ指が終つた愛唄う

膝がまず気付いています梅雨の入り
アジサイの引き立て役の雨が降る

風呂の妻蚩が来たと呼んでいる

府中市 岸田武

紹介状病名がまた増えました
三面鏡どっち向いてもお人好し
ねぎらいが誤解を生んで疎遠なり

鳥取市 大前安子

躓いた場所が思い出熱くする
プライドで歩いて来たの母だもの
巣立つ子の灯台となれストレッチ
受け流すことも覚えたララララ
帰り来たかと靴音をつい探す
コロナ禍のマスク卒業七千歩

尼崎市 清水久美子

トラキチと一日五回語り合う
アジサイがラブコールする雨女

悪筆も漢字検定準二級
永ちゃんのロツクに和して燃え尽きる
狂い咲きする母の日のカーネーション
食通が勧める蛙エスカルゴ

尼崎市 宗和夫

恥と汗かいて使えたセルフレジ
マイナポイントやるといわれりや貰つとこ
梅雨の巣ごもり心にカビが生えそうで
タイガース負けたら妻は早寝する
お互いの思い違いで良い夫婦

恋人か同志か妻と僕の齟齬

河内長野市 穂 口 正 子

王様に誰が付けるか黒い鉛
若者が空氣読み過ぎ羈気がない

外貨稼ぐグリコ万歳戎橋

値下げシール客が集まるわらわらと

冷蔵庫に何故か通帳落ち込む日

老女でもカンナが似合う夏生まれ

東大阪市 青 木 隆 一

約束ははかなく水に浮かぶ草
悲しみは夜に鳴く蝉うすい羽

残り香は土の匂いに似て不思議
消しゴムは国の境を消す役目

無機質はコンクリートに残るシミ
靴音は遠い昔に知った恋

大阪市 吉 積 栄 次

選球眼良かつたはずが妻選ぶ
それなりに幸せそうに暮らしてゐる

陽当たりの悪いところに俺のシャツ
不自由なく俺の稼ぎで遊ぶ妻

何もせず世の中ばかり恨んでる
残酷に蜘蛛の糸切るお糸迦様

広島市 松 尾 信 彦

ぬけぬけと酒が言わせる満足度
難聴の頓珍漢を訳す妻

イクメンは嫁の指図にムダがない
アクティブはもう似合わぬ生きる知恵

セルフより笑顔につられ並ぶレジ
大病し三途の川をUターン

奈良県 室 田 行 久

吹き荒れる妻の逆鱗ただ耐える
メカ音痴らくらくスマホでも挫折

練習が奇跡を呼ぶと言うコーチ
新機能すぐに飛び付く一丁噛み
血の巡り良くなるサプリ飲み忘れ

大洲市 花 岡 順 子

小さい字は読まれたくない説明書
赤の強さを中和しているかすみ草
信号の青を信じて生きている

ライフワークもつと楽しみみたい老後

理系です東大卒じゃないけれど

囲炉裏端幸せだった頃思う

宮崎県 惠 利 菊 江

草に負け涙一粒慰める
いつときの刺激をもらうソーダ水

蜘蛛の巣も平気になつて草を刈る

鎌の刃が草の涙で濡れている

青臭い草の叫びが沁みる胸

根元から百足一匹腰が引く

約束ははかなく水に浮かぶ草
悲しみは夜に鳴く蝉うすい羽

残り香は土の匂いに似て不思議
消しゴムは国の境を消す役目

無機質はコンクリートに残るシミ
靴音は遠い昔に知った恋

選球眼良かつたはずが妻選ぶ
それなりに幸せそうに暮らしてゐる

陽当たりの悪いところに俺のシャツ
不自由なく俺の稼ぎで遊ぶ妻

何もせず世の中ばかり恨んでる
残酷に蜘蛛の糸切るお糸迦様

ぬけぬけと酒が言わせる満足度
難聴の頓珍漢を訳す妻

イクメンは嫁の指図にムダがない
アクティブはもう似合わぬ生きる知恵

セルフより笑顔につられ並ぶレジ
大病し三途の川をUターン

奈良県 室 田 行 久

吹き荒れる妻の逆鱗ただ耐える
メカ音痴らくらくスマホでも挫折

津山市 高橋 由紀女

惜しみなく五感潤す鳥の声

老いたとて爪とヘアは伸びてゆく

会釈した少年どこの誰だつて

過疎に住む心ゆだねる夜半の月

暫くの投句の無沙汰落ち着かず

美作市 岡本余光

活力はないが正しく生きてゆく

永らえて心の自由得られそう

不器用を自覚しながら往く余生

身勝手も人に迷惑かけぬほど

満月に心が揺れたのは昔

広島市 田桑恵子

異常なしごりの通りいい夕餉

割引券二人まで可に誘われる

神の采配時にはミスることもある

マネキンと勝負は出来ぬ試着室

未知尋ねスマホの扉ノックする

広島市 森田博之

老いの道指示器ときどき出し忘れ

俺抜きの家族会議という変事

涙目が僕の行く手を迷わせる

願わくば可愛いボケで終りたい

仮間から傘お持ちかと亡母の声

竹原市 土井輝恵

ラジオ体操体思えている筈が

コロナ後はギクシャク御近所様の色

プレゼント折角ですがM寸は

ケアハウスと入院ばかり往復し

瞳の光ワンパクになる素質あり

三次市 伊藤寿子

柳誌きた恋人のように封開ける

あの世へ行けば恩師に逢えるかまだ夢に

三十年も続いた趣味は宝物

まだ読める書ける歩ける人間だ

三婆会をホテル予約はまだ元気

山口市 中前幸子

あじさいが咲いて梅雨空軽くなる

落ち込んだ日の太陽はまぶし過ぎ

道標傾き斜かえらない

こころの痛み癒す呪文を考える

殆ど喋らない独りの一日

佐賀県 真島久美子

夏最中 自己啓発の本抱いて

手荷物を預けて少し浮いている

雨上がりまた母さんが虹を産む

人の顔しててるか覗き込む鏡

ボーチからやましい事の二つ三つ

那覇市

禱

モモト

弘前市

小山内

真由美

引退つて生きてる限りないかもね
泣きだした外反拇指のハイヒール

爪揃え先にのびたい無名指

失敗の数成功の道しるべ

連れ添うて夫婦喧嘩も命がけ

那覇市

宮

すみれ

列島にJアラートに怒怒怒する
三勝目孫の試合にあぶら汗

夏空へ申し訳ないゲチ一つ

野良猫がおどおど小庭で子を生んだ
やわ肌を右往左往で蚊が狙う

松山市

郷

み や

引き受けたつもりはないが傘を干す
気持ちだけ忙しそうね梅雨晴れ間

地方紙に見つけた名前ラインする
ササ百合が咲いて何かを待つている

田

み や

ササ百合が咲いて何かを待つている
ため息を聞かれたようで一気飲み

白河市

鈴

木 たけし

骨のない墓を暴いた大地震

摺り足は認めてくれぬ万歩計

味付けは変わらなかつたりニューアル
昭和期を語れば民話めいてくる

看板を外した家は空でした

紫陽花に小さな花芽誕生日
あるはずの風景戻りはつとする
そうだねつてすべて頷く曇り空
コンビニのアブリにも慣れ恙無い
拝啓と見えない明日へまた続く

船橋市 中 嶋 常 葉

空っぽは見せない笑いだけの部屋

ゆつくりと別れて思い出し笑い
優しさを涙にかえて鼻濁音

キザなバラ女心をやり過ごす
始まりと終りに君のカーニバル

横浜市 巖 田 かず枝

高一の孫のつけてる化粧水
母を越し父も越したよ背比べ

一面の向日葵畠待つてるよ
嬉しいが無償の付けの恐ろしさ

戦争をしない備えの防衛費

横浜市 加 藤 佳 子

重かつたマスクに別れ告げて梅雨
紫陽花が私を見てとコンタクト

達吟家の訃報に思う六月忌
ダム破壊ここまでやるか侵略者

究極の犯罪なんだ戦争は

小田原市 虎澤昭久

風呂帰り母の背中の湯の香り
暇な足老いることだけ忙しい

友減るも薬の数は維持してる

蝶々が目の前飛んで誘惑す

ゆらゆらと明日はお任せ老いクラゲ

神奈川県 小田幸子

ああおいしい介護5の母朝の声

年月は顔と頭にシワつくり

芳潤さ増す一口の酒ふくむ

同窓会シワ描き足して思い出す

同窓会きのうのよくな半世紀

東京都 宮田栄子

境内に木遣りが響く江戸の粹

父母よ待たせた墓参ふる里へ

友と行く五月の薔薇の香しく

見上げれば花も咲きます夏木立

白詰草名の由来知る朝ドラで

豊橋市 小松くみ子

今年こそやるぞアサガオのカーテン

白い百合植えた憶えもないが咲く
高い樹をバオバフ風にバッサリと

子沢山ツバメの親に愛を見る

うれしさとさみしさ混じる巣立つ庭

大阪市 今村和男

雨の日の早明浦ダムはよく眠る

傘を差し真面目な顔で歩く人

新聞が元気をなくす雨の朝

パトカーか救急車かとのぞく窓

後はもう漢方だけが頼りです

大阪市 尾崎文子

若者に昭和の歌がブームらしい

A.I.が老化するなと尻たたく

過去見るな百歳時代どう生きる

マスコミが少子化ばかり言つている

マイナンバー国の言うこと信じない

大阪市 白谷よしみ

突然にここにいますと咲いた花

つゆ草の花のブルーは母の色

扇風機心くばりで首を振る

扇風機風をよんだか首振らず

逢いたくて昨日の犬を待ちぶせる

大阪市 滝井えみこ

レモン飴なめても胸は晴れません

カレーランドん鉄槌下す白シャツに

海苔破れおにぎりからも憎まれる

ストローの延長上にふくれ面
ようかんに免じて耐える長話

大阪市 田原康雄

大阪市 宮本千恵子

シルバーの跡地気になる二百坪

空地にはマンション建つと妻の勘

月一の句会散髪片頭痛

紫陽花を好きと言う妻晴れ女

マスクなし散歩の時は大手振り

大阪市 中村民子

堺市 古川光雄

よく眠る免疫力は保たれる
寄り道で知らない事を教わった

夢を追う孫の話は少し盛り

うつかりと話に乗った老いのミス

古惚けた褪せた自転車まだ走る

大阪市 中村峰子

池田市 倉本一弥

ゲタ履いてしゃがむ暮らしが懐かしい

この夏は素足にゲタと決めました

このごろは遅寝早起き寝付き

後期です少しぜいたくしたくなる

カレンダーやめて安心明日を待つ

大阪市 松田聰

泉大津市 葛城隆雄

コロナ禍に社会の歪み隠せない

太陽に当たると元気出るらしい

社会的孤立犯罪増やして

青天に負ける気がせぬタイガース

平和叫び核のボタンは持ち歩く

さんざんに笑わせといて落ちで逃げ

好き嫌い勝手気ままが今孤独

あれやこれ両手に余る願い事

はじまつた言うた聞かんのじいとばあ
さんざんに笑わせといて落ちで逃げ

昼饅頭夜はお酒の二刀流
マスクするしないで悩む四月馬鹿
遠慮がちに輝いている昼の月
免許返納回転寿司が遠退いた

久しぶりに逢つた友の名出てこない

ワニの歯をタワシで磨く飼育員
懐かしい押しても乗るあのラッシユ
推せません世襲議員はお断り

肩揉み代小三の孫二十円

背伸びして見て下さいとチューリップ

藤井棋士今や棋界の七ツ星

好き嫌い勝手気ままが今孤独

あれやこれ両手に余る願い事

はじまつた言うた聞かんのじいとばあ
さんざんに笑わせといて落ちで逃げ

吹田市 西沢司郎

仲間にも一人居ました天邪鬼

へし折つてやりたい傘も雨で友

救いようない方ですが今も友

雷鳴にびびつて読みが狂い出す

リストラにあわずに生きている命

摂津市 荻布律子

長調の調べの中の不幸せ

カルガモのお尻ふりふりランウェイ

嘶きの風響き今糺の森

スース女子屹立するビル闊歩

雨音が逢う逢わないと問いかける

摂津市 野々村 レイ子

淀川を独り占めして鳴くひばり

泣き虫もケセラセラだよ鬼瓦

支払機シブチンの老い監視する

膝小僧悠長な老いひたひたと

人は皆自分が大事それで良し

高槻市 三谷白黒

何しても高齢者だけのコミュニティ

家の良さ旅をしてみてわかること

食べて寝てそれだけでよい充分だ

奥方と喧嘩しないで長旅を

眠くなる健康である証拠です

豊中市 貝塚正子

診察を待つているうち痛み消え

うちの子も「と金」となれと背中押す

父さんの金歯が今は高く売れ

さてどこや改札前で探し物

SLのように息はき坂のぼる

羽曳野市 黒木ひとみ

親切な言葉の裏に黒い影

八十路でも友のお陰で日々楽し

爽やかに目覚めて今日も頑張ろう

今世はスイッチONで家事こなす

亡き親に感謝伝える墓参り

阪南市 藤岡笑三

なんやかやあつて金婚いと嬉し

徒競走隔世遺伝孫はビリ

書道展大脳皮質大混乱

闇の街魑魅魍魎が闊歩する

禰宜の声小鳥も祈る神やしろ

東大阪市 青木ゆきみ

三年ぶり花火の玉がじゅつと泣く

心にはジユークボックス抱えてる

ボリュームを合わせて生きる夫婦仲

引き出しを開けて人生振り返る

藤井寺市 松井正義

なたね梅雨台風コラボ荒れ狂い
死亡記事同じ年だとギョッとする

翔タイム以外に聞けぬ良いニュース
梅雨空に北野ミサイルいきりたつ

アラートでまたも朝ドラ見そこねる
集まれば医院の査定姦しい

大阪府 浦上恵子

言い訳に使う雨待つもつと降れ
即答は避けます断りのメール

十七字拝むは辞書と虫めがね
干涸びる程度に散歩する晴れ間

集まれば医院の査定姦しい

大阪府 高木道子

五年前の紺のスースがそっぽ向く
告げ口も無駄口も聞くマスク無し
愛想良く笑顔相槌ああしんど
友達に時の移ろう姿みる
一人居のテレビに一日喋らせて

神戸市 青木公輔

歌唱指導に疲れ句箋とにらめっこ
デコボコのボコに頼つたのが不覚
下手やなあそこまで言うな君もやろ
賞味期間さてそれからの旨い味
申告敬遠そろそろいじめ始まつた

神戸市 石川克美

卓球で続くラリーに息を呑む
同世代ひな・みう・みま・みゆ みんな2字

AIが信じられない世を創る
浅知恵で生きて来たのよ幾年月

あてもなくさまようかなしみ知りました
信じますそれが愛する第一歩
がらんどう私の心いま空き家

訣別を告げたあの人不人情
裁くのは神のお仕事預けます
愛してるとどんなワラにもすがりつき

神戸市 田本古鈴

自意識が普通のカレー作らせ
飲み放題ビーチ合わせて無礼講
死ぬことを知つてそれぞれ持つ悟り
おだてられつるつる滑る軽い口
さばさばと負けを認めて軽い肩

神戸市 横田次郎

叱られて諭され勞わられ娘のメール
毎食のメニュー写真を娘にメール
献立のメールで老母の達者見せ
娘の還暦背なし人生滲ませて

神戸市 みぎわはな

還暦の娘よ人生はこれからだ
歌唱指導に疲れ句箋とにらめっこ
デコボコのボコに頼つたのが不覚
下手やなあそこまで言うな君もやろ
賞味期間さてそれからの旨い味
申告敬遠そろそろいじめ始まつた

神戸市 村 松 久 江

三田市 野 口 龍

なかなかに手強い孫とひと波乱
妥協せぬ強情つぱりはばば譲り

若者にシニアパワーを御裾分け
スケジュール楽しみだけを組み立てる
理想論掲げて進む能天気

尼崎市 八木幸彦

吊り橋の高さが怖い第一歩
リハーサル無事に終つて深呼吸
青い鳥探しています今日もまた
時々ですが一人で泣いて笑つてます
カップ麺ここから長いあと一分

三田市 松下英秋

踊り場が少しあるから安堵する
晴れた夜は月の模様がよく見える

心技体充実膝もよく曲がる

不夜城の街でもやがて日は暮れる
思い出が地図から消えていく無常

小野市 藤原泰宏

行かずとも何処の家にも春は来る
千秋楽土俵の上の低気圧
二種類の蛙鳴いてる田植えあと
爆心地でやつと黙祷G7

三田市 森 玲子

反対の意見も言える民主主義

母の日と誕生日とが続いた日

母の日のチエリーの種を庭に植え

要る要らぬもしかしたらと片付かぬ

老い猫の鳴き声だけで意思疎通

ありのまま生きて行きますグレーへアー

宝塚市 岸田万彩

雜踏を歩く五感はマキシマム

かろうじて8020をクリア
人間は金を貯めたらすぐ腐る

涙腺のゆるみを隠す強い口

こもれびが母との会話和ませる
八十の恋仲を取りもつお人好し
おさな児に空氣読まれて狼狽える
おすそ分け少しで足りる老ひとり
娘の出産身体劣化あせる母

丹波篠山市 澤

良子

生駒市 永田 芙美子

久びさの忘れた耳にイヤリング
演奏会体のリズム乗りきれず

十四年我家に元気くれた犬

愛犬も家族の一員家族葬

素朴でも言葉の奥の深さ知る

西宮市 高瀬 照枝

和歌山市 倉橋 悅子

立つ訓練湿布は足になんぎ減る
積立金リフレッシュには役に立つ

バラ開くその時待つて絵手紙に
年を積むお裾分けですひじき豆

六月の晴れの日時は大事なの

西宮市 高橋 千賀子

和歌山市 定松 宏枝

食欲に従順すぎるメタボ腹
泣き面に蜂床に落した生卵

酢漬つくだ煮新生姜のレパートリー
ささやかなしあわせもらうガーデニング

梅雨入りにせめてマニキュア赤にする
錯覚かまだたっぷりと時間ある
酔いしれて忘れてみたい世の拵

香り立つスイセン団体で笑う
苦も楽も抱いてあの世の一里塚

笛百合が囁くようく揺れる里

西宮市 藤原 みよし

和歌山市 定松 宏枝

どう生きる考え方だけ怖かった
気楽だな一人暮らしが板につく

どこ行くの尋ねられたよ黄泉の国

いつの間に隣の猫が覗き来る

ラツキヨ漬け誰か来ないか待つ日々や

暁采の純白眩しブーケトス
向日葵のうねりの中に身を焦がす
里帰り訛り飛び交うおもてなし
地蔵盆浴衣の君を駅で待つ
盆踊り見物席で手が踊る

和歌山市 北原 昭枝

和歌山市 倉橋 悅子

ギクシャクな心を洗う雨が降る
五線紙の甘い旋律雨の音

父をまち番兎脇に幼き日
空ばかり見上げる雨に想うひと

雨音が静かに響く仕舞い風呂

和歌山市 定松 宏枝

好き嫌い無くて毎日ハッピーで
いつもより多弁になつた二合半

いやいやをする児の如くアマリリス
雨の日は昭和レトロの歌を聴く

娘に内緒少しお高い化粧品
ラツキヨ漬け誰か来ないか待つ日々や

和歌山市 佐 藤 ま き

海南市 山 中 閑

心地よい曲で覚めたい日曜日
夜更かしの寝惚け眼で布団蹴る

宵張り丈夫が取柄とは不遜

不遜な自信老いの明日はわからない

忘れてた早寝早起きの壮快

和歌山市 鍋 嶋 澄 子

アマリリス母が逝った日咲いてみせ

杖つくもあれこれ観たい好奇心

バラの花お風呂に浮かべ貴婦人に

奪う春戦やめよう空が泣く

鳥さわぎひとつ残らずサクランボ

和歌山市 西 川 千 鶴

発泡酒ビールに負けぬ器量好し

酔狂と言われる趣味を持つて

ペットロス一年経つて辛さ増す

口角を上げて詐欺師がやつて来た

断捨離のリストに載せておく夫

和歌山市 まつもと もとこ

キラキラと琥珀になつた古い傷

おひさまと風を味方にしたシーツ

パワーハラを訴えてくる五十肩

マイナンバー不安がよぎる使い道

死ぬときもマイナンバーで処理される

株分けの都忘れを嫁がせる
カーネーション子からの真つ赤な新品種

長い髪バッサリ寄付をする覚悟

影見せずセンスが光るアマゴ釣り

線状降水帯街中漬く怖気

和歌山県 三 枝 真智子

梅雨入りへ紫陽花びんと背を伸ばす

気配りの友人持つて救われる

「ありがとう」が世界を救う手立てかも

日やけ止めに頼るも年は争えず

腰伸ばす特効薬は見当たらず

鳥取市 上 山 一 平

採血の窓ごしに見る山ざくら

何時か見た麒麟の肌のプラタナス

何時か会うスクランブルの交差点

何時か去る喜怒哀楽のちぎれ雲

童心にかえるお祭りリンゴ飴

鳥取市 狹 武 紫 陽

早すぎる梅雨入り何を急ぐのか

白湯を飲む長生きしたい訳じゃない

月曜日カレー曜日は惚けぬため

袋とじておく笑い合つた頃

平均点あれば充分だと諦す

鳥取市 山野すみれ

鳥取県 田中重忠

草取りが趣味の一つになりました

家出した猫は放浪を楽しむ

自家製の個性豊かな温野菜

枝豆の塩少々が効き過ぎる

皿洗いダイヤの指輪邪魔になり

倉吉市 宮田風露

鳥取県 橋谷静江

顔の皺脳に移動が出来たらな
三年のマスクが皺を隠してた

田植時蛙が音頭取つている

薰風に散歩の時間長くなる
約束を守つて友の笑顔見る

倉吉市 若松由紀子

松江市 相見柳歩

失敗も笑い話になる月日
老い独りレンジでチンの晩ご飯
言いわけはあらゆる言葉ならべたて
天然ボケ分つてないのは自分だけ
材料は沢山あるが料理下手

米子市 川本美津子

松江市 山根邦代

ストレスは貯まるが金はすぐ逃げる
思い出が昔話になつて來た
茶の友が増えて毎日ボケ防止
秋日和日向を拾い散歩する
不便でも昔の暮らしさに合う

威風堂々剪定おえた庭の松
うずを巻き別れをおしむ花筏
夢を見るたびに川柳ういてくる
ニシン焼く昔飯場でしたように
あと少し生きて五輪を見るつもり

チャン呼びで電話をかける友がいる
もうすこしネジを巻いて元気だす
少しでも散歩が出来るストレッチ
夫の世話をしているうちが花だつた
惜しむ古着なかなか片づかず

降参だ花一輪の強さには
ライバルの息が上がつたスパートだ
騒いだらやんわり叱ることにする
工夫してあなたのため咲かせます
人生の春も年じゅう恋をした

朝一でお日様温い笑顔なり
小さいが可愛い新芽なでて
カゲ口のきらいな人と仲が良い
久々に逢えてお互い涙ぐむ

一人居もいただきますにごちそさん

鳥取県 高 橋 治 代

暇になる家事分担を免除され
曇空あじさい映える癒やされて

人並みと想い頑張る今日生きる
年重ね人の意見も今聞ける

ドーム背にVサインして自撮りして

国連もなす術もないウクライナ
Gセブン核廃絶に一顧なく

とびつきりの笑顔ふりまく選挙前

京田辺市 加山勝久

丹波篠山市 河南すみえ

心して作ろう丸いにぎり飯
哲学を拾つて歩く一里塚

山谷越え自分の道だ悔いはない

楽しい夏老いを忘れて咲き誇る

小野市 山根弘華

東京都 尾畠なを江

住んでみて都会暮らしも良いものだ

毎日が日曜日です忙しい

家計簿が人生語る証人だ

幸福と常に自分に言いきかず

大阪市 池野恵美子

どうしよう甘い手土産もらつても
愛犬の生き様語り子と泣いて

飼い主の心読みとり見上げてる
気をつけて安価なものは毒がある

三田市 木村マユミ

東京都 高岡弥生

ひとつこの娘のライン氣い付けや
いつの日も話相手は仏さま

お迎えはいつでもいいよ言うけれど
ストレスのはけ口求め友が来る

一夜雨街の空気を一掃し
数えきれない思い出を噛み締める

公園気功身も心にも歓喜
遠い日の懐メロ聞けば青春が

三田市 幸田厚子

不義理した足は里向き母恋し
無事退職部下から粹なサプライズ

ありがとう五文字で笑顔丸くなる
A.I.アイボ認知の婆を癒して

丹波篠山市 河南すみえ

丹波篠山市 河南すみえ

老夫婦犬は知つてると下
雷鳴に犬も家内もよく吠える
野良仕事カエルを起こすクワの音
コロナ去りランチ仲間の腹の虫

雨降りでペンを片手に小半日
少しだけルール無視して友が去り

大好きな友のしぐさをまねてみる

小野市 田中辰夫

東京都 尾畠なを江

ルールから少しはずれた自分流

大好きなりの笑顔ふりまく選挙前

三田市 木村マユミ

大阪市 池野恵美子

ドーム背にVサインして自撮りして

国連もなす術もないウクライナ

Gセブン核廃絶に一顧なく

とびつきりの笑顔ふりまく選挙前

京田辺市 加山勝久

丹波篠山市 河南すみえ

大阪市 近 藤 風 羅

八尾市 田 邊 浩 三

追いかけて桜めでたい北の空
思いつく五七五のうれしさや
友の回忌その後の話ほろ苦い
ノンアルでさかなは常のきびなごで

大阪市 前 川 善 之

歯が痛い生きている歯があったのだ
広島が世界の友好確認す
曾孫等は競争相手少ないか
出生率最低日本はどうなるの

暑い夏熱中症にも電気代

若者よ甘い話に怖い裏

電話詐欺今の話はちよつと待て

この世では努力だけでは生きられぬ

歯科とくじ当たり外れがあるみたい

大食いをテレビに映すバカな国

ショウヘイの平和な景色見るテレビ

同じ華二度と咲かせぬ万華鏡

ドック前ビール減らして悪あがき

家の傷わけ思い出し苦笑い

マスクなし口紅新調笑みこぼれ

断捨離だ服に食器に取説に

寝屋川市 坂 本 ミヨノ

栄光も挫折人生今白寿

マスクなしまだ離さない老若も

化粧してマスク忘れてすぐつけた
ハム目玉朝のパン食飽きにぎり

「川雜」語録 (22)

屋上の詩人

須崎豆秋

迷ひ猫が「よろしくたのむ」と紹介状もなにも持た

ずに転げ込んで来て、づるくべつたりに家族になつてしまひました。まだ若い猫ですが、この猫あんがい素質がよく、取りわけお食事については人間よりもはるかにお行儀がいい、やうで鼠を捕つて食ふといふやうな殺伐なことは決していたしません。

(中略)

屋はたいてい押入のふとんの上で寝てばかり居りますが、夕暮れの頃ともなると又屋根へ上つて、こうもりの飛ぶ鉛色の空をながめて居ります。まだ名前が決つて居りませんがさしあたり「やね屋さん」と呼んで居ります。

私はかつて犬を飼つていた頃にはよく犬の句を作りましたが、こんどは猫の句が作れそうです。
（「川柳雜誌」昭和24年7月）

英語 de Senryu ⑩

麻生葭乃 『福壽草』 (1955)

英訳 吉村 侑久代 Kim Horne

鳳仙花竿の暁のかかるとこ

touch-me-not flowers

bloom at the drops

from the washing pole

錦魚草プチブルとまでゆかぬ庭

snapdragon blooming

in the garden

not as petit bourgeois

touch-me-not 凤仙花 *bloom* 花が咲く *drop* 暁 *washing pole* 洗濯竿

snapdragon 金(錦)魚草 *garden* 庭 *not as* ~のようではなく *petit bourgeois* プチブル

～リバーウィローのため息～⑩ イギリスで俳句を楽しむ経済学者、長谷川治清氏

私は、“企業と管理の国際比較”専門の経済学者である長谷川治清さんと不思議なご縁で繋がっています。高校、大学が同じ学び舎であったにもかかわらず交流はなく、50代の頃、在職した大学の上司から、イギリス留学中に非常にお世話になった人として、長谷川さんの名前を伺いました。その後、大学時代の先輩から長谷川さんが俳句に興味を持っているとのことで、作句のアドバイスを依頼されました。長谷川さんはイギリスのシェフィールド大学で教鞭をとり、退職後もイギリスに32年も住み続けています。彼は、日記代わりの俳句にエッセイと写真を加えて、彼の人生が凝縮した作品集『イギリス折々』(一向社 2023.4)を出版しました。友人とのウォーキング、ガーデニング、畑仕事、フライフィッシング、そして日英の友を交えた読書会を描いた『イギリス折々』は、シニア世代の生き方の在り様を私たちに語りかけます。作品の一部を紹介しましょう。

ヨークシャー歩く笑顔や春時雨

赤椿一輪咲きて朝のティー

我が庭に朝顔咲くや故郷かな

秋雲や土を耕し母の傍

シェフィールド今は無き鉄秋の雨

晩秋や妻のフライに掛る魚

用もなく日本に戻る師走かな

私は(用もなく日本に戻る師走かな)が気に入っています。(用もなく)に日本への万感の想いが伝わってきますね。

はるらんまんはるらんまんの大あくび	岡山市	丹下	凱夫	西風に乗つて硝煙臭い風	奈良県	中原比呂志	行列の先頭ちょっと恥ずかしい	樺原市	居谷真理子	
ぽんぽんが痛いと言ひにくる男	佐賀県	真島久美子	神戸市	敏森 廣光	西風に乗つて硝煙臭い風	奈良県	中原比呂志	行列の先頭ちょっと恥ずかしい	樺原市	居谷真理子
失敗は本氣で好きになつたこと	尼崎市	回転椅子にわたしの進む道を聞く	松山市	大内せつ子	ヒマワリは咲いているのかウクライナ	神戸市	敏森 廣光	西風に乗つて硝煙臭い風	奈良県	中原比呂志
渋滞も怖くはないぞ紙パンツ	香芝市	山下じゅん子	黒石市	黒田 茂代	エコバッグ肩にうろうろ妻の後	西子市	池田 美穂	西風に乗つて硝煙臭い風	奈良県	中原比呂志
献立が決まって動作速くなる	神戸市	石澤はる子	奥澤洋次郎	米子市	句を産めぬわたし鶏なら殺処分	西子市	池田 美穂	西風に乗つて硝煙臭い風	奈良県	中原比呂志
一日のスタートライン花に水	黒石市	中嶋 常葉	岡本 余光	米子市	とりあえず書いとく推敲は後で	西子市	黒田 茂代	ヒマワリは咲いているのかウクライナ	神戸市	敏森 廣光
梅雨の入り気合いを入れて降つて いる	美作市	船橋市	羽ばたける息を吹きかけられたなら	西子市	二度読んだけどやつぱりボソだつた	西子市	黒田 茂代	エコバッグ肩にうろうろ妻の後	西子市	池田 美穂
嬉しさがくるくるくると舞う日傘	岡本 余光	北山まみどり	黒石市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	池田 美穂
ぽんやりとしていても息はしている	北山まみどり	遊子	北山まみどり	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	池田 美穂
好きなのに背中合わせによじれる	遊子	筋トレのモンローウォーク悪しからず	遊子	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	池田 美穂
言論の自由首席が独り占め	黒石市	大内せつ子	大内せつ子	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	池田 美穂
体脂肪落とすチャンスの物価高	北山まみどり	尼崎市	尼崎市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	池田 美穂
羽ばたける息を吹きかけられたなら	遊子	尼崎市	尼崎市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	池田 美穂
締め切りはとても大事な支えです	遊子	尼崎市	尼崎市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	池田 美穂
筋トレのモンローウォーク悪しからず	遊子	尼崎市	尼崎市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	池田 美穂
勝つた喧嘩ばかりを悔いでいる夜更け	尼崎市	尼崎市	尼崎市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	池田 美穂
抱いた猫も眠れば重し立ち話	尼崎市	尼崎市	尼崎市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	西風に乗つて硝煙臭い風	西子市	池田 美穂

半世紀よく持つたなど赤い糸	三原市 筒重 耕三	貝塚市 石田ひろ子	横綱が休み金星稼げない
それなりの起伏だったと歳が言う	越谷市 久保田千代	鳥取市 伊藤のぶよし	鳥取市 岸本 孝子
整体に夫婦で行つて老化阻止	鳥取県 竹信 照彦	第5類平気のはずがまだマスク	手抜きしたはずのバラ寿司ほめられた
高齢化どこもかしこもスクワット	大阪市 古今堂蕉子	堺市 内藤 憲彦	過去はどうあれ翁嫗の今が旬
後期だと騒いだ頃がなつかしい	米子市 野川 宣子	京都市 清水 英旺	川西市 大坪 一徳
物忘れ歳のせいです喜寿だもの	枚方市 谷 英也	郡山市 安藤 敏彦	孫娘からライン来るのを待つてある
八十路ですまだ登る山がある	石川県 堀本のりひろ	郡山市 岸田 万彩	毎日が明日を迎える前夜祭
もう八十幾つになれば芽が出るか	黒木ひとみ	郡山市 岩田 光子	三年の習慣マスクと切れぬ仲
苦難越え平稳な日々八十路なり	羽曳野市 鞍脱ぐとにつこり笑う足の指	郡山市 伊藤美枝子	堺市 内藤 憲彦
大阪市 谷口 義	芦屋市 竹山千賀子	郡山市 伊藤美枝子	横綱が休み金星稼げない
うかうかと生きてうかうか米寿です	平田 実男	郡山市 伊藤美枝子	鳥取市 岸本 孝子
卒寿ですまた世話役が一つ増え	松江市 中筋 弘充	郡山市 伊藤美枝子	手抜きしたはずのバラ寿司ほめられた
卒寿です生生命線はどのあたり	河内長野市 岡田 恵子	郡山市 伊藤美枝子	過去はどうあれ翁嫗の今が旬
鳥取県 山下 節子	河内長野市 穂口 正子	郡山市 伊藤美枝子	孫娘からライン来るのを待つてある
三食をまだつくれます老いの膳	米子市 竹村紀の治	郡山市 伊藤美枝子	毎日が明日を迎える前夜祭
石田 隆彦	花柄の雨傘とゆく美容室	郡山市 伊藤美枝子	三年の習慣マスクと切れぬ仲
ガキだった頃は見せない好々爺	米子市 竹村紀の治	郡山市 伊藤美枝子	堺市 内藤 憲彦
鳥取市 桥本市	津山市 高橋由紀女	郡山市 伊藤美枝子	横綱が休み金星稼げない
逆さに振れば鼻水くらい出るだろう	境港市 藤原 久直	郡山市 伊藤美枝子	鳥取市 岸本 孝子
吹田市 太田 昭	羽曳野市 德山みつこ	郡山市 伊藤美枝子	手抜きしたはずのバラ寿司ほめられた
残された貴重な時を昼寝する	野アザミを残して進む草刈り機	郡山市 伊藤美枝子	過去はどうあれ翁嫗の今が旬
マイナンバー三途の川で使用する	マイナンバー三途の川で使用する	郡山市 伊藤美枝子	孫娘からライン来るのを待つてある

初年金でうれしいデート靴笑う	大阪市	白谷よしみ	若かった視線あつめた頃の服	尾道市	小川 道子	肉じゃがと地酒が待っていた帰省
奈良市	米田 恭昌	年金少々子宝あつて良しとする	鳥取市	山野すみれ	米子市	後藤 宏之
河内長野市	村上 直樹	年金に凭れ値上げで四苦八苦	鳥取市	山野 双葉	交野市	ほろ苦い風味に進む吟醸酒
年金が太いと増える友の数	鳥取市	年金が太いと増える友の数	富士見市	中島 通則	枚方市	藤田 武人
和歌山市	上田 紀子	お客様に仕事をさせるセルフレジ	三田市	堀 正和	池田市	倉本 一弥
尼崎市	藤田 雪菜	百均で手とり足とりセルフレジ	豊中市	藤井 則彦	大坂市	江島谷勝弘
岩国市	上村 夢香	百均のテナント入れた百貨店	鳥取市	狭武 紫陽	神戸市	上田 和宏
高槻市	松倉 正美	セルフレジスタッフの声高くなる	羽曳野市	宇都宮ちづる	豊岡市	藤井 智史
神戸市	初代 正彦	均に気まずく並ぶ300円	奈良県	本庄ひろし	大坂市	江島谷勝弘
尼崎市	室田 行久	自尊心芽生えた孫に誉められる	室田	藤澤 照代	神戸市	坂上 淳司
宇都宮知子	期待してのぼせただけの美人の湯	期待してのぼせただけの美人の湯	豊橋市	小松くみ子	豊岡市	坂上 淳司
宇都宮知子	叩く手を待つてたメダカ朝ごはん	叩く手を待つてたメダカ朝ごはん	大坂市	永田 紀恵	大坂市	小野 雅美
尼崎市	山田 耕治	ママには内緒 孫に信用されている	尼崎市	御開きの声に未練の銚子振る	尼崎市	松岡 篤
尼崎市	尼崎シマ子	コロッケに御醤油すきにさせてます	尼崎市	二周しても地下の居酒屋戻れない	尼崎市	小野 雅美
横浜市	清水久美子	妙齢の子等に虫除けキンチャール	東大阪市	自分との戦いなんだ休肝日	尼崎市	松岡 篤
横浜市	加藤 佳子	施設では番茶 茶を点じるなど夢	大坂市	休肝日書経のよう酒と書き	大坂市	青木 隆一
尼崎市	尼崎シマ子	3年振り役所広司に会いに行く	尼崎市	痛み止めの代わりに酒を飲んで寝る	尼崎市	澤井 敏治
尼崎市	尼崎シマ子	尼崎シマ子	尼崎市	尼崎シマ子	尼崎市	尼崎シマ子

共選欄

檸
檬

「順」 江島谷 勝 弘 選

羽曳野市 磯本 洋一

西宮市 緒方美津子

宝塚市 岸田 万彩

東かがわ市 川崎ひかり

堺市 内藤 憲彦

西宮市 福島 弘子

宇部市 平田 実男

大阪市 川端 一歩

横浜市 川島 良子

横浜市 加藤 佳子

和歌山市 三枝眞智子

子かるがも順番守りリズム良く
慣れましたボチは真っ先妻のもと
猫にとり順位は下のお父ちゃん
順調に育てた芋が猪の餌

鳥取市 岩崎 公誠

神戸市 興水 弘

尼崎市 羽奈 和子

前田 楓花

止まらない値上げラッシュに嗚呼悲鳴
順風に慣れて怠る危機管理
順を追つて進むけなげな蟻の群れ
子かるがも順番守りリズム良く
慣れましたボチは真っ先妻のもと
猫にとり順位は下のお父ちゃん
順調に育てた芋が猪の餌

池田市 生駒市 三田市 上田ひとみ
神戸市 饗庭 板谷 賢二
神戸市 斎藤 隆浩

太田 酒井 宏

古代より春夏秋冬順を経て
順番無視命をもてあそぶ戦

嫌な奴1にブーチン2には習
オバマ氏も順番通りに折った鶴

軍備より少子化策が一番地
順調にアレに向かつてタイガース

八番がまた打ちました逆転打

新名人順調すぎるのはなんで

止まらない値上げラッシュに嗚呼悲鳴

順風に慣れて怠る危機管理

順を追つて進むけなげな蟻の群れ

子かるがも順番守りリズム良く
慣れましたボチは真っ先妻のもと
猫にとり順位は下のお父ちゃん
順調に育てた芋が猪の餌

美しい順番言わぬ野辺の花
O B会会えれば序列が甦る

公園で順番知った一人っ子
何番目ですかと閻魔さまに訊く

筆順を変えても愛に変りない
良い人から逝くもうすぐ俺の番

順境と逆境の真ん中に修羅

米寿へと順にハードル高くなる

オバマ氏も順番通りに折った鶴

高校も順路に入れて選挙力一
定位置で安心します何もかも

ツアーライフを見る日もうすぐだ
びりで良いゴール出来たらそれで良い

順送りこれが案外難しい
救急車に道を譲った靈柩車

(投句320名)

（薰風書、カットとも）

「順」 永 見 心 咲 選

鳥取市 山野すみれ

越谷市 久保田千代

羽曳野市 藤原 大子

米子市 竹村紀の治

神戸市 青木 公輔

尼崎市 宗 和夫

富田林市 山野 寿之

豊中市 水野 黒兎

東かがわ市 川崎ひかり

尼崎市 三田市 上田ひとみ

池田市 生駒市 飴庭 風鈴

太田 酒井 宏



K. K.

飲む方の計画先に出来上がる

飲み順は銀座赤坂六本木

成績順名前呼ばれて俺はビリ

出世頭成績順でないらしい

成績順いつも末席同じ顔

順当に出世して行く好かんたこ

気候不順桜と雪と鯉のぼり

紫陽花の次はひまわりスタンバイ

筆順はどうあれ鬱の字は書ける

筆順のとおりに書けぬ左利き

筆順は違っているが字は立派

順調に傷んでいます体中

順番は腰からの人膝の人

ふだん通りの手順狂つて老いを知る

順番はないなど気付く訃報欄

食べる順血糖値には先ず野菜

息吸つて吐く順番は守つてゐる

順番を間違えぬよう飲む薬

順調です医師の言葉は天の声

さしすせそ間違えたけど美味な味

廻る寿司ケーキで始まる誕生日

長蛇にも耐えて食べたいどんな味

河内長野市 河内長野市

和歌山市 佐藤 まさき

岡山県 藤澤 照代

豊中市 上出 修

鳥取市 池澤 大鯰

和歌山市 上田 紀子

神戸市 敏森 廣光

神戸市 村松 久江

豊中市 齋藤奈津子

神戸市 能勢 利子

岡山市 丹下 凱夫

大阪市 寺本 実

香芝市 山下じゅん子

加古川市 石賀 邦子

豊中市 貝塚 正子

鳥取県 門村 幸子

鳥取市 福西 茶子

寝屋川市 川本 信子

米子市 妹能令位子

奈良市 防府市

坂本 加代

箕面市 大浦 初音

大浦 初音

加藤江里子

三輪くにお

和歌山市 佐藤 まさき

弁当とお茶持つ人へレジ譲る

母ちゃんに隨順猫もわたくしも

順調に老いて「あの・その」止まらない

順調という波にまだ乗れてない

筆順を覚え鬱などチヨロいもの

大好きな人から順にたまご焼き

目の前で売り切れなんて殺生な

穏便にすます知恵かな「順不同」

順番取りのいらぬワクチン六回目

順序よく進みすぎるどちと不安

父の日は母の日よりも何故遅い

待ちかねてたのに尻込みする出番

順調に生きておりますケアハウス

順番を決める順番待ちしてゐる

順序立て話せばきっと分かるはず

飲む方の計画先に出来上がる

順調に診察カード増えています

順不同と言ふが順序はあるらしい

順路から外れ見つけた宝物

かくあれと順序違はず鴨の列

予備校は成績順の掲示板

順不同突然肩をたたかれる

鳥取市 吉田 弘子

東大阪市 西村 哲夫

松江市 藤井 寿代

広島市 羽城 裕子

堺市 澤井 敏治

鳥取県 斎尾くにこ

河内長野市 前田 廣幸

唐津市 哲子

西宮市 亀岡

倉吉市 宮田 風露

三田市 丹羽 美恵

藤井寺市 太田扶美代

鳥取市 田中 重忠

富山市 伴 よしお

神戸市 富永 恭子

岡山県 藤澤 照代

大阪市 大沢のり子

松山市 栗田 忠士

大阪市 森田 遊子

大阪市 川端 一歩

八尾市 宇都満知子

順番を守つて遅刻しています
検索はおすすめ順より安い順
道順を間違つたかな後戻り
期待値を上げたくなくて取る
誰からも文句いわせぬイロハ
持ち歌をみんな唄われ僕の番
安売りの先着順に息切らす
暗黙の序列喰ぎ分け尻尾振る
結婚も癌になるのも順不同
年功序列お蔭もあつたなあ友
お湯割りはお湯が先だと譲ら
従順な妻だつたよね若い頃
めでたくもありめでたくも無
順番が来ても会いたくない閻
あの世行きの順番待つてスク
無愛想な息子 俺もそうだつた
母さんは一番あとに箸を出す
救急車に道を譲つた靈柩車
秀 句

黒石市 山口市 兼崎 徳子 北山まみどり
神戸市 山口 美穂 森田 旅人
京都市 清水 英旺
米子市 竹村紀の治
米子市 後藤美恵子
大阪市 浦上 恵子
尼崎市 藤井 宏造
香南市 桑名 孝雄
三田市 堀 正和
桜井市 安土 理恵
鳥取市 谷口回春子
奈良市 大久保真澄
奈良県 渡辺 富子
弘前市 高瀬 霜石
大阪市 平井美智子
池田市 太田 省三
櫻原市
大阪市 津守 柳伸
大阪市 古今堂蕉子
居谷眞理子

書き順のようにはいかぬ恋の道
順手より逆手が楽な逆上がり
これ以上順応したら消えますよ
酸欠の部屋で検査の順を待つ
廻る寿司ケーキで始まる誕生日
慣れましたボチは真つ先妻のもと
まずは子へ食べさせ母は残り物
バーゲンの始まるまでは並んでた
気候不順桜と雪と鯉のぼり
順番が狂つて笑いだした秘話
母さんは一番あとに箸を出す
順番を間違えぬよう飲む薬
息吸つて吐く順番は守つて
無愛想な息子俺もそうだつた
よーく見れば濃淡がある順不同
やれることやつた顔する順位表
順々にゼブラゾーンが狭くなる
秀 句

三原市	尼崎市	藤田	雪菜
交野市	山野	双葉	耕三
堺市	岐阜県	齋藤さくら	笛重
河内長野市	喜多村正儀	三輪くにお	喜多村正儀
神戸市	大阪市	興水	弘
尼崎市	小野	雅美	喜多村正儀
豊中市	山本	百合	喜多村正儀
松山市	齋藤奈津子	喜多村正儀	喜多村正儀
大阪市	大内せつ子	喜多村正儀	喜多村正儀
防府市	坂本	加代	喜多村正儀
米子市	平井美智子	喜多村正儀	喜多村正儀
弘前市	高瀬	喜多村正儀	喜多村正儀
大阪市	霜石	喜多村正儀	喜多村正儀
佐賀県	石田	孝純	喜多村正儀
松江市	真島久美子	喜多村正儀	喜多村正儀
岡山市	石橋	芳山	喜多村正儀
檜原市	丹下	凱夫	喜多村正儀
大阪市	居谷真理子	喜多村正儀	喜多村正儀
島田	明美	喜多村正儀	喜多村正儀

秀句

歳の順平氣で崩す閻魔さん
とりあえず主人が先と決めていた
かけちがいですと最後のボタン穴

大阪市 津守 柳伸
大阪市 古今堂蕉子
檜原市 居谷真理子

秀
句

筆順はどうあれ體の字は書ける
かけちがいですと最後のボタン穴
梅雨空の不安 命の順不同

「脱ぐ」

(投句 222名)

大内せつ子選



しがらみを脱いで始発の駅に立つ
肩書きを脱いだら寒くなつてくる
脱いだ靴吹つ飛ぶ百点見せたくて
もう一度脱皮する気のスクワット
背広脱ぎ捨て漁師になつた息子
肩書きを脱ぎ女房の運転手
ポケットは調べて脱げと洗濯機
ミッキーの着ぐるみ脱いでいたおじさん
スーツ脱ぐ待つてたようすに第二幕
青春の鎧兜がまだ脱げぬ
生きていたかたちそのまま蝉脱皮
矯正肌着脱いでオカンに戻つて
靴下を脱ぐにも面倒臭くなる
暑いので私裸で経あげる
玄関にさぞお疲れの靴を脱ぐ
脱いでも脱いでも脱いでもまだ私
靴脱ぐと身長が五センチ低い
簡単に心を脱皮させた妻
やつと抜け出したね思春期のカケラ
脱いだ靴方向同じ三兄弟

貝塚市 石田ひろ子
倉吉市 牧野 芳光
和歌山市 上田 紀子
豊中市 水野 黒兎
西宮市 緒方美津子
大阪市 横山 里子
松山市 宮尾みのり
奈良県 中原比呂志
塩城市 木田比呂朗
府防市 坂本 加代
岡山市 大石 洋子
大阪市 原田すみこ
岡山市 丹下 凱夫
大阪市 江島谷勝弘
高槻市 富田 保子
笠岡市 平井美智子
松山市 柳田かおる
神戸市 柳田 次郎

手袋を脱いだくらいの軽い恋
玄関で脱いだ鎧の重いこと
脱っぷり買われて今は大女優
好い人を脱いで気持が軽くなり
脱線した話の中にある本音
脱がぬ説深追いしてはなりません
居心地がよくて脱皮が進まない
静かにしてねだいま青の脱皮中
脱がぬ説深追いしてはなりません
大胆でゴメン診察室の椅子
ひと肌を脱いだら私消えました
ブタマンのようすに蒸された靴を脱ぐ
佳句

悩み脱ぎ捨てたら折鶴が飛んだ
殻脱いだらやつぱりアヒルの子だつた
性善説いでもよい悪しとなる
人を踏み人に踏まれた靴を脱ぐ
一本の葦になるまで脱皮する

わたくしによく似た母を脱いでいる
王様かどうか脱いだら分かります
精いっぱい生きてすっぽんぽんになる
弘前市 高瀬 霜石
佐賀県 真島久美子
大阪市 平井美智子
大阪市 大阪市
高槻市 黒田 茂代
奈良市 大久保真澄
明石市 糊谷 和郎
大阪市 小野 雅美
今治市 永井 松柏
西予市 黒田 茂代
奈良市 大久保真澄
明石市 糊谷 和郎
大阪市 小野 雅美
今治市 永井 松柏

鳥取市 奥田 由美
東大阪市 青木 隆一
宮崎県 恵利 菊江
小野市 藤原 泰宏
奈良市 加藤江里子
神戸市 みぎわはな
黒石市 北山まみどり
伊予市 田中 なお
神戸市 富永 恭子
佐賀県 真島久美子
和歌山市 柏原 夕胡
宝塚市 岸田 万彩

★参考にしてください。

原 ジエットコースター一番前でバンザイヤ 龍

参 万歳の形でジエットコースター

原 アナリストの尻馬に乗り火傷する行 久

面白い見つけなのですが、尻馬が乗り物

かどうか難しいところです。

参 尻馬に乗った投資で大火傷

原 乗り物も浮いたり飛んでさて次は 閑

乗り物では、船（浮く）飛行機（飛ぶ）

がありますので車と表記した方がよいか

参 水上を走る車や飛ぶ車

参 水の上走る車があるらしい

原 田舎道バス便減りて悩む老 良子

下五（悩む老）の表現を再考。

参 バスの便減つて不便な過疎の村

原 乗り物に乗つたら昼寝健やかに 弥生

乗り物に揺られて孫は夢の中

原 軽トラにボチが荷台のお客様 律子

言葉の順番を入れ替えてみました。

参 軽トラの荷台はボチの指定席

原 タクシーとは仲良くなたい道の連れ 照枝

下五に（お買い物）（映画館）など色々入れてみてください。

参 車酔いせぬように押す車椅子

参 タクシーのお世話になつて医者通い

★添削不要の句

○は佳句 ○は優秀句

○ウォーキング免許返納後の準備 静枝

返納後はしつかり歩こうという静江さん

の背筋を伸ばした姿が目に浮かびます。

○百円バス市内めぐつてお買物 一平

鳥取の百円バス「くる梨」でどうか。

お買い物のおにウキウキ感を感じます。

○観覧車一回りして恋実る 百合

因みにエキスポの観覧車は一周十八分と

か、十八分あればプロポーズできますね。

○焦らずに自転車おして目的地 玲奈

坂道や石ころ道は無理をしないで押して

歩くのが正解だと思いますよ。

○停車場有つてもバスは来ない村 えい子

楽しい見つけに思わず笑つてしまい、そ

のあと少し切くなりました。

○空席は病院前を過ぎてから 賢二

まるで通勤のようにドドッと降りてゆく

病院前、日常を摘み取つた川柳の目に○

○マンションに介護のバスが並ぶ朝栄

朝、デイケアーからのお迎えのバスが並ぶ風景。高齢化社会の現実を切り取り、

問題提起をした社会派の目に○

川柳塔鑑賞

同人吟 安土理恵

—7月号から

しです。

傷付けず傷もつかない片思い

坂本 蜂朗

酔うて寝るこの世も捨てたものじゃない

えてくれています。ふわっと力を抜いてみ

ましようよ、異星人に会えるかも。

四面楚歌それでもこの道を歩く

岩佐 ダン吉

いける口の方はほんに羨ましい、実感で
すね。人生を達成し、どつかりの余生、やつ
ぱりうらやましいです。

淋しさの分だけ覗く冷蔵庫

平井 美智子

ある年齢を越えた女性の淋しさを慰め
てくれるのは『食べること』しかありません
よ。男性なら、一杯やつて寝てしまう手が

会話ある暮し 会話のない暮し

川島 良子

誰もふり向いてくれなくとも、理不尽な
思いをさせられても自分は自分、と胸を
張つて歩くダン吉さん、「誰が勧めたので
もない自分で決めた道ですもの」、小説「女
の一生」の名言を思い出します。

世界平和背負う日本の桜花

杉野 羅天

「片思い」つていいですよね、美しいで
すよね。一寸切ないけれど火傷や切り傷の
ないきれいな思い出いっぱいの人生がサ
イコーと思っています。甘い?

あるけれど、いや待てよ、美智子さんの冷
蔵庫、缶ビールが詰まっているのかもしれない
ない、とするとやつぱり飲むんですね。『淋
しさの分だけ』が何とも哀しい。

力を抜いてふわっと飛べば良いのです

西田 美恵子

家々の窓明りの数だけある暮し、それぞ
れの景色を嫌でも想像してしまってキツイ
一句に捕まりました。焦点を「会話」に絞
り無駄な語句のないキリリとした句姿が

改行をしよう散文の人生

川本 真理子

清清しい。この「会話」が、もし「お金」だつ
たら川柳味が濃くなるかもしれないが、格
ないけれどゴチゴチに肩張つて力んでみ
たれがぐんと落ちてしまうと思います。因み
に我が家は失語症の夫と会話の少ない暮

す。そうです、何があつたかしら

ないけれどゴチゴチに肩張つて力んでみ

ても駄目なものは駄目と美恵子さんが教

に我が家は失語症の夫と会話の少ない暮

ります。因みに我が家は失語症の夫と会話の少ない暮

元気だと元気を出して言ってみる

早川 那行

無理して元気を出すのってしんどくあります

りません? でも自己暗示の効果はあるようですね。大空へ“元気だよ”って叫んでみますか、元気を呼び込みますか。

また風に乗りそこなつて現在地

北山 まみどり

しつかりした現在地があつてよかつたではありませんか、風はまた誘いをかけてくるでしょう。今度こそ! 現在地がピシッと効果的。

貴女といふと採点されていくよう

加藤 江里子

女性どうしつて難しいもの。他人のアラ探しの好きな人結構いますから。お気の毒に江里子さんは捕まつてしまつたのですね。採点される、という感受性に感心し同情を禁じ得ません。ターゲットはすぐに変わります。しばらくの辛抱です。

柔らかく的を外して聞いてみる

松原 寿子

女性刑事さん? ではなくてもこのように問われたらみんな話してしまいそう。身に覚えのある方はどうぞ用心、女性の柔らかい問いかけは戻かもしません。

とりあえず夫がそばに居る安堵

中井 萌

前田 楓花
糸切り歯、犬歯とも言い先のとがつた鋭い歯。切つたのは勿論“赤い糸”、切らせたのは楓花さんご自身。拍手。

値上げ値上げ食後のデザート姿消す

清水英旺

る是有難い事にちがいありません、諸々の苦労をかけないでくれたら…。初句の“とりあえず”が微妙でフフ。

人生の余白に欲は似合わない

西村哲夫

ついにここ迄、メニュー一番の楽しみだつたデザートが無くなり、さぞやガッカリ。しかし総じて高カロリーのデザートとは言え、値上げはこたえます。

ああ夕陽人間小さいなと思つ

川端 一歩

昇る朝日よりも沈みゆく夕陽に人生を重ねる後期高齢の身は、旅の途中などで夕陽に遭遇すると思わず合掌してしまうのです。信心は無くとも何か拌みたくなっています。夕陽にはそんな力があります。自然界にあつては人間は小さい、小さい。

入院したつもりで今日は出歩かぬ

古今堂 蕉子

入院したつもりに成程と思い、蕉子さんのご多忙を思いました。つもりでも入院となれば全てシャットアウトできます。

決断は私一人と糸切り歯

岸本宏章

無色透明の代名詞である水と空気、色が付いてたらややこしくて大変です。何色かは別として世の中すべて色メガネで見る事になります。色付きでなくて本当に良かった。透明人間が一番喜んでいます。

何やかんやのモメ事も結局は諭吉登場

で解決、世の中はそういうものらしい、頼んでみはつたらどうない?

ありがたい水と空気に色がない

前田 楓花

糸切り歯、犬歯とも言い先のとがつた鋭い歯。切つたのは勿論“赤い糸”、切らせたのは楓花さんご自身。拍手。

水煙抄鑑賞

—7月号から

松岡篤

ゆつたりと自分らしさで居れる椅子

小川道子

退職後はゆつたりとしたいなど思つた

のは甘かった。川柳、テニス、旅行・・・

と宿題がどんどん出てくる。どこまで行つても僕にはゆつたり座れる椅子なんて無いみたい。

世界には平和知らない子等もいる

石賀邦子

生まれた時から戦争・内戦の日日。気の毒過ぎる。かくいう日本も80年前まで

はこうだった。

半額を枠なお皿に盛り付けて

村上和子

鈍感な夫は、物価高がびんと来ていいな。妻は少しでも安いのを探し回つているのに。少々鮮度が落ちる刺身も、お皿と盛り付けでカバーする賢妻。

24時間戦えますか世代の私にとつて、考えられない光景。でも気持ちはそうでなければ。

正義勝つ時代劇見て憂さ晴らす

樺葉良子

時代変われど悪は減らない。でも科学

捜査で勧善懲悪きつちりと。

決心が揺るがぬよう人に言ひ触らす

奥野健一郎

ピンと来たのは禁酒・禁煙。これがまた大変。こんな時は決心を言ひ触らし、後戻りできないよう自分を縛る。

戦争にコロナそれでも花が咲く

新庄芳春

世界は今最悪。そんな中で救いは自然の強さ。待てば幸せは必ず来る。そのための努力の大切さは言うまでもない。

金額に合った店主のお見送り

前田廣幸

見送り方は、宝石店と雑貨店でも違うし、常連と一見、今日の売り上げ金額でも違う。飲み屋の女将は、また来て欲しない客とそうでない客でも違うそな。

忘れ物届けてくれる父でした

青木ゆきみ

鈴木たけし

我が孫も流行り病を直ぐもらつてくる。その都度爺婆はおろおろするが、一日たつとけろつとしてる。こんなことを繰り返して強くなるのだろう。それにしても1200兆円の重い肩の荷スミマセン。

選挙済み先生方は偉くなり

三谷白黒

私も何回も同想句を作つています。身

変わりの速さに感服。

すり傷はつばで治せた昭和の子

田中辰夫

経験値から人間の治癒力を信じての事。

僕のおばあちゃんは「痛いの痛いの飛んで行け」でした。

閉店の予告をすれば満席に

助川和美

「閉店セール」の看板が色褪せている。客もわかつてゐるから揉めません。

大阪のオバチャンという隠れ裏

森田遊子

不寛容な世の中、ふところの深い大阪のオバチャンが居てもいいよね。知らんけど。

川柳句集『肉眼』

橘高薰風

枯枝に鳥 幾世の友情か

革命をめぐらすに 湯に身が浮くよ

お元日 日本人の目の黒さ

中年や 初秋に多き赤い花

黙契や 野に紫の花が増え

裏窓は山下清画く屋根だ

革命へ 音沙汰なきも志

木犀と星が漉すなるこの夜気か

秋がきて笛は太鼓を恋しがる

吉村和美さんへ

葛の花咲き 樹下美人嫁ぎしと

滝又水 海を渡つて來たわれに

憂国忌 柿は蒂のみ残りたり

半月のごろんとありぬ 憂国忌

四つ足で歩けば樂になる傷か

切株の俺の五年と子の五年

冬の酒 蝶の足こそ親しけれ

白蝶入り 黄蝶出て來ぬ 寺の門

夫婦にはなれなかつたが冬の旅

ギター抱き ぼろんぼろんとこぼす悶

吊皮は手枷 生涯平社員

受験子のすでに鬪う白い息

冬牡丹 九死一生かも知れず

一日に精魂尽くす瘦せようだ

夜桜へ 町の時計は刻打たず

反葬は雪の巔から李花の里

琴古く曲新しく いのちの譜

水浴びの鳥を見ている人妻か

誕生の馬の額の白い星

紅椿 雪を解かしていたりけり

黒い炎は人妻の掌の黒茶碗

志操とや 嘴にある鼻の穴

手に足に関節のある寒さかな

ひとりよりふたりにこわき屏風波

黙契や いまも仏法僧がなく

冬牡丹 九死一生かも知れず

一日に精魂尽くす瘦せようだ

夜桜へ 町の時計は刻打たず

反葬は雪の巔から李花の里

琴古く曲新しく いのちの譜

水浴びの鳥を見ている人妻か

川柳塔社各賞選考規定

- ① 川柳塔社には、路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞の六賞があり、毎年10月に表彰する。
- ② 自選集の作者は、すべての賞の対象としない。
- ③ 各賞とも、原則として同一人に同一賞を授賞しない。
- ④ 路郎賞・川柳塔賞については、準優秀作の場合、上位は差し支えないが、同位または下位には授賞しない。
- ⑤ 二賞の選考委員は、その任期中は賞の対象としない。
- ⑥ 路郎賞・川柳塔賞の選考要領については、下記の通り定めること。
- ⑦ 愛染帖賞は選者が決定し、主幹の承認を得るものとする。
- ⑧ 檸檬賞は二名の選者がそれぞれ5句ずつ選出した10句中から主幹が決定するものとする。
- ⑨ 一路賞・各地柳壇賞は、常任理事会の委嘱を受けた選者が受賞句を決定し、主幹の承認を得るものとする。
- (備考)
- この規定は、現行の選考規定を一部改定したもので、常任理事会で承認の上、平成二十七年から実施するものとする。

一賞選考規定

- ① 路郎賞 川柳塔欄の入選句から5句
川柳塔賞 水煙抄欄の入選句から5句
の上、8月15日必着で本社宛郵送する。
第一次選者は主幹・理事長・副主幹・副理事長・編集長とする。各賞15編ずつ選出し、第二次選者へ郵送する。
- ② 第二次選者は折り返し、路郎賞・川柳塔賞の各選考結果を本社宛通知する。選考には順位をつけ、第一席(5点)、第二席(4点)、第三席(3点)、第四席(2点)、第五席(1点)の五編の番号を予め本社で用意したハガキに記入のこと。
- ③ 第二次選者
本社関係 主幹・理事長
地方関係
④ 〔4〕 ブロック (11) = 選者数
〔東日本〕 (2) 北海道・東北・関東・信越・北陸・東海
〔近畿A〕 (4) 大阪
〔近畿B〕 (2) 滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山
〔西日本〕 (3) 中国・四国・九州・沖縄・海外
合計13名
⑤ 地方関係の選者は、適宜交代制を取り、均衡をはかることにする。
川柳塔欄・水煙抄欄に6カ月以上出句した人に応募資格を認める。

令和五年 二賞選考委員

第一次選者（6名）

小島 蘭幸・新家 完司・川上 大輪・内藤 憲彦
桑原 道夫・木本 朱夏

第二次選者（13名）

本社関係（2名）

小島 蘭幸・新家 完司

地方関係
〔4〕 ブロック 〔11〕 選者数

〔東日本〕（2）北海道・東北・関東・信越・北陸・東海

木田比呂朗・関本かつ子

〔近畿A〕（4）大阪

鴨谷瑠美子・原田すみ子・山野 寿之・吉村久仁雄

〔近畿B〕（2）滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山

安土 理恵・糀谷 和郎

〔西日本〕（3）中国・四国・九州・沖縄・海外

岸本 宏章・工藤千代子・杉野 羅天

愛染帖賞 新家 完司
檸檬賞 江島谷勝弘 永見 心咲
一路賞 内藤 憲彦 平井美智子
各地柳壇賞 高杉 力 中村 恵

昨年九月から今年八月の間に

誌友から同人になられた方へ

「路郎賞」「川柳塔賞」のいずれか月数の多い方を選択して応募下さい。

ただし、「路郎賞」には川柳塔欄作品から、「川柳塔賞」には水煙抄欄作品からの応募となりますので、間違いのないようにお願ひます。

令和五年 各賞選者

黒石市 北山まみどり
二人三脚さくらんぼには戻れない

松山市 栗田 忠士 痛ければ痛いと言つていいんだよ

和歌山市 定松 宏枝
ウオーキング 誉めてあげたい 土踏まず

反発はよそ笑つてみませんか

花火果て闇にもどつた時の寂
豊橋市 西郷弘美

どちらが強い鞍馬天狗と黒頭巾
河内長野市 中島 一酒

親だつて間違えている双生児
郡山市 安藤 敏彦

イエスマンばかり抱えて聞く力
松山市 大内せつ子

お互いに弱みを握り平和だね
尾道市 村上 和子

月とすつぽんなのにおんなじことをする
佐賀県 真島久美子

コロナ明け月までちょいとミニ旅行

禁断の実は禁断の形して
和歌山市 まつもともと

青い目の戦争中国がニヤリ
唐津市 前田 廣幸

節約は自家発電の一歩から

世が世なら今田は手渡し給料田
鳥取市 福西 茶子

ギヤラの配分ニンヒ解説の危機 檜原市 居谷真理子

息吸って吐いてやうはり合わない
大阪市 森田 遊子

大阪市 平井美智子
ニーハノハハは右鞋すれは左足

ハスル解く詠号で立っていふ
朝霞市 前田 洋子

倉吉市 牧野 芳光

火引木石火薬の簡単本

曾脱の我漫暴発寸前だ
箕面市 出口セツ子

非常袋の点検は怠つず
羽曳野市 德山みつこ

無精者充電だけは怠らず 東大阪市 青木 隆一

長い長いトンネル腹が減ってきた

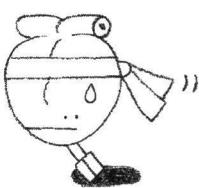
松山市郷田みや 二人なら続けそうですが、ジム通い

卒寿へとそろそろ電池替えようか

探し物 テレパシー にて すぐ キヤツチ 生駒市 飛永 ふりこ

藤井寺市 鴨谷瑠美子
ポシエットで運ばれてくる丸い声

10月号発表
(8月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳箒に2句

『麻生路郎読本』余滴 (77)

「雪」 (6)

棄原道夫

「北憂」 16句より

月見草ひとり高原の花となり

灯のある方へ寄るは今、虫とわれ

薬屋の看板赫つと日を受けて

馴れ初めのやうな心で宿にある

温泉の町の本の表紙もうら淋し

桑の葉に生の光を見る山路

38頁に馬場緑天と喜多村緑郎の作品も

「新短歌」として掲載されている。緑天は「番

傘」の柳人。緑郎は新派の女形俳優。

「浪花座を出て」 3句より

充分に眼れぬひまなからだなり

黙つてゐる男へ濱の月が照り

緑郎「燃ゆる瞳」 6句より

菊が咲いてこんがらかつた心持

踵重きまで鉄うてり秋の風 蜀洞

秋の草に久々の女と蹲る 晴吉

40、41頁に日車の落語と称する「十二圓

「十四錢」が掲載されている。

「福祿千すよろこび」 8句より

雨雲のゆきかひ續けさまに咳き

福祿千すよろこびに太陽は照り給へり

蒼空を海とみてこころ慰まん

口數もきかずベンの重荷を果す日かな

36頁に日車作品が掲載されている。

帝劇之

「秋風篇」 8句より
42頁に宮林董哉の俳句が掲載されている。

「曼珠沙華赤し三人の子のあたま

二階から女人が招く曼珠沙華

44、47頁に、「雪俳壇大阪同人近作 游

魚探録」として、20名の作品が各4句ずつ

採録されている。数句挙げておく。

踵重きまで鉄うてり秋の風 蜀洞

秋の草に久々の女と蹲る 晴吉

48、50頁の「消息」に、春沙が「日車兄」と題して、前号の日車の春沙評に対し弁

明している。次に、路郎の「未來のない碧梧桐氏」を載せている。これは、神戸にお



ける碧梧桐歓迎句会での碧梧桐の俳話について述べたものである。

未來のない碧梧桐氏（路郎）

生きながら俳誌を飾る人に鳴雪翁があり虚子氏がある。河東碧梧桐氏は未だ餘命を海紅に繋いで更に第二の新傾向に生きるべき人と聞いてゐたが過ぐる日の俳話によつて大いに期待にそむくことを知つた。

碧梧桐氏は俳句には一種の俳道徳となづける規約がある。この規約即ち俳道徳といふのは子規が作つたもので、これからこれ丈が俳句で、これから外へ出れば俳句ではないといふ繩張りを意味するものであると説き、こゝらが子規の偉いところで其俳道徳内で面白お可笑しく暮らしてゐた。ところが生意氣千萬にも此俳道徳にいつとはなしに自分等は懐らなくなつた。更にもつと俳句には行くべき道があるやうに思へた。それで先づその行くべき或る方面へ出るにはどうしても現在の俳道徳を打破せねばならない。新らしく建設するには現行の俳道徳の破壊（筆者註——「壊」は「壞」の誤植）が第一急務と心得て極力それが絶滅につとめた。

その結果はどうなつたか。各人は行くべき道に迷つたのであつた。迷つた末は各自

自己の頭に信頼して思ひくの方向を指して走つたのである。それが原因となつて俳句に幾多の邪道を生んだ。＊「土」や「阿蘭陀渡」や「白川及新市街」はまさにそれである。俳道徳を破りさへすれば自然と新らしく或るもののが得られると考へたのは自分等の大早計であつたことを後悔してゐる。

よく自分は目下の俳句の傾向はといふ隨分大まかな質問をうけるがこれ等の人々は矢張り從來の俳道徳に養はれた人が多い。現在の俳壇は到底一括してはいへない程混沌たる状態にある。今後一つの新らしい俳道徳の元に統一された時に始めて俳句がみるべきものにならうと論じて局を結んだ。

自分は碧梧桐氏がこの俳話によつて俳壇の統一を夢みてゐるのを甚だ氣の毒に思ふ一人である。離れゆく人々がます／＼離れ去つたに過ぎないからである。未だ一縷の望みをつないでゐた人々へも離れ去らしめたからである。茲にいたつて自分は既に碧梧桐氏に未來のないことを知つたので深く追及して其の愚を責めない。かくして俳壇の時代錯誤はいよ／＼ます／＼擴大して

行くのであらう。

*「土」は、鹽谷鶴平が大正2年に発刊。

「阿蘭陀渡」は、川西和霧が大正3（？）年に発刊。「白川及新市街」は、兼崎地橙孫（一八九〇—一九五七）が大正2年に発刊。3人とも碧梧桐門。

文章に続いて、当日の句会吟を採録している。6句挙げておく。

秋風と笛の音とはだ／＼に及ぶ游
船で歸りしさまにひろげて秋の風鬼
史
蜻蛉眼をさへぎれり道を曲る 路
郎
一面の蜻蛉に塔を下り立ちぬ
秋風を柔かう握らされてあり
秋風の矢尻を埋めるなり
和
露
浮沈子



山手月季の名は



「旅人」と「麻生路郎読本」

麻生路郎の句集「旅人」は、ちょうど70年前の一九五三年に発刊されています。私は現物を持つていませんが、幸いにも「川柳塔誌電子化事業」によって電子化されていますので、それを読んでこの項目を記しています。

まず表紙の「Tabibito」というローマ字による横書きの題字に驚かされました。70年後の現在でもユニークでしょう。そして序文に路郎の想いが込められています。

自序

エスペラントのために一生を捧げたザメンホフは偉らかった。ロシア文学の英訳に一生を捧げたマガレット夫人は偉らかった。くそ虫の研究に一生を捧げたアンリ・ファブールは偉らかった何れも自分の夢を実現させた人達である。

そして川柳に一生を捧げた私は?私は云うべき言葉を知らない。川柳の社会科運動と一冊のこの句集。

一九五三年十一月三日

麻生路郎識

(送り仮名は原文のまま。
段落は変更)

麻生路郎は一八八八年七月広島県尾道市で生まれていますので、「旅人」は65歳になる年に編まれたことになります。

二階を降りてどこへ行く身ぞ
見渡すとユダのところをみんな持ち

天井にいつまでおさへられて生き
往来で夢を見てゐる男にて

大臣になれぬことだけわかつたり

お元日坐るところやすからん
戯れに死ねればこころやすからん

右、第一章「人生の雜音」の最初に掲載されている10句から7句を抄出しました。分かち書きの句は一行にしています。いずれも難解ではなく、現代川柳のテーマの一つ「今の自分の姿、今の自分の想い」を詠つていて納得させられます。

また、「川柳雑誌」「川柳塔」通巻一〇〇号記念出版による「麻生路郎読本」(一九〇一年・乗原道夫編集)には「旅人」と「旅人その後の作品」「麻生路郎文集」「麻生路郎語録」等を収録。加えて、東野大八氏の筆による「麻生路郎物語」(塔誌572号～602号に掲載)も興味深い写真多数と共に収録されています。(残部少々あり。送料込み三千円)

電子化冊子はパソコンやスマホ等から、どなたでも無料で閲覧できます。方法は、先ず「川柳塔」で検索。サイトトップ中ほどの「川柳塔誌電子化事業」をクリック。下方にある「句集等」の一覧表からご希望の冊子をクリックしてお楽しみください。この「旅人」は「51件中41から50まで表示」にあります。「麻生路郎読本」はこれから電子化致します。

また 同人の皆さまの句集や仲間との合同句集など、電子化のご希望があれば塔社事務所までお送りください。但し、あらかじめ発行元の許可を得るようにお願い致します。

本社七月句会

◇七月六日（木）午後一時
アウイーナ大阪

梅雨明けも近いかと思わせる日、路郎忌7月句会は、番傘本社から前中知栄さんを選者

にお迎えして、128名（うち投句者25名）の参加で開催された。初出席は京都市の下林正夫さん、岡田幸男さん、奈良県の柚木涼子さん。

今月のお話は水野黒兎さん。題は「ある酪農家の川柳」。かつての同人、小白金房子さんの酪農家としての生活が生み出した佳句を紹介された。

お正月も夜も牛は待ってくれず、

元旦も昨日につづき乳しばる

難産を氣づかう牛舎窓灯り

大切に育てた牛も売られて、

子牛の目明日は他人の手に渡る

牛市の戻りはみな無口

牛のおかげで、

牛の糞秋への期待土づくり

生活の中で生まれた哀感あふれる佳句を一緒に味わわせて頂きました。

（眞澄）

月間賞は川端六点さん（藤井寺市）

（司会一武人・真理子）（脇取一勝弘・こみつ）
(受付一裕之・大子) (懸垂幕墨書「耕治」)
(清記一憲彦・勝弘・国和)

席題「座」 上田ひとみ 選

座右の句何てつたつて「俺に似よ」 西出 楓葉

さりげなくトイレに近い座席へと 斎藤 隆浩

独裁者の座には届かぬ民の声 柿花 和夫

百歳母の座布団濃紫 緒方美津子

真夏でも正座で食事した昭和 坂上 淳司

君が来るだけ句会が和みます 山崎 武彦

歌舞伎座の横を通つてくる句会 昼めしを抜いて名画座に通つた 居谷真理子

席つめてくださいと目が言つて 伊達 郁夫

スペシャルな旅終え座り込むわが家 水野 黒兎

達者に育て座敷跳んでる孫三つ サソリ座の妻は口から毒を吐く

冷蔵庫に祖父が保管の痔の座薬 目を逸らし黙つて席を立ちはつた

内緒ごと聞くため猫も来て座る 孫抱かせられずごめんと母の膝 大仏様座つたままで人救う

突然に正座を拒む膝となる ふるさとを座右の銘にしています

ユーモアで固い会議の座が和む

水野 黒兎

木嶋 廣光 人

奥野健一郎

江島谷勝弘

飛永ふりこ

川端 一歩 地

西村 哲夫

下座に控えているのがボスらしい

木嶋 盛隆

小山 紀乃

富永 恵子

和夫 紀乃

藤田 武人

中岡 千代美

柴本ばつは

岡田 桂子

奥野健一郎

小野 雅美

島田 明美

木嶋 廣光

西村 哲夫

木嶋 廣光

奥野健一郎

木嶋 廣光

</

キラキラと綺麗な指にある秘密

ばあさんの耳でリンクが揺れている
満天のマルヘン仰ぐ星銀河

山崎 武彦

太陽を味方に無敵白ビキニ

軸

柄尾 奏子

半額の値札見せない妻の知恵

梶山 常男

するいのも達しいかもコバンザメ

分け前を山分けせずに一人占め

木嶋 盛隆

追い込まれたらすぐに入院金バッジ

初代 正彦

味よりもインスタ映えという料理

吉道航太郎

中村 恵

逃げ隠れしない 入院すると言う

青木ゆきみ

割り込みと気づかれぬよう席座る

斎藤 隆浩

父ちゃんはするいひとりで酔っ払い

平松かすみ

外交は理路整然と狡を言う

島田 明美

コロナ中ブチ整形し差をつけた

山下じゅん子

金があるときには好きと言つただろ

岸田 万彩

一円も残さず使い切る役所

三宅 保州

黒塗りの懲勲無礼なる文書

水野 黒兎

顔ぶれを見てから多数決にする

川上 大輪

学校が苛め見ぬ振り聞かぬぶり

藤田 武人

身を潜めヘイトスピーチする輩

坂上 淳司

身に会さざと樂な役をとる

山野 寿之

隠れん坊探さず家へ帰る鬼

島田 明美

デバ地下で家庭の味を買つて来る

吉道あかね

詳細はネット検索でと躲す

菱木 誠

大輪

嘆泣きの妹ボクが叱られる

森 菊江

身に会さざと樂な役をとる

山野 寿之

手を合わせごめんできますするい夫

鴨谷瑠美子

ゴキブリホイホイ人間は狡いよ

居谷真理子

いくら待つても無料にならぬハイエイ

中美には大きい方のチヨコバナナ

福島 富永 恭子

ゴキブリホイホイ人間は狡いよ

居谷真理子

いくら待つても無料にならぬハイエイ

中美には大きい方のチヨコバナナ

和夫

「賢い」と「する賢い」の微妙な差

柴田 桂子

父の日のお菓子も全部食べる妻

折田あきこ

ミスは僕手柄は妻という仕組み

森松まつお

父さんは不潔母さんはズルイ

中岡千代美

するい国どうしが握手しています

平松かすみ

もうあかん言うてる母がよく食べる

内藤 憲彦

女には分かる嘆泣きだとわかる

折田あきこ

すき焼きの肉を九割食べる妻

吉道あかね

オキナワをキラキラ食べる海ぶどう

江島谷勝弘

人

五十一年前オレだって光つてた

江島谷勝弘

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

地	富士山を見下ろし茶番の機内食	中岡千代美	白浜のパンダは日本語で喋る	川上 大輪
お先にともう仏壇の中に居る	山田 耕治	日本ロケット飛ばす町工場	山野 寿之	天
赤ちゃんの時の写真を持ち歩く	上田ひとみ	アントロでわかる日本の四季の歌	酒井 紀華	
軸		ラゴミの世界2位とはいだけぬ	立藏 信子	
手先は刑務所	元締め闇の中	温暖化浸食される日本地図	澤井 敏治	
兼題「日本」	前中 知栄 選	一色で染まるコスパのよい国旗	岸田 万里	
日本に生まれほんまに良かつたわ	山下じゅん子	ミサイルの墓場となつた日本海	澤井 敏治	
箸使い敬語あやつる国である	青木ゆきみ	頃合いね日本まるごとお洗濯	良岩 万里	
砂文字をさらつていつた日本海	藤田 雪菜	日本史のところどころにあるカオス	稻葉 ことさらに日本酒愛でる朱の鳥居	
水無月の女の肌の美しさ	居谷真理子	鳥帰り黄砂が渡る日本海	岸田 万里	
2世代の君は君が代歌えるか	柴田 桂子	日本の豊かな実りからグルメ	澤井 敏治	
日本は平和ですかアデモもなく	前中 一晃	男女差をおいてけぼりにする日本	木本 朱夏	
丸腰の日本の明日が世知辛い	中井 萌	日本の国境線が引きにくい	長尾 千賀	
日本の治安を弁当に包む	内藤 憲彦	洗うもの他にないかと日本晴れ	山野 寿之	
ブーチンが密かに聞く日本地図	伊達 郁夫	戦など思いもよらぬ日本晴	谷口 東風	
村中が参加しましたお餅まき	石橋 芳山	市松さん老母が抱いたら喋るのよ	上田 和宏	
NIPPONは金持ちらしい援助金	山崎 武彦	九条は日本の背骨でしたよね	高杉 力	
水茄子に茶粥日本の夏や好し	平松かすみ	曖昧さ残し読み方ふたとおり	初代 正彦	
骨太の日本の軽い骨密度	森田 旅人	佳	柴本ばつは	
お笑いがこだまする空日本晴れ	木本 朱夏	吉道航太郎	路郎師はことし百三十五歳	
横並びすれば安堵の日本人	廣田 和織	大谷の兜の里が夫の里	鈴木いさお	
デジタル化進み日本語病んでゆく	藤田 武人	青木 隆一	タイガースも僕も味わう好不調	
ズケズケと座敷に上がる日本海	西出 楓楽	夏の朝だけ元気わたしと朝顔	松岡 篤	
石橋 芳山	男女平等 人	すぐ忘れ再放送にまた見入る	今村 和男	
		大谷の兜の里が夫の里	山本加おり	
		夏の朝だけ元気わたしと朝顔	川本 信子	
		すぐ忘れ再放送にまた見入る	柚木 涼子	
		大谷の兜の里が夫の里	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		青木 隆一	山本加おり	
		大谷の兜の里が夫の里	川本 信子	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		大谷の兜の里が夫の里	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		大谷の兜の里が夫の里	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田すみ子	
		吉道航太郎	奥野健一郎	
		吉道航太郎	山本加おり	
		吉道航太郎	柚木 涼子	
		吉道航太郎	原田す	

番傘川柳本社創立 115 年記念 全国川柳大会

日 時	11月4日(土) 10時30分開場
	出句締切 12時(席題なし)
場 所	TKPガーデンシティ 大阪リバーサイドホテル
	JR桜ノ宮駅 東口徒歩5分
	電話 06-6928-3251
事前投句	(1句)「まっすぐ」田中 新一 謝選
	所定用紙に記入して10月5日(木)必着
宿 題	(各題1句)
	「賑わう」 安藤 紀楽 選
	「描く」 天根 夢草 選
	「夢中」 矢沢 和女 選
	「予感」 赤井 花城 選
	「弾む」 小島 蘭幸 選
	「キラリ」 森中惠美子 選
会 費	*事前投句、宿題とも欠席投句拌辞 5,000円 軽食
	類題別 番傘川柳一万句集第四集
懇親宴	10,000円(要予約)
問合せ先	番傘川柳本社
	電話 06-6361-2455
主 催	番傘川柳本社

グリーンピース創立10周年記念大会 (状況によっては、誌上大会になります)

日 時	10月14日(土) 9時~16時30分
会 場	(開場 9時30分・出句締切 10時30分) 出雲市駅前・パルメイト出雲4階
参加費	2,500円(大会誌・弁当含む)
講 演	『川柳理論と実践』 新家完司氏
	川柳作句法(質問に答えます)
兼題と選者	(各題2句)
	「あやふや」 新家 完司 選
	「時 間」 赤松 ますみ 選
	「ト ン ボ」 渡辺 遊石 選
	「 恋 」 永見 心咲 選
	「 条 件 」 竹治 ちかし 選
	「 案 天 家 」 長谷川博子 選
事前投句	(1句)
	「イメージ吟」 斎尾くにこ 選
投句要領	規定用紙(コピー可)
投句料	1,000円(現金書留・小為替(切手不可))
投句締切	9月30日(土) 消印有効
投句先	〒693-0042 出雲市外園町349 熱田熊四郎 宛
	電話・FAX 0853-28-0023

追い越していくよゆつくりの私
時刻表ちょっと寄り道しませんか
これからは好きに生きるヒロキヤンブ
出会わなければ良かつた人はいない
立ち読みをやめて話題の本を買う
何もかもスマホで済ますのが良いの
僕達の秘密の基地は地図にない
合掌していくだく玉子かけご飯
男をしのぶ戦を怨ぶ八月忌
虹が出来ました写メールで送ります
猿之助もし嫁はんが居てたなら

宇都満知子 木本 朱夏
木嶋 盛隆 立藏 信子
小山 紀乃 坂 裕之
柿花 和夫 平井美智子
野口 龍 森中恵美子
新阜 義明

假の世ではないぞきちゃんと生きている
使うこと無いが偽名は決めている
万緑の森へ右半身入れる
初夏の風カラコロ下駄でポストまで
元気だと自分に嘘をついている
階段も今のボクには天城越え
ソーメンに灯りを点すプチトマト
クーラーをお入れしますね仏さま
佳

大久保真澄 青木 隆二
石橋 芳山 水野 黒兎
中村 恵 斎藤 隆浩
吉道航太郎 吉道航太郎

高いメロンは仏壇に安置する
椅子のある書店で思春期にもどる
チエゲバラとジャンヌダルクとゲリラ雨
人

何もできなくて静かに側に居る
片岡 加代子

白椿歳を重ねて白く咲く
石橋 芳山

軸 地

暑中見舞い点字覚えてくれたんだ
宇都満知子

眼鏡外すとこんなに老いていた鏡
森中恵美子

川端 六占

おとせわよか

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願ひ
いたします。

編集部

返納は75イヤ80歳

仮免で赤信号を見落として

まだまだがいっぱい眠る本の山

運転して切られた切符何回か

わたくしにどんな老後が待ってるか

コロナより怖い加齢と対峙する

春爛漫いのち奏でている大地

門番は美人だべがな黄泉の国

一日を楽しく生きるのも努め

ザル二枚ベース崩さぬ十二才

一向に減らぬ口紅燃えるゴミ

またひとつ大人になれず歳をとり

ジャンケンボン後出しだつて勝ちは勝ち

桃源郷思い描いて住む自由

脱マスクその気にさせる夏の風

すんまへん少し尻が大きくて

さりげない言葉ひとつ夢くれる

極楽にライン基地局出来たとか

桃源郷に行つても僕は粗衣粗食

気が弱く大きな嘘がつけません

タブリと美しい嘘つくナース

繩文に深い祈りの人間美

満開の桜の下を美魔女行く

鉄棒を忘れたふりの鬼が出た

英子
友二

霞立ち天女三人見え隠れ
桃源郷心に持つた者が勝ち

居酒屋で朝の本気を又忘れ

失つたものを数えて老いていく

差しつ差されつ桃源郷の一丁目

いいもんだ嬉しい時に出る涙

我が夢を孫に託すが将棋だめ

大口で笑えて泣けて良い日です

大阪城買つたるでかいホラ

言葉より本気語ついていた瞳

命生む母性本気の汗ひかる

酒一合ごとの桃源郷

負け男行くに行かれぬ甲子園

追伸の二行本気が滲み出る

喝采はいらぬ愚直な土踏まず

大物は浮子をピクピクなどさせず

ゴキブリが本気でこいと駆けまわる

母の歩に合わせてめぐる花の寺

毎日を軽く生きて恥ずかしい

見送りの発車が遅く間が悪い

慰めの言葉はいらん注いでくれ

泣き顔が少し微笑む豆ごはん

隆一
ゆきみ

捷二

和織

廣光

正彦

千恵子

克己

朝子

賢子

俊雄

満知子

章

宏造

野鶴

千賀

かずお

博

志華子

信子

ルイ子

恭子

曖昧語ませてやんわりお断り

逃げ道を塞いでやんわり迫られる
木漏れ日の影幻想の終日笑つてのカタチに欠けた爪を切る
自我捨てた心やんわりやわらかい泣かないで貴女の笑顔好きだから
屁理屈が新語で領いてしまう長年の遺恨解消した白夜
やんわりと効いております嫁の針まだあるよ少ない髪と好奇心
ビールには柚子味噌かけて冷奴旧知の友打てば響くの気持ちよさ
輝きは研修生の目の光チラシに丸スーパー梯子ああしんど
溜息をいっぱい詰めて出す手紙太陽は輝く炎野心消す
輝きは研修生の目の光ていねいに生きて豊かになる心
夜がしらむ母を見守る花柏素顔でハグ最初で最後読む答辞
閑閑の人に言えない裏事情探しての恩恵多々の移住先
家族よりスマホの画面優先し孫にやる車と共に返納か
和子 惠峰 一文 由夏 武人 高鷺 正信 由子 涼子 章子 欣之 一雄 宏枝 一雄 起世子 俊子 ひろ子 和子 純子 碧 保州 悅男 和美 彦弘 康則 あき子 よしこ 義泰 知香 真智子 俊介

マスク越し会話がはずむ花見客

振る舞いの酒に酔うて花の下
敏捷に子猫反応好奇心実をつけぬ桜は花で勝負する
マスク取り春の香りに酔う花見筋書きになかった広い独り部屋
校門の桜新人生ひとり価値観の違い昭和も遠くなる
定年の息子と歩く花の道飾るもの捨てて枕を高くする
夫より猫の食事に気を遣う社長夫人の名刺を猫につけている
車中からヘルパー付きの花見する天国から来たのかも知れぬ猫といふ
花見して平和な国に感謝する車椅子押す手に感謝して花見
何軒も別荘のあるうちの猫花見してしばし忘れる物価高
花疲れ宴の後の物思い桜子と名付け親には感謝する
暖かくなれば満開桜呼ぶネコ駅長カメラになれボーズする
和雪 義明 心舞

偏差値が足りず極楽ことわられ

向こうから見れば私が檻の中
移る世の浮草になり根は昭和遙に行く靴には羽がついている
返納をいやがる父の横に乗る一度だけ下見をしたい天国を
便箋とベンにこだわるアナログ派ダメ亭主世話女房がついている
段々烟インスタ映えで過疎救う百歳で輝く女腹八分
百歳で輝く女腹八分

優しいが時に厳しい介護職

偏差値が足りず極楽ことわられ

無印になつて軽いに物が言え
悪人は独立もいないゼロ歳児穏やかな日々の幸せ恐くなり
少しだけすらせば見える裏表もたつくも結果よければすべてよし
心ひらいてたまにほっこりしませんかコロナ五類マスク忘れもまあいいか
虫一匹殺さぬ顔で人を食う

実

正博 静恵 惠

喜美子 廣光 雅美

盛夫 雅美

敏美

(川)信子

柳子 選

柳子

宏章

克己

和子

萌

芳光

佳句地十選 (7月号から)

米澤淑子選

(7月号から)

柳子選

柳子選

(酒)

碧

和州選

彦弘選

和美選

勝矢選

常男選

章子選

涼子選

正信選

由子選

ミサイルで飯は食えぬと叫ぶ民
婆さんや叫ばなくとも聞こえるよ
反対と叫ぶと國家反逆罪
ありがとう山ほど叫びさようなら
命をかけて叫ぶこの世の底の底
活気付く浜を荷台に乗せている
浜の波よせ引きはだし童心に
肩の力抜けと浜風頬なでる
ねばりつこらつきよういつもお世話さ
面よりも足裏薄く浜熱い
一等賞になりたく夜の浜走る
ばあちゃんが命吹き込む浜糸
戦車など来ない浜辺で潮干狩り
浜から叫ぶ声海が飲み込んだ
襲名はHOKUTO砂丘と月面と

清子 節紀の治美知江芳光宣子悦子龍紀滋子くにこともこ登美子利子彦司利子彦子博代子孝子孝子正子孝子澄子和子

うどんそば長いめん類何故か好き連勝がどこまで続く聰太棋士子らが消え日の丸が消え進む過疎許してねコロナも恋も変異する手の内を読んで読まれて共白髪おもてなしはもみじ饅頭G7捕えたが始末できず飼うネズミ誤解だが東大出だと言われてるタイガース連戦連勝ホフアン百葉の長と信じてきた誤解又同じコピペを読んでいる総理亡き友の思い出語る怨ぶ会揉め事も母の一声ささがですあと少しだたばたしたい卒寿前初めての老いヘジタバタ医者通い手の内の幸逃げぬようグーが好きふうもん吟社(鳥取) 山下善人でいたいかばちを飲み込んでかばちにも少しの本音わかるかなGサミットかばちも時に天を伐るかばちなど吐いても黒は黒である(かばち)因幡方言で屁理屈のこ核兵器溶かす薬が見つからぬミサイルが奪つた子らの明日の夢

克直樹子之己規弘風純くにおくみ福光隆淳隆たけしひ由正ふ柳訊

ほろほろと酔うて浮世の憂さ流す
欲ひとつ捨てれば核はタダのゴミ
おいてゆく寂しさ消えてゆく記憶
人間の匂いの消える雨のなか
極楽へ落ちる命の砂時計
つまずいたおかげで見えた青い空
笛餅に愛情包むお母さん
句づくりにはまつてしない食べ忘れ
大食いと知らず招いてから慌て
知識とは嘸まずに食べるものらしい
食べて寝るそれだけなのに疲労感
食べることで本能甦る
食べるのが好きだからまだ生きられる
謝罪会見代理人では軽すぎる
代理でも肩書きけば偉い人
サミットは代理が効かぬ顔揃え
父さんがママの代理をするらしい
さよならの手紙代筆まかせられ
代理は代理やはりこの椅子落ち着かぬ
亡き母の代理脱皮のド根性
誠実さ大理なんて言わせない
オイだけで事が足りてゐるお茶が来る
お茶時間妻の大聲となり部屋
お茶濁す事が上手だうちの妻
茶化されて本気になつた恋もある

舞 賢 惇 紫 陽 みゆき
美 知 江 欣 之
千 代 大 月 秋
希 林 子 鐘 旭
真 理 子 由 紀
回 春 子 金 昌
春 人 龍 金
勝 人 鳴 祥
亨 人 哥 由
重 忠 茶 蛙
勝 人 茶 蛙
亨 人 茶 蛙
重 忠 茶 蛙

下戸の意地お茶を濁して消える技
ウーロン茶で酔つた振りする芸達者
許すとは言わず黙つてお茶を出す
夫婦茶碗歴史を刻む半世紀

南大阪川柳会

松岡

篤報

峰明
江
満知子
峰子

柳右子
常男

柳右子
久々の薬師寺めぐりリフレッシュ

瑞枝

悪い癖口軽いのが玉に瑕

致命傷になつてしまつた軽い嘘

勝弘

独裁吼え続ければ身がヤバイ

峰子

番犬を吼えないように飼つてある

美穂

さつそつと足取り軽く趣味の道

昌紀

青春の胸は吼えたい事ばかり

蕉子

居酒屋の隅で吼えてる評論家

恵子

軽口を本気にされて仲たがい

加おり

うろうろと横道それて知る世間

大子

ヒロシマが無言で叫ぶ核廃止

治代

この道と決めて心が軽くなる

弘子

戎橋うろうろすれば気が晴れる

柳伸

弱い人選んで吼える戦争の不条理

俊久

闇バイト軽い気持ちで重い罪

国和

徘徊と呼ぶな行き先ちやんとある

双葉

居酒屋の隅で吼えてる評論家

久

昨日より脳みそ軽くなつてある

敏治

土踏める朝は元気のバロメーター

力

前向きな鎌に大地が救われる

雄大報

広島の折り鶴軽く羽ばたけぬ

三智

猜疑心かき消すよう頬洗う

蕉子

江

余力あるうちに中締め名幹事

和織

連休に納税通知書だけ届く

大子

柳子

実

満腹にまだ別腹という余力

和

核の傘そんな平和を信じない

柳伸

峰子

峰明

引退の美学余力のあるうちに

千鶴子

救おうよブルーリボンが泣いてる

俊雄

柳子

柳右子

瘦せ子犬うろうろうちで飼うことに

千鶴子

ごめんねのメールに返すこちらこそ

双葉

柳伸

常男

デザートの余力残してご馳走さん

千鶴子

生年月日事あるごとに追いつめる

由紀子

前向きな鎌に大地が救われる

瑞枝

余力ない後は女の底力

ルイ子

ごめんねのメールに返すこちらこそ

道春

柳伸

柳右子

充分に夕食食べる明日のため

一歩

暮れいたれが老化の始まりか

鬼一

柳子

柳右子

余力などないが肩なら貸してやる

ダン吉

これがまあ終の棲家かケアハウス

鬼一

柳伸

柳右子

余力まだあると思えば腰ギクリ

楓

果物のデザートが出るケアハウス

重忠

柳伸

柳右子

ピッチャーレの打てるなら打て吼えて投げ

直子

見かけなくなつたバナナの叩き売り

照彦

柳伸

柳右子

雨の日は話す相手は妻とタマ

久直

店頭の果物句を狂わせる

由紀子

柳伸

柳右子

早乙女で歌が弾んだあの昭和

久直

鉢底に蜥蜴陣取る冬の宿

智恵子

柳伸

柳右子

AIで人が余ればどうします

日出子

息子たちマンション暮らし土知らず

風露

柳伸

柳右子

頂点をめざす魂まだ消えぬ

この坂を登りきつたら旗立てる

天辺に立つて私が見えますか

頂点に立つて孤独の味を知る

頂点に落ちていたのは色めがね

望月は欠けぬと思う絶頂期

英会話立派に話しかっこいい

駅舎だけ利用される過疎路線

絵のような理想の家を買いました

絵で遺す凜凜しい親父かっこ良く

偉い人が立派な人と限らない

永遠に理屈じゃないよ介護の手

川柳塔なら

大久保眞澄報

あつさりと巷の咎め馬護切る

犯罪とカメラの闘ぎあう巷

ちまたとは違う鬼面を暴き出す

ちまたには俺の溺れた海がある

ちまたでは流行る言葉がわからない

来た道をつくづく思う子の寝顔

動物園つくづく猿に見つめられ

生きている意味つくづくと思う日も

まだ続いため息ばかり物価高

また詐欺かつくづく弱い女ゲセ

つくづくと海の広さを知る未練

飲んだくれは二次会に誘つてやらぬ

孫に負け老いと衰え知る将棋

つくづく平和自由に政府批判出来

引き際をつくづく思う花筏

幸せのプレゼントです笑みを撒く

百までは仲よくしてと種を撒く

令和でも昭和のネタを撒いてます

ここだけの話と噂撒き散らす

聞きかじりの噂に尾ヒレ付けて撒く

粉々に干切り撒きたい借用証

実を結ぶ汗と努力で撒いた種

笑顔撒く誰かにきつとワープする

鬼は～外家族の笑顔絶えぬよう

核ボタンあの広島に持つてくる

富夫 舞夢 扶美代 進

玄也 恵子

廣子

いさお

万紗子

恭子

江里子

貫一

寅

敬子

敬介

敬

薰

良

寿之

崇明

比呂志

朝子

まさじ

茂子

和夫 史郎 ふりこ

昭

萌子

隆一

貫一

冬のト

英

和夫

厚江

和子

柳明

和

江

雪菜

楓華

朝子

義明

新録

宗鉄

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

帰り際母に手わたす諭吉さん

もう帰ったの妻のあいさつトホホホホ

お帰りも自分で言つて靴をぬぐ

孫帰り嵐の後を片付ける

住む人の性格わかる物干し場

ヤドカリのように身に合う家に住む

3か月住んでなじみのクレープ屋

色々とあつても帰る妻のもと

青虫さん悪いがそこをどいてんか

美人の湯美人になると書いてない

夜勤明けスマホで今日の予定表

スマホ見て会話をかわす遠い国

会議中鳥の囁りカバンから

賢くて便利なスマホ持て余し

充電が切れるスマホもわたくしも

スマホ等無くとも何も困らない

たまにはとスマホ持たぬ日決めよかな

スマホ決裁後ろの人に気を遣い

頬認証いつまでスマホわかるやろ

並ぶ人横目にとらえ予約席

街並みが変わるうめきた工事中

振り返りつらつら思う並でした

子のおごり気遣い鰻丼並にする

良種 正彦 廣健 二

低所得気持ちは並と日々過ごす

スマセント人並以上長生きで

愛があれば並のくらしで良しとする

あっぱれや岡田采配今のこと

五杯飲み五曲歌つたこの辺で

無洗米でも洗わずにいられない

早苗田に銳気の満ちる音を聴く

若竹の天に向つて真つしぐら

残業の人も乗つて終電車

なんとなくからんでみたいい女

なれそめは西日の当たる四畳半

煩惱を袈裟斬りにする流れ星

トランプさんカード切れない罪と罰

克三園子はた目にはちぐはぐだつて共白髪

無事故無違反歳をとつても安全運転

この家は家守が守る古い家

健康に生きる為なら腹八分

キタミナミたそがれ歩く御堂筋

いつの間にか老いた夫の手支えてる

留守番の亡父にお供え栗最中

大義名分揚げて増やす防衛費

A Iが善悪正誤決める世に

タンス預金ちびちび小出し孫にやる

祐康勝弘

万彩

耕治

純

ヨシエ

ゆきみ

正太郎

順子

泰子

やすの

正志

和織

みち

泰子

晶子

八茶

香子

航太郎

あかね

夕胡

里映

修平

小雪

大輪

守りたい人が現れ四股を踏む

川柳花の輪(大阪)

川本 信子報

淳司

丁寧にあなたが言うとこそばゆい

アバウトな私に丁寧求めないで

廃線路ぼうぼうとして過去を絶つ

ぼうぼうとこの庭すきと茂る草

ぼうぼうの海に一点無人島

心意気みすばらしさをオブラーート

みすばらしい破れた障子のぞき穴

紫陽花の褪せた姿のみすばらし

みすばらしい服で出かける訳が有る

丁寧に生きて健康日々感謝

博泉

信子

信子

晶子

八茶

香子

航太郎

あかね

夕胡

里映

深く根をおろしてここに立つ覺悟

しつかりと握つたのは藁だった

あきまへんと言つてしまつ稼いでる

結び目は固く家族と言う絆

私に付けたいリサイクルマーク

免許返納もみじマークを撫ぜてやる

最初から花丸つける一目惚れ

都合よくしつかり者に仕立てられ

あなたのLINEハートマークが多すぎる

もの作りジャパンメイドに誇りあり

カレンダーついてる印何だつけ

ハイキング矢印マーク探す足

六甲川柳会

糀谷 和郎報

— 97 —

わかやま吟社

松原 寿子報

正美 忠志 次郎 崇史

義明 博史 和宏 美恵子

よしこ

ダン吉

あきこ

すみ子

茶柱よ呼んでる妻が若い声

エステとはまみ毛省いて書くものと

すみ子

辯解のちぐはぐ立ち位置をすらし

環状線暇つぶしする逆回り

すみ子

どの道も無駄でなかつた春の海

安心感やつぱり高い紙通帳

すみ子

冷や飯の無駄は後から効いてくる

棘抜いて私好みのバラにする

すみ子

弁解のちぐはぐ立ち位置をすらし

一件落着なんとも美味しい生ビール

すみ子

無駄遣い分かっても親心

浅く掛け耳歌て聞く法話

すみ子

光 富美子

千株で大株主の願をする

すみ子

向かい風受けて踏んばるおんな坂

ヨシエ

あかつき川柳会(大阪)

磯島福貴子報

乙女座を夜空に探し片思い

鉛筆が動けばロマン匂い出す

勝 久

スッピンのあなたが絶品なのですヨ

克 美

軽いのが好かれ世の中ふわふわと

洋次郎

ふるさとの風鈴聞いた電話口

利恵子

省かれて僕にや分らぬギャル会話

千賀子

赤信号盲導犬は座つてゐる

美津子

浅い傷多つて合い共白髪

盛 夫

足が着く深さだほつと胸なでる

猩 猛

派手好きな神が咲かせた春の庭

恭 子

ゴミ出しのルールを見張るカラスたち

利 子

昔話続々は孫に作らせる

紀 乃

すぐ汗になる一杯の水を飲む

利 一

そもそもリストに載つていなかつた

弘 月

飲も誘い断わらないと決めている

猩 宏

ダム破かい憤怒の波は胸を超え

猩 宏

浅からぬご縁と思う雨宿り

猩 宏

すみません破調ですけどよろしくね

猩 宏

ダム破かい憤怒の波は胸を超え

猩 宏

洗濯をされたもの着る有難さ

猩 宏

紙コップで乾杯されて飛ばされる

猩 宏

キヨロキヨロと辺り見渡し取るマスク

猩 宏

万博が日に日に近く楽しみだ

猩 宏

アンパンに詐欺防止書き目を見張る

猩 宏

仕舞い風呂掃除もしろというルール

猩 宏

物価高騰老いに悲鳴が届かない

猩 宏

浅い底流れの嘘はすけて見ええ

猩 宏

梯子酒するうち浮かぶ妻の顔

常 男

盜み酒妻にばれてる赤い顔

ますみ

人肌が欲しくてチンは二十秒

恵

今宵またいつもの席で飲む安堵

英 雄

乾杯はみんな笑顔で恙無し

英 雄

そこからが思い出せない二日酔い

英 雄

ビールなら言うことなしのお中元

英 雄

花いっぱい植えて地球へ恩返し

英 雄

子育てもほつれぬように返し縫い

英 雄

自立した息子上手に鍋返し

英 雄

浅い傷多つて合い共白髪

猩 宏

足が着く深さだほつと胸なでる

猩 宏

派手好きな神が咲かせた春の庭

猩 宏

ゴミ出しのルールを見張るカラスたち

猩 宏

昔話続々は孫に作らせる

猩 宏

すぐ汗になる一杯の水を飲む

猩 宏

そもそもリストに載つていなかつた

猩 宏

飲も誘い断わらないと決めている

猩 宏

ダム破かい憤怒の波は胸を超え

猩 宏

浅からぬご縁と思う雨宿り

猩 宏

すみません破調ですけどよろしくね

猩 宏

ダム破かい憤怒の波は胸を超え

猩 宏

洗濯をされたもの着る有難さ

猩 宏

紙コップで乾杯されて飛ばされる

猩 宏

キヨロキヨロと辺り見渡し取るマスク

猩 宏

万博が日に日に近く楽しみだ

猩 宏

アンパンに詐欺防止書き目を見張る

猩 宏

仕舞い風呂掃除もしろというルール

猩 宏

物価高騰老いに悲鳴が届かない

猩 宏

浅い底流れの嘘はすけて見ええ

猩 宏

朝露で化粧して待つ茄子きゅうり

猩 宏

朝露で化粧して待つ茄子きゅうり

猩 宏

梯子酒するうち浮かぶ妻の顔

勝 久

フルーツサンドの奥で自覚めたプリンセス

常 男

ストレスをいつも溜めてる丸い人

常 男

ストレスをいつも溜めてる丸い人

常 男

満月を見るとヤル気が湧いてくる

常 男

丸顔で怒った顔が通じない

夢に見た母へ借金返せない

契十
久仁子

目に青葉とにかくカツオ食べますよ

翔平が打てばとにかく世は平和

メールより声が聞きたから電話

豊中もくせい川柳会(大阪)初代

正彦報

底抜けの笑いが今の救世主

温暖化地球もきっと不整脈

静と動平均台に載せている

取返しつかぬラインに既読つく

人生の底辺ばかりを綱渡り

呑みこんだ言葉がひとつ胸の底

山頭火もここで見たのか初夏の山

ウクレレ弾きしばし喧騒ちと忘れ

染みるわねアンタと雨の御堂筋

倍返し期待ありありホワイトディ

入院の手続き終えてそぞろ寒

笑えない過去傷口を深くする

今が底思つて買ってまだ下がる

ぞぞぞるとギャル神輿追うカメラライ

家内持つ制御バルブに生かされて

吉野ケ里石蓋返すクニの謎

アナログのままぞろに枯れてゆく

突然の再会声が裏返る

鬼の居ぬ間もなんやかや忙しい

コロナ明け久々の客落ちつかず
飽食を二割減らして削減す

着飾つた夜桜の古都氣もそぞろ
バチンコは球技ですと自慢する

人生に神様の打つ句読点

爽やかな風に誘われ遠回り

Jアラートどこへ逃げたらおしえてよ

脈々と暖簾受け継ぐ細い腕

八十路過ぎそろそろみなに恩返し

気だてのいい体重計に買い換える

咳一つで分かる夫婦のいい絆

城崎のそぞろ歩きや志賀直哉

明日から浮上するため準備中

国破れ青い山脈歌に生き

苦しくて踵返した日の疼き

背伸びした私を試す向い風

肇

川柳塔すみよし(大阪)田中ゆみ子報

縁切寺幹なはからいする仏

傘の重しつかり切つて逢いに行く

シユレッダーベー証拠隠滅共犯者

こつりと教えパワーハラだと言われ

深い愛母が後押ししてくれた

深いしわ魅力となつている齡

髪を切る誰も気付かぬ独り飯

(岩)玲子

正彦

満作

武人

和織

初正彦

勝弘

いさお

一歩

眞澄

則彦

美津子

ひとみ

黒兎

ヨシエ

和郎

眞澄

万紗子

篤

憲彦

芳香

アヤ

とみ子

きづかれぬよう少しずつ切つてゆく
美智子

深緑の中で私が甦る
志津子

針仕事なくて寂しい糸切り歯
佳子

さくら
ばつは

Jアラートどこへ逃げたらおしえてよ
勝弘

いさお

里子

民子

萌

直子

雅美

智子

寿之

福貴子

俊雄

廣子

敏明

ゆみ子

猛

陽一

きづかれぬよう少しずつ切つてゆく
美智子

深緑の中で私が甦る
志津子

針仕事なくて寂しい糸切り歯
佳子

さくら
ばつは

句会名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
西宮北口 川柳会	14日(月) 13時30分締切 席題・毎日・帰る・こわい 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
川 柳 ねやがわ	15日(火) 13時締切 裏口・伏線・覚悟・怪談 自由吟	会場 寝屋川市産業振興センター 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川 柳 さ ん だ	15日(火) 13時 30分締切 適當・深い・ラウンジ・刻む 自由吟	会場 キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1322 三田市すずかけ台3-4-1 E棟804 村田 博
岸 和 田 川 柳 会	19日(土) 14時締切 縄・声・ちゃっかり・チャンス	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川 柳 た ち ば な	19日(土) 13時45分締切 印象吟・闇(互選) 「な」で始まる句・自由句	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川 柳 塔 みちのく	19日(土) 17時締切 熱波・原因・痛々しい	会場 - 未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稻見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 藤 井 寺	20日(日) 14時締切 帰省・ずれる	会場 パーブルホール4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南 大 阪 川 柳 会	21日(月) 14時40分締切 証拠・震える・ストレス・雜詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊 中 もくせい 川 柳 会	21日(月) 14時締切 派手・曲げる・辛い・自由吟	会場 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳 塔 すみよし	26日(土) 14時締切 脇・越す・ブーム	会場 住吉区民ホール集会室4(図書館棟2F) 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和 歌 山 三 幸 川 柳 会	26日(土) 13時15分締切 汗・滝・歩く	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
は び き の 市 民 川 柳 会	27日(日) 14時締切 黒・祈る・ゆらゆら・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鶴」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふ う もん 吟 社	27日(日) 13時から 自由吟・働く・外 似合う・席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

8月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 なら	3日(木) 13時50分締切 線・なるほど・ふくれる	会場 奈良市中部公民館 近鉄奈良駅③番出口徒歩5分 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
城北 川柳会	5日(土) 開場13時 締切14時 難しい・ほどほど・無茶 自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	5日(土) 14時締切 発見・すいすい・自由吟・席題	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉吉 川柳会	5日(土) 14時締切 熱・感・ドン・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川柳塔 まつえ 吟社	5日(土) 13時40分締切 手・流れ・太陽・泣く	会場 雜貨公民館 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
川柳塔 わかやま 吟社	6日(日) 14時10分締切 兼 題=効果・くるり・チェック 課題吟=火	会場 和歌山県JAビル11階 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 帯広市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 葉原道夫
おりひめ☆ ひこぼし 川柳会	7日(月) 消印有効 気長・雲・お月様	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人
ほたる 川柳 同好会	8日(火) 13時30分締切 車、自転車・飾る・ゆっくり	会場 豊中市立螢池公民館 阪急・モノレール螢池 螢池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳塔 さかい	8日(火) 14時締切 ハブニング・滝 折句:へ・ち・ま	会場 東洋ビル2F (堺東駅北改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 斎藤さくら
川柳 あまがさき	8日(火) 14時締切 握る・覚悟(連記)・遠い 自由吟	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
あかつき 川柳会	11日(金) 八・握手・ダイビング・時事吟	会場 大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ谷町六丁目駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
六甲 川柳会	12日(土) 14時締切 席題・凸凹(デコボコ・おうとつ) 薄い・眠る・自由吟	会場 灘区民センター 5階E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎町2-12-5 敏森廣光
川柳塔 打吹	12日(土) 13時30分締切 刃・干す・ぼとぼと・席題	会場 倉吉市上灘町9 上灘コミュニティーセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 川柳塔打吹 事務局

★28日、もろもろの事情により急遽入院（入院は初めてのこと）。

★6月22日（木）朝のこ

と。我が家家の駐車場から「ギヤー」という鳴き声

がして、「猫をひいてしまった」という家内の声が聞こえた。

★見ると、子猫の前足の先が左前輪に挟まつてい

る。車を持ち上げようと

したところ、グギッと音

がして転んでしまつた。

文字どおり這々の体で家

に戻つた。子猫は、近所

の方も手伝つてくれて無

事逃げ去つていつた。

★ぎっくり腰は安静にする

ので二日寝ていたが、痛みはひどくなるばかり。

24日、救急車（初めて乗

せて貰つた）で病院に行きレントゲンを撮つたと

ころ、腰椎が2本骨折して

いた。痛いはずだ。

★26日、装具採寸。

★7月3日、装具装着。

床上安静だつたのが歩行

器歩行（自立）に。

★この号がお手元に届く頃には退院している予定

です。（道夫）

◇小杉健治著の時代小説

『栄次郎江戸暦』を26巻ま

で読んだ。田宮流抜刀術

の達人で、三味線の名手

話焼き次男坊が主人公。

でもある文武二刀流の世

話焼き次男坊が主人公。

須磨に流された在原業平

と海女姉妹との恋物語を

扱つたものである。幕が

開き、三味線の前弾きが

始まり、置眼となる。『松

とて絵島の浦風に』ここ

で汐汲姿の松風が花道か

でござる。三味線を抱え

ここと生まれる ストーリー

いけるんじゃないかな？と錯覚
というか自己満足に浸りたくなり
ます。

こととことことこと

日ごろ五・七・五とやっていて、つい七・七とやつてみたくなることがあります。遊び心が働いて間延びしたなりにストーリーが生まれたりするわけです。一応は短歌でしたものが、当人はちょっとした歌ができたと思って、これは

（三谷松太郎）

て『君は吉野の千本ざくめられ、先日上京した折ら色香よけれどきが多

い』『私しや春雨主や野の花よ濡れるたびごと色

を増す』と色っぽく：

◇一方、御徒目付、町奉見学した。

▲正岡子規が俳句・短歌

の革新に尽力したことは

よく知られている。そし

て川柳の革新にも大きな影

響を与えていたことを

知つた。明治30年代に陸

軍の新兵として川柳中興の

行とのテンポの良い謎解作である。川柳に役立つ井久良伎が入社して「旧

派歌人十余家の自賛歌十

首」を紙上に掲載したと

ころ、病床の子規が激怒

して有名な「歌読みに

◆柄井川柳の「あとで芽

をふけかわやなぎ」は子

規の熱気に当たつて芽を

吹いたらしく

（憲彦）

（国和）

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

きりとりせん

種目「」発表(10月号)地名

市道都
県府姓雅号

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにお願いいたします。

檸 檬 抄 投 句 用 紙

「本 気」(8月15日締切)

10月号発表

川本真理子選 —— 共選 —— 鈴木いさお選

B A

B A

地名

県 市
府 道 都

姓 雅 号

地名

県 市
府 道 都

姓 雅 号

切ら ないで 下さ い

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい

きりとりせん

二賞選考 応募用紙

路郎賞	(川柳塔欄・同人)
川柳塔賞	(水煙抄欄・誌友)

○印を入れてください。

月	月	月	月	月
頁	頁	頁	頁	頁

地名

姓・雅号

締切 8月15日(火)必着

- 下段に掲載月と掲載頁を記載のこと。
- 裏ページの要項を読んで応募してください。

応募要項

① 川柳塔欄・水煙抄欄に六ヶ月以上、出句した人に応募資格を認める。

② 令和四年9月号から令和五年8月号までの自分の入選句から5句を選ぶ

路郎賞——同人は川柳塔欄から応募

川柳塔賞——誌友は水煙抄欄から応募

③ 5句と掲載月、掲載頁を楷書で書き、8月15日(火)必着のこと

④ P78・P79を参考して下さい。

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

紹介者	電話	住所	氏名
○ ○	—	〒 —	
年 月から半年	—		
年 月から一年	—		
5000円			
9800円			
該当の方に○をつけて下さい			

〒543
-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201
川柳塔社 (電話 06-6779-3499)

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

作品募集

11月号 檸檬抄「裂く」
 一路集「スクラム」「かりかり」
 初歩教室「カレンダー」

本社句会欠席投句のお薦め

*幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚
に一句ずつを書き、裏面に題とお名前
を記入のこと。

*投句料1000円（切手不可）。

*句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

本社 8 月句会

投句料	会費	兼題	おはなし	8月10日(木)	13時開場・13時40分締切
10000円(切手不可)		「先達のユーモア句」	「戯う(鬪う)」	「アウェイナ大阪」	天王寺区石ヶ辻町19-12 電06-6772-1441
		「シヨツク」	「遠い」	「葛城の間」	堀尾奏子選
		「責任」	「自由吟」	「長谷川崇明選」	森田旅人選
		「小島幸選」	「古今堂憲彦選」	「内藤蕉子選」	「藤憲彦選」
		(各題2句以内)			

本社9月句会
7日(木)午後1時から
兼題「使う」「ほんやり」
「壊れる」「色々」「自由吟」

川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10

TEL (06) 4800-3018

FAX (06) 4800-3028

メール bikenart@ea.mbn.or.jp

ホームページ <https://www.bikenart.com>

定価 八百円(送料100円)
半 年 分 五 千 円(送料共)
一 年 分 九 千 八 百 円(同)
二〇二三年(令和五年)八月一日発行
発行人 小 島 和 幸
編集人 棣 原 道 夫
印刷所 美 研 ア ト ハ 幸
大阪市天王寺区大道一一四一七
花野ビル201号室
振替 電話(〇六六七九三四九〇番)
〇〇九八〇一九八四七九番
発行所 川 柳 塔 社

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア (ホスピス)
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861
<http://www.yukawa.or.jp>

ヨーキコーコレーションは
川柳塔を応援しています。

匂 箋

川柳塔本社句会と同じ匂
サイズ 4.5cm × 25cm
厚み 90kg

一箱 7000枚入り 代金 5000円 (送料込)

申込先

川柳塔社 電話・FAX 06-6779-3490

※ 到着後、代金を下記の郵便振替口座へお振り込み下さい。

加入者名 川柳塔社

口座番号 00980-4-2948479